

グアテマラ共和国
高原地域先住民等小農生活改善に向けた
農業技術普及体制構築計画

第一次事前評価調査報告書
第二次事前評価調査報告書
実施協議報告書

平成 18 年 10 月
(2006 年)

独立行政法人 国際協力機構

農村開発部

農 村

JR

06-51

序 文

日本国政府は、グアテマラ共和国（以下、「グアテマラ国」）政府からの技術協力の要請に基づき、持続的農村開発にかかる事前評価調査を行うことを決定しました。

これを受けて独立行政法人国際協力機構は、平成17年2月に第一次評価調査団、平成17年12月に第二次評価調査団を派遣しました。調査団は、本プロジェクトの内容、前提条件等についてグアテマラ国政府関係者と協議、調査を行うとともに、カウンターパート及び関係者を集めてワークショップを行いました。ワークショップでは、本プロジェクトに対する各自の役割等共通認識を醸成するとともに、プロジェクト内容案を策定しました。

今般、これら各調査の結果を踏まえ平成18年9月から10月にかけて実施協議を行い、グアテマラ政府との最終協議を経て、R/Dの署名を取り交わしました。その結果、農牧食糧省（MAGA）を実施機関として、「高原地域先住民等小規模農家生活改善に向けた農業技術普及体制構築計画」を5年間にわたり実施することになりました。

本報告書は、これら事前評価調査及び実施協議の結果を取りまとめたものであり、今後の本プロジェクト実施にあたり、広く活用されることを願うものです。

最後に、本調査の実施にあたり、ご協力を頂いたグアテマラ国政府関係機関及び我が国の関係各位に対し、心より感謝の意を表します。

平成18年10月

独立行政法人国際協力事業団
農 村 開 発 部
部 長 松 田 教 男

総目次

序文

総目次

写真

プロジェクト位置図

高原地域の典型農家イメージ

略語一覧表

事前評価調査概要表

| | | |
|----------------------------------|---|----|
| 第一次事前評価調査報告書 | - | 1 |
| 目次 | - | 3 |
| 第1章 事前評価調査の概要 | - | 5 |
| 1 - 1 調査団派遣の経緯 | - | 5 |
| 1 - 2 調査団派遣の目的 | - | 6 |
| 1 - 3 調査団の構成 | - | 6 |
| 1 - 4 調査日程 | - | 7 |
| 1 - 5 主要面談者 | - | 8 |
| 第2章 事前評価調査の内容と結果 | - | 11 |
| 2 - 1 貧困農家の問題点と既存の支援体制（ワークショップ） | - | 11 |
| 2 - 1 - 1 ワークショップの全体目的 | - | 11 |
| 2 - 1 - 2 第1回目ワークショップの内容と結果 | - | 11 |
| 2 - 1 - 3 第2回目ワークショップの内容と結果 | - | 16 |
| 2 - 2 貧困農家生活 / 営農・普及の実態（フィールド調査） | - | 19 |
| 2 - 2 - 1 調査方法・地域・事項 | - | 19 |
| 2 - 2 - 2 調査結果及び考察 | - | 21 |
| 2 - 2 - 3 結論 | - | 30 |
| (1) 貧困農家の生活 | - | 30 |
| (2) 貧困農家の農業技術レベル | - | 31 |
| (3) 貧困農家に対する技術支援（普及）体制 | - | 32 |
| (4) CIALの概況、実施活動、技術レベル | - | 32 |
| (5) 本プロジェクトに求められる点 | - | 34 |
| 2 - 3 農村開発に係る政策と制度 | - | 34 |
| 2 - 3 - 1 農村開発の政策 | - | 34 |
| 2 - 3 - 2 開発審議会制度を中心とする行政の仕組み | - | 35 |
| 2 - 4 ジェンダー / 文化に係る留意点 | - | 37 |
| 2 - 4 - 1 プロジェクト形成段階における留意点 | - | 37 |
| 2 - 4 - 2 プロジェクト実施段階における留意点 | - | 39 |

| | |
|---|-------|
| 第3章 主な協議結果 | - 41 |
| 第4章 今後の方向性 | - 42 |
| 付属資料 | - 45 |
| 1. ミニッツ | - 47 |
| 2. ワークショップ別添資料(別添1~13) | - 61 |
| 3. フィールド調査参考資料(添付1~3) | - 117 |
| 4. グアテマラ立入り禁止区域地図 | - 127 |
| 5. 調査対象市リスト | - 129 |
| 第二次事前評価調査報告書 | - 1 |
| 目次 | - 3 |
| 第1章 第二次事前評価調査団の派遣 | - 5 |
| 1 - 1 調査団派遣の経緯 | - 5 |
| 1 - 2 調査団派遣の目的 | - 5 |
| 1 - 3 調査団の構成 | - 6 |
| 1 - 4 調査日程 | - 6 |
| 1 - 5 主要面談者 | - 7 |
| 第2章 第二次事前評価調査の内容と結果 | - 9 |
| 2 - 1 プロジェクト対象地域の現状 | - 9 |
| 2 - 1 - 1 農業 | - 9 |
| 2 - 1 - 2 農業技術普及 | - 13 |
| 2 - 1 - 3 農村社会 | - 14 |
| 2 - 2 行政的観点からのプロジェクト戦略と留意点 | - 16 |
| 2 - 2 - 1 農業技術普及体制廃止の小規模農民への影響と、 その構築の緊急な必要性 | - 17 |
| 2 - 2 - 2 農業技術普及サービスの提供主体と地方自治体の 役割について | - 17 |
| 2 - 2 - 3 開発審議会制度(COMUDE/COCODE)について | - 18 |
| 2 - 2 - 4 農業技術普及に関する実際の現状 | - 18 |
| 2 - 2 - 5 結論:組織的観点から見たプロジェクトの戦略 | - 19 |
| 2 - 2 - 6 その他の留意点 | - 20 |
| 2 - 3 PCMワークショップ | - 21 |
| 2 - 3 - 1 目的 | - 21 |
| 2 - 3 - 2 方法 | - 22 |
| 2 - 3 - 3 結果 | - 22 |
| 2 - 3 - 4 調査団によるワークショップ結果の検討 | - 27 |

| | |
|---|------|
| 第3章 主な協議結果 | - 30 |
| 3 - 1 プロジェクト名称について | - 30 |
| 3 - 2 プロジェクトの枠組み | - 30 |
| 3 - 3 プロジェクト目標 | - 30 |
| 3 - 4 プロジェクトの実施体制 | - 31 |
| 3 - 5 普及体制構築モデルの全国展開の展望について | - 31 |
| 3 - 6 市・コミュニティレベルのプロジェクトサイトの選定 | - 31 |
| 3 - 7 ローカルコストの負担 | - 32 |
| 3 - 8 今後の流れについて | - 32 |
| 第4章 協力実施にあたっての留意事項 | - 33 |
| 4 - 1 裨益対象者 | - 33 |
| 4 - 2 プロジェクトの拠点 | - 33 |
| 4 - 3 長期専門家について | - 33 |
| 4 - 4 普及体制の構築 | - 33 |
| 4 - 5 グアテマラ国の関連機関 | - 34 |
| 4 - 6 その他 | - 34 |
| 付属資料 | - 37 |
| 1. ミニッツ（西文） | - 39 |
| 2. ミニッツ（日本語簡易和訳） | - 65 |
| 添付1 PCMワークショップ結果 | |
| a) 関係者分析 | - 75 |
| b)-1 問題系図 | - 77 |
| b)-2 目的系図 | - 79 |
| 添付2 技術移転/ニーズ把握の流れ | - 81 |
| 3. 暫定PDM（和文） | - 85 |
| 4. 暫定PO（和文） | - 87 |
| 5. プロジェクト骨子（案）（ワークショップ終了時点での案） | - 89 |
| 6. プロジェクト対象地域の人口、先住民、教育・保健、 インフラ整備状況 | - 91 |
| 実施協議報告書 | - 1 |
| 1 - 1 主要参加者 | - 3 |
| 1 - 2 協議内容 | - 4 |
| 1 - 2 - 1 PDM内容の変更 | - 4 |
| 1 - 2 - 2 その他の合意事項 | - 4 |

| | | |
|--------------|---|----|
| 付属資料 | - | 5 |
| 1. R/D (西文) | - | 7 |
| 2. ミニッツ (西文) | - | 19 |
| 3. R/D (英文) | - | 27 |
| 4. ミニッツ (英文) | - | 39 |
| 5. 参加者リスト | - | 47 |

写 真



高原地域の風景（3月:乾季）



NGOの支援を受けて集落に設置された菜園用ミニハウス



ケツアルテナンゴで実施したワークショップ（第一次評価調査）



街中のマーケットで販売
されている野菜



簡易な貯蔵施設

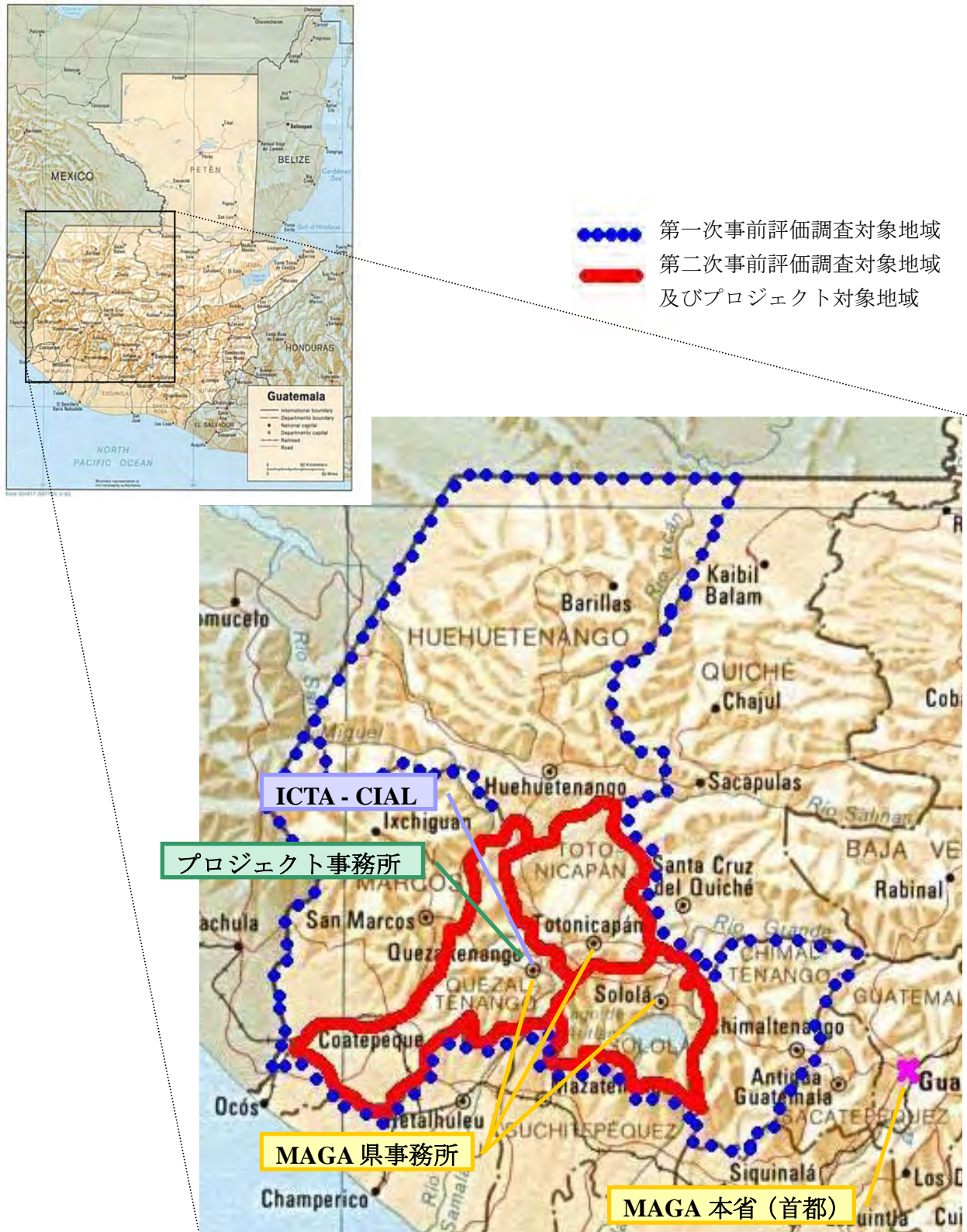


ジャガイモの収穫作業



急勾配な畑の起耕作業

プロジェクト位置図



高原地域の典型農家イメージ



家族数 : 7~8名 (うち農業従事者 2.3名)

主な収入源 : 農業 4,859 ケツツアル/年 (世帯農業粗収入)

農外収入 : 他農家での作業、織物等の手工芸

土地所有面積 : 0.45ha 以下 (殆ど傾斜地)

自給用作物 : トウモロコシ、フリホール豆、コムギ

換金作物 : コーヒー、ジャガイモ、ソラ豆、モモ、アボガド、キャベツ、カリフラワー、トマト、インゲン、リンゴ等

家畜 : 羊、牛、馬、豚、鶏

教育 : 未就学者もしくは小学校中退者がほとんど。

保健衛生 : 医療サービスの不足、医療費の高さが負担。

その他 : 定期的にハリケーンや干ばつの影響を被る。慢性的な水不足。

略 語 表

| 略称 | 西語/英語名称 | 日本語名称 |
|-----------|--|-----------------------|
| AGEXPRONT | Asociación Gremial de Exportadores de Productos No Tradicionales | 非伝統的産物輸出協会 |
| CIAL | Instituto de Ciencia y Tecnología Agrícolas, Centro de Investigación del Altiplano | 農業技術科学庁 高原地域研究センター |
| CEDEPEM | El Centro Experimental para el Desarrollo de la Pequeña y Mediana Empresa Rural | 農村部中小企業開発試験センター |
| COCODE | Consejos Comunitarios de Desarrollo | コミュニティ開発審議会 |
| COMUDE | Consejos Municipales de Desarrollo | 市開発審議会 |
| C/P | Conterparte | カウンターパート |
| DIGESA | Dirección General de Servicios Agrícolas | (農牧食糧省) 農業普及局 |
| DIGESEPE | Dirección General de Servicios Pecuarios | (農牧食傷省) 畜産普及局 |
| FIS | Fondo de inversión Social | 社会投資基金 |
| OG | Organizaciones Gubernamentales | 政府機関 |
| ICTA | Instituto de Ciencia y Tecnología Agrícolas | 農業技術科学庁 |
| IDB | Banco Interamericano de Desarrollo | 米州開発銀行 |
| M/M | Minutes of Meetings | ミニッツ |
| MAGA | Ministerio de Agricultura, Ganaderia y Alimentacion | 農牧食糧省 |
| NGO | Organizaciones No Gubernamentales | 非政府機関 |
| 2KR | | 食糧増産援助 |
| R/D | Record of Discussions | 討議議事録 |
| SCEP | Sub Secretaría para la Descentralización | 大統領府官房庁 |
| SEGEPLAN | | 大統領府企画庁 |

事業事前評価表

1. 案件名

グアテマラ共和国高原地域先住民等小農生活改善に向けた農業技術普及体制構築計画
(略称：小規模農民のための農業普及計画)

2. 協力概要

(1) プロジェクト目標とアウトプットを中心とした概要の記述

本プロジェクトは、グアテマラ国において、山岳・高原地帯に居住し、行政からの農業技術サービスを得られていない先住民を中心とした小規模農民に対し、中央と、地方政府機関や他の関係者間の連携・協力と、農民のエンパワーメントを通じて、トウモロコシ、フリホール豆、ジャガイモ等の栽培改善技術や販売・融資等情報の普及体制の構築を行うものである。

(2) 協力期間：5年間

(3) 協力総額（日本国側）：3億9千万円

(4) 協力相手先機関：農牧食糧省（MAGA）、農業科学技術庁（ICTA）

(5) 国内協力機関：農林水産省

(6) プロジェクト対象地域：ケツアルテナンゴ県、ソロラ県、トトニカパン県

(7) 裨益対象者及び規模

直接裨益者：

- ・モデルコミュニティ 1,000 戸（4,000 人）
- ・周辺コミュニティ 9,000 戸（貧困農民 36,000 人） 計 10,000 戸（4 万人）
- ・MAGA 本省及び MAGA 県事務所 10 人、ICTA 職員及び ICTA 高原地域研究センター職員 12 人
- ・対象 3 県の MAGA 及び MAGA 以外の農業普及担当者 30 人

間接裨益者：

- ・対象 3 県の全貧困農家 10 万戸（40 万人）

3. 協力の必要性・位置付け

(1) 現状及び問題点

グアテマラ国は中米北部に位置しており、国土面積 10 万 9 千 k m^2 （日本国の約 1/3）、人口は 1,263 万人（2004 年）でその内 52% を多民族・多民族の先住民が占めている。1960 年から 36 年間続いた内戦は、20 万人以上の死者を出すとともに、同地域の社会・経済基盤や先住民文化を破壊し、グアテマラ国発展の大きな障害となった。1996 年の内戦終結後、グアテマラ国はその復興に取り組んでいるが、未だに人間開発指数は 177 カ国中 117 位で、グアテマラ国貧困ラインである GNI 568US\$/年以下で生活する人々が全人口の半数以上を占め、その多くは先住民である。

グアテマラ国経済はコーヒー、砂糖等の農産品及び繊維製品の輸出により支えられており、これら輸出品の多くは、海岸部のわずかな平野部で少数の外国資本や大地主によって企業的に栽培されている。農業は GDP の 22.3% を占めるにすぎないが、就業人口 429 万人のうち 45% が従事するグアテマラ国の重要な産業である。

人口の過半数（52 %）占める先住民の多くは、内陸部の高原・山岳地帯に居住し、条件の悪い土地でトウモロコシ、フリホール豆の栽培を中心とした自給自足的な生活を余儀なくされている小規模農民であ

る。また、先住民の76%は貧困ライン以下で生活しており、乳児死亡率(56/1,000)非識字率(49%)も高い。長期に及んだ内戦が、国内の農業生産環境を低下させたことに加えて、1997年にはIDB等の提案による経済構造調整政策に基づき、農業普及サービス部局が廃止されたために、小規模農民には営農技術や農業情報がほとんど届かなくなった。高原・山岳地帯の農業技術研究・開発を担当する農業科学技術庁(ICTA)の高原地域研究センター(CIAL)^{※1}には、自給作物やジャガイモ、野菜(換金作物)等の生産・貯蔵技術があり、小規模農民向け融資制度や流通・商業化に関する情報は、農牧食糧省(以下、「MAGA」)が掌握しているにも拘らず、普及されていないために、小規模農民は、生産性の低い種子の使用、病虫害や不十分な肥培管理に起因する低収量のまま放置されている。他方、小規模農民は農業資材の共同購入や生産物の共同販売といった組織活動を行っておらず、農業情報の不足により資材を安価に購入できない、農業生産物を中間業者に買い叩かれるといった問題を抱えている。こうした状況は、小規模農民が貧困から脱却できずにいる要因の1つである。

このような中、グアテマラ国政府は内陸部の開発を図るため、2002年に開発審議会制度の下で各市・コミュニティのレベルで審議会を設置しており、2004年には「社会・経済再活性化計画」を打ち出し、保健、栄養、教育サービスの質の向上、農村部における生産能力向上等を、民主的なプロセスにより推進しようとしている。

JICAはこれまでに、保健、栄養、教育分野に関しては、小児保健や感染症対策、給水施設改修、理数科教育指導等の協力を行い、有効な成果をあげてきている。また、農業分野に関しては、先住民を含む地域の貧困緩和を目的に、開発調査「中部高原地域貧困緩和持続的農村開発計画」を行い、持続的農業開発計画案を提案し、参加型開発計画手法や教訓を提示した。同調査においては、パイロットエリアにおけるニーズの吸い上げ、技術の実証など一定の成果を示すことができた。しかしながら、グアテマラ国の農業普及制度が廃止されているため、現在のところその成果をパイロットエリアから他地域へ広めることができていない。この点からも、グアテマラ国が蓄積している技術や農業情報を活用し、農村開発を進めるためには、行政側の能力を強化するとともに、行政サービスを上手く活用していけるような自立的農民組織の育成を組み入れた行政-農民間を繋ぐ技術普及体制の再構築が必要である。本プロジェクトにより行政と農民の橋渡しとなる体制が構築されれば、各国のドナーが実施している農業多様化のための試験研究協力(IDB)や灌漑等への資金支援(スペイン)等の支援についても、その成果の普及に貢献することが期待される。

本プロジェクトは、開発調査の対象地域でもあった、トトニカパン県とソロラ県及びケツアルテナンゴ県の3県を対象とするもので、これら3県は、総農家数12万戸で、うち0.7ha以下の小規模農民が10万戸を占める小農集中地域であり、トウモロコシやフリホール豆による自給自足的な農業を営んでいる、グアテマラ国の典型的な貧困地域である。

※1 ICTA 高原地域研究センター(CIAL)：農業科学技術庁の高原地域を担当する支所。高原地域に適した農業技術の研究を実施。

(2) 相手国政府国家政策上の位置付け

ベルシエ大統領が2004年8月に発表した経済再活性化を骨子とした「社会・経済再活性化計画(Vamos Guatemala)」では、貧困層の社会的サービスへのアクセスを可能にし、貧困から脱却することを戦略的コンポーネントの1つとしている。先住民への支援はベルシエ政権の最優先テーマの1つでもある。

また、MAGAの「農業政策 2004-2007年」では、生産性と収入の向上、貧困農民への支援、自然資源

の持続的な活用と管理、官民の様々なアクターの活動や連携を可能にする制度の強化、の4点を優先分野として位置付けている。

本プロジェクトは、官民の多様なアクターの連携を通じ、農民に届く栽培技術や販売・融資等の情報の普及体制を構築することで、主に先住民からなる貧困農民の生計向上に寄与することを目的としており、同国の開発政策と合致している。

また、地方分権化と住民の政治・社会参加を促すために策定された「都市・農村開発審議会法」（2002年2月承認）に基づく開発審議会制度の活用も図ることにしており、この意味でも、同国の開発政策との整合性は高い。

(3) 我が国援助政策との関連、JICA 国別事業実施計画上の位置付け（プログラムにおける位置付け）

2005年7月に現地 ODA タスクフォースが実施した現地経済協力政策協議において、日本国の対グアテマラ国支援重点分野は「農村生活の改善」「持続的な経済開発」及び「民主化定着」の3点とすることでグアテマラ国側と合意した。本プロジェクトは多くの先住民が居住する農村部において、栽培技術や販売・融資等の情報の普及体制構築を通じて農村開発を行うものであり、我が国の援助重点分野に合致している。

4. 協力の枠組み

本プロジェクトは、先住民等小規模農民に対し、農業技術の普及をテーマに様々な関係機関の連携・調整を図り、行政と農民を繋ぐ体制を構築するものである。

この体制構築のために、プロジェクト対象地域において普及活動を担うことができる関係者を普及担当者として特定しつつ、行政、普及担当者、農民それぞれの役割を明確にし、能力強化を行う。具体的には、MAGA県事務所に対し普及計画策定、普及員の配置調整やモニタリング、情報の整理・提供といった管理・調整能力を、普及担当者に対しては、ICTA/CIALの研修により一定レベルの技術知識と普及手法を、農民に対しては、共同活動、組織運営のノウハウを移転する。

本プロジェクトの対象地域は、高原地域の3県であるが、ケツアルテナンゴ県にあるICTA/CIAL 及びMAGA県事務所を拠点とし、①MAGA県職員（12名）及び様々な関係機関の普及担当者（30名）に対して研修を行い、②研修成果を3県のモデルコミュニティ（20コミュニティ）で実践した後、③普及担当者が農民の能力強化に留意しつつ、担当する周辺コミュニティ（全体で180コミュニティ）で活動を行う。普及の効率的展開のために、各コミュニティからは農民リーダーを選定し、普及員から農民リーダーへ、農民リーダーから周辺の農家へと広げていく。

更に、こうして確立される普及体制を提案書としてとりまとめ、他県への展開計画を策定する。実施にあたっては、グアテマラ国の人的・予算的制限と多民族・多様性を考慮し、①MAGA、ICTA/CIALが蓄積している技術・情報の活用、②地域に根付いて活動している団体（NGO・生産者団体等）の活用、③自立した活動を行う農民組織の育成（農民のエンパワーメント）を重視する。

また、プロジェクトの円滑な実施のために、MAGA、ICTA、大統領府官房、経済企画庁等で構成される合同調整委員会を設置し、本プロジェクトの計画や運営管理を行う。現場での諸活動については、CIAL所長、MAGA県事務所、普及担当者等から構成される運営委員会が協議・実行する。

[主な項目]

協力の目標（アウトカム）

(1) 協力終了時の達成目標（プロジェクト目標）と指標・目標値

プロジェクト目標：対象地域において、農業技術（栽培技術^{※2}、販売・融資の情報）の普及体制が確立される。

【指標】普及された農業技術を農民の〇%が活用している。

(2) 協力終了後に達成が期待される目標（上位目標）と指標・目標値

上位目標：プロジェクトで確立した普及体制により対象地域の小規模農民の生計が向上する。

【指標】プロジェクトで確立した普及体制を通じて学んだ技術・知識の活用により販売に回すことのできる余剰作物が〇%増加する。

成果（アウトプット）と活動

成果1：農家のニーズに合わせた普及方針が明確になり、MAGA県事務所及びICTA/CIALの計画策定・調整能力が強化される。

活動1-1：MAGA県職員が、普及事業に係る機関・団体^{※3}（以下、「関係機関・団体」）の協力を得て、農業普及計画を策定する。

活動1-2：MAGA県職員とICTA/CIAL職員が、関係機関・団体の普及担当者（以下、「普及担当者」）を特定し、彼らに対する研修計画（参加型手法、農民組織化、技術普及手法、栽培技術、その他販売・融資等の情報）を策定する。

活動1-3：MAGA県職員とICTA/CIAL職員が、関係機関・団体の協力を得て、研修に必要な教材を作成する。

活動1-4：MAGA県職員とICTA/CIAL職員が、関係機関・団体の協力を得て、普及担当者に対して研修を実施する。

活動1-5：MAGA県職員とICTA/CIAL職員が、普及担当者と協力して、モデルコミュニティを選定する^{※4}。

活動1-6：MAGA県職員とICTA/CIALの職員が普及担当者と調整してモデルコミュニティにて普及対象作物の実証活動、展示活動を実施する。

活動1-7：MAGA県職員とICTA/CIAL職員が、モデルコミュニティ及びモデルコミュニティの経験を基に技術の波及を図る周辺コミュニティにおける普及担当者の実践活動を支援する。

【指標1-1】県の農業普及計画ができています。

【指標1-2】普及担当者が必要としている研修が〇回実施される。

成果2：普及担当者の能力が強化される。

活動2-1：普及担当者が、参加型手法を用いてモデルコミュニティの営農上の問題点やニーズを把握する。

活動2-2：普及担当者が、モデルコミュニティの普及計画を策定する。

活動2-3：普及担当者が、モデルコミュニティにおいて、技術普及に必要な農家の組織化を支援する。

活動2-4：普及担当者が、2-3の農民組織が選定した農民リーダーを通じて、農民組織構成員に農業技術（栽培技術や販売・融資等の情報提供）の指導を行う。

活動2-5：普及担当者が、モデルコミュニティの経験をもとに、周辺コミュニティで活動を展開する。

【指標2-1】普及担当者の普及計画ができている。

【指標2-2】普及担当者の指導に農民の〇%が満足している。

成果3：生産や販売・組織運営に関する農民の能力が強化される。

活動3-1：モデルコミュニティの農民が、普及担当者の支援を得て、技術普及の受け皿となる農民組織を形成する（2-3に同じ）。

活動3-2：モデルコミュニティの農民リーダーが、普及担当者の指導の下、目標とする農業経営を実践する。

活動3-3：モデルコミュニティの農民リーダーが、普及担当者の指導の下、農民組織構成員に対して技術移転を行う（2-4に同じ）。

活動3-4：周辺コミュニティの農家が、普及担当者の指導の下、モデルコミュニティの実践例を見本に、3-1～3-3の活動を実施する（2-5に同じ）。

活動3-5：農民組織が、普及担当者の指導を踏まえ、組織の活動計画（共同集出荷、販売経路の確保、栽培技術や情報の共有等）を策定する。

活動3-6：農民組織が、3-5の計画に基づき、MAGAやICTA/CIAL及び関係機関・団体の協力や支援を受けながら、自立した活動を展開する。

【指標3-1】モデルコミュニティ、周辺コミュニティに〇組織の農民組織が設立される。

【指標3-2】設立された農民組織の活動計画が全て作成されている。

成果4：プロジェクトを通じて確立された普及体制を他県において活用する計画が策定される。

活動4-1：プロジェクトを通じて確立される3県の普及体制とその運用上の留意事項を取りまとめ、MAGA本省に提出する。

活動4-2：合同調整委員会において4-1の提案を議論し、予算の手当も含んだ具体的な活用方法を検討する。

活動4-3：MAGAが、4-2の結果に基づき、他県への展開計画を策定する。

【指標4】普及体制を他県に活用する計画書が作成されている。

※² 栽培技術について、対象作物はトウモロコシ、フリホール豆、ジャガイモ等を想定しており、農民リーダーの展示圃場を活用して普及する予定。

※³ グアテマラ国には公的な普及機関が存在しない。普及事業に関係する機関・団体とは、MAGA、NGO、生産者団体、農業学校、市コミュニティの開発審議会等を指す。

※⁴ 本プロジェクトはモデルコミュニティ、周辺コミュニティの選定に関する技術移転（実態調査、選定基準の設定、コミュニティ間の調整等）をMAGA県事務所とICTA/CIALの職員の能力強化の一活動として位置付けていることから、コミュニティの選定をプロジェクト開始後に実施する。従って、指標についても、コミュニティ選定後に数値を決定する。

(3) 投入（インプット）

1) 日本国側（総額3億9千万円）

長期専門家：チーフアドバイザー×1名×5年、農業普及×1名×5年、
業務調整／参加型開発×1名×5年

短期専門家：2名×1カ月×5回

研修員受入：6名×1カ月

供与機材：車両、OA機器等

現地活動費：展示圃場整備、研修・セミナーの実施、資料/教材作成、ローカルコンサルタント備上等

2) グアテマラ国側

C/P人件費（人材）：MAGA本省・県職員、ICTA/CIAL職員、MAGA普及担当者、NGO・生産者
団体・農業学校・市-コミュニティの開発審議会等の普及担当者

プロジェクト事務所等施設、機材、ローカルコスト

(4) 外部要因（満たされるべき外部条件）

1) 前提条件

・NGO・生産者団体・農業学校・市-コミュニティの開発審議会等MAGA以外の関係組織・団体が普及体制に参加することに合意する。

2) プロジェクト目標達成のための外部条件

- ・中間業者が妨害をしない。
- ・農業普及を重要視するMAGAの方針が変わらない。
- ・カウンターパート及び普及担当者が頻繁に変わらない。

3) 上位目標達成のための外部条件

・アクセス可能なマーケットが存在する。

5. 評価5項目による評価結果

(1) 妥当性

本プロジェクトは、以下の理由から妥当性が高いと判断できる。

- ・グアテマラ国は経済再活性化政策に基づき先住民居住地域を重点に貧困削減に取り組んでいる。またMAGAの政策においても技術移転の強化が農業部門発展の鍵の1つとされており、優先分野「生産性と収入の向上」の活動として、農業技術の開発、実証、普及のシステム作りの振興・支援を行うとしている。
- ・グアテマラ国政府は開発の民主的なプロセスを実現し、事業化における住民の参加を促すことを目的として2002年4月に「都市・地方開発審議会法」を承認し、「開発審議会制度」を定めた。同制度の下では各市・コミュニティのレベルで審議会が設置されている。本プロジェクトでは、体制の構築にあたり、これらの審議会も活用することから、グアテマラ国の民主化推進策とも合致している。
- ・グアテマラ国の農業関係者の間では、普及関連部局の廃止による悪影響が認識されつつあり、MAGAの政策においても普及の重要性が記載されるに至った。このように普及に対して真剣に取り組む気運が高まってきている状況において、我が国が本プロジェクトを通じて1つの行政支援サービス制度のモデ

ルを示すのは絶好のタイミングである。

- ・本プロジェクトは多くの先住民が居住する農村部において農業技術の普及体制構築を行うことで先住民の生計向上に寄与するものであり、我が国の援助重点分野「農村開発」に合致している。

(2) 有効性

本プロジェクトは、以下の理由から有効性が高いと判断される。

- ・小規模農民へ普及すべき技術は既に存在することから、県の農業技術普及を管轄するMAGA 県事務所、MAGA 県事務所と農民を繋ぐ普及担当者、受益者となる農民に対し、それぞれの役割を明確にして、能力を向上させるという成果が達成できれば、農業技術の普及体制が構築されると見込まれる。
- ・MAGA による普及担当者数の大幅な増強が望めない状況の下では、NGO・生産者団体・農業学校・市—コミュニティの開発審議会等も含む様々な関係者を活用して、農業技術の普及を図るのが現実的である。本プロジェクトでは、多様なレベルの関係者を組み込むことを想定しており、それぞれの活動は相互に関連付けられている。既にMAGA は、開発審議会を所管する大統領府企画庁 (SEGEPLAN) との間で、本プロジェクトに関し連携・協力していく協定を結んでいる。
- ・対象県の農民の多くは限られた土地で主に自家消費作物を栽培しているが、生産性が低く、生計維持レベルの農業を営んでいる。病虫害や生理障害等の問題を抱えているが、これらを解決するための技術や知識はほとんど提供されていない。生産性の向上は農民の収入向上に直結することから、適切な技術指導により営農強化を図るアプローチは適切である。

(3) 効率性

本プロジェクトは、以下の理由から効率的な実施が見込める。

- ・本プロジェクトでは、ICTA の既存の技術を活用するため、大規模な投入は無く、低コストで有益な成果が期待できる。
- ・研修に要する資金については、グアテマラ国で使用可能な旧 2KR 見返り資金等を活用することをプロジェクト期間中に検討する予定である。
- ・対象地域は3県であるが、まずはケツアルテナンゴ県の ICTA/CIAL 及びMAGA 県事務所で、同県の普及担当者及びトニカパン県・ソロラ県のMAGA 県職員を集めて研修を行う。研修の成果は普及員から農民組織のリーダーへ、リーダーから組織を構成している農家へと伝えることで、限られた人数で多くの人への伝達することが可能であり、効率的である。

(4) インパクト

本プロジェクトのインパクトは以下のように予測できる。

- ・本プロジェクトは、農業技術をテーマに、様々な関係機関の連携・調整を図り、行政機関と農民を繋ぐ仕組みを構築するものである。構築にあたっては、サービスを提供する側の強化だけでなく、受け手となる農民の自主性の促進という視点を重視しており、このような体制が確立されれば、他県、他地域への応用が可能になることが見込まれる。また他ドナーの成果の普及にも活用することが期待できる。
- ・本プロジェクトの実施において、グアテマラ国が整備・強化を進めている開発審議会制度の活用により、インフラ整備の推進と、ソフト型支援の協調が進み、農村開発により大きなインパクトを与えるこ

とが期待できる。

- ・農業技術の普及によって、農業生産性が上がり、適切な販売が可能となれば、対象地域の小規模農民の生計向上という上位目標を達成することが見込まれ、貧困の軽減、貧困からの脱却という政府方針に寄与する。

(5) 自立発展性

本プロジェクトの自立発展性は、以下のように予測できる。

- ・MAGAは「農業政策2004-2007年」に普及の重要性を明記しており、政策面での自立発展性は高い。しかしながら、現在のところ改めて農業普及サービス部局を復活させる意向は有していない。また財政的制約から、MAGAの普及担当者が今後大幅に増えることも期待できない。そのため、本プロジェクトにおいては、MAGAのみに頼った体制ではなく、これまでに現地で活動を行ってきている民間機関やNGO・生産者団体・農業学校・市-コミュニティの開発審議会などを巻き込んだ体制の確立を目指すことで、プロジェクト終了後もMAGAに大幅な負荷がかからないよう配慮されている。
- ・本プロジェクトでは、ICTA/CIALが既に有している優良種芋や有機物施用といった技術及び開発調査の成果であるジャガイモ貯蔵技術等を活用することとしており、新たな技術の開発を行うものではないことから、当面の技術的な継続性は確保できると予測される。
- ・プロジェクトの研修により育成された普及担当者に対しては、MAGAが公認し、公認普及担当者には各行政機関から優先的に支援を受けられるといった制度の導入も検討する。他方、農民（組織）に対しては、普及担当者の存在（リスト）を知らせる方法を検討し、実践する。これらによりプロジェクト終了後の継続性を図る。

6. 貧困・ジェンダー・環境等への配慮

[貧困]

- ・本プロジェクトは主に先住民を対象とするが、先住民以外の貧困農民も同等の機会が与えられるよう配慮する。

[ジェンダー]

- ・グアテマラ国における農業従事者は一般的に男性が多いことから、プロジェクト実施においては、女性の農民の参加が排除されぬよう配慮が必要である。

[その他]

- ・対象地域においては、スペイン語以外に3つの現地語が使用されている。スペイン語を話さない農民も存在することから、普及担当者はバイリンガル（西語・現地語）であることが求められる。
- ・モデルコミュニティとその他のコミュニティとの間で妬みが生じないようモデルコミュニティ選定の理由をきちんと説明する等の十分な配慮を行う。
- ・人間の安全保障の視点からの、①国からコミュニティレベルに至る様々な関係機関との連携による、より大きな効果、②「政府」「地域社会・住民」双方へのアプローチ、③社会的に弱い立場にある先住民への支援、④農民を含む全ての関係者の能力強化を重視する援助、といった視点を十分に踏まえて展開する。

7. 過去の類似案件からの教訓の活用

- ・先住民は外部の人間に対して警戒心を持っており、プロジェクト関係者が信頼を得るまでには時間がかかる。また、せっかく信頼を得ても、住民の参集を呼びかける際に、女性や一部住民が参加の機会から排除されてしまったために妬みが生じ、住民やグループ間に対立が起こった事例がある（実証調査「中部高原地域貧困緩和持続的農村開発計画」）ことから、プロジェクトの内容や情報、参加の機会を対象地域住民に、公平かつ繰り返し伝えるよう留意する。
- ・「南スラウェシ州貧困対策プロジェクト」では、地元大学と連携することで、行政官、村で活動するファシリテーターを研修する仕組みを構築し、良好な成果を得た。本プロジェクトにおいても農業学校等との連携により、研修内容と実施方法の質の確保や方策に留意する。
- ・「ガーナ灌漑小規模農業振興計画 F/U」では、プロジェクトを成功裏に実施するには、開発の主役である農民が主要な役割を担い、彼らの意思で考え、行動することが必要との提言がなされていることから、本プロジェクトにおいては農民のエンパワーメント、自立的な活動を行う組織の育成を活動に取り込むこととした。

8. 今後の評価計画

| | | | |
|----------|---------------|----------|------|
| 2007年4月頃 | 運営指導調査（計画打合せ） | 2009年4月頃 | 中間評価 |
| 2011年3月頃 | 終了時評価 | 2014年9月頃 | 事後評価 |

添付資料（席上配布）

別添1. プロジェクト位置図

別添2. プロジェクト概念図

別添3. プロジェクト実施体制図

I 第一次事前評価調査報告書

目 次

| | |
|----------------------------------|------|
| 第 1 章 事前評価調査の概要 | - 5 |
| 1 - 1 調査団派遣の経緯 | - 5 |
| 1 - 2 調査団派遣の目的 | - 6 |
| 1 - 3 調査団の構成 | - 6 |
| 1 - 4 調査日程 | - 7 |
| 1 - 5 主要面談者 | - 8 |
| 第 2 章 事前評価調査の内容と結果 | - 11 |
| 2 - 1 貧困農家の問題点と既存の支援体制（ワークショップ） | - 11 |
| 2 - 1 - 1 ワークショップの全体目的 | - 11 |
| 2 - 1 - 2 第 1 回目ワークショップの内容と結果 | - 11 |
| 2 - 1 - 3 第 2 回目ワークショップの内容と結果 | - 16 |
| 2 - 2 貧困農家生活 / 営農・普及の実態（フィールド調査） | - 19 |
| 2 - 2 - 1 調査方法・地域・事項 | - 19 |
| 2 - 2 - 2 調査結果及び考察 | - 21 |
| 2 - 2 - 3 結論 | - 30 |
| (1) 貧困農家の生活 | - 30 |
| (2) 貧困農家の農業技術レベル | - 31 |
| (3) 貧困農家に対する技術支援（普及）体制 | - 32 |
| (4) CIAL の概況、実施活動、技術レベル | - 32 |
| (5) 本プロジェクトに求められる点 | - 34 |
| 2 - 3 農村開発に係る政策と制度 | - 34 |
| 2 - 3 - 1 農村開発の政策 | - 34 |
| 2 - 3 - 2 開発審議会制度を中心とする行政の仕組み | - 35 |
| 2 - 4 ジェンダー / 文化に係る留意点 | - 37 |
| 2 - 4 - 1 プロジェクト形成段階における留意点 | - 37 |
| 2 - 4 - 2 プロジェクト実施段階における留意点 | - 39 |
| 第 3 章 主な協議結果 | - 41 |
| 第 4 章 今後の方向性 | - 42 |

| | |
|-------------------------|-------|
| 付属資料 | - 45 |
| 1. ミニッツ | - 47 |
| 2. ワークショップ別添資料（別添 1～13） | - 61 |
| 3. フィールド調査参考資料（添付 1～3） | - 117 |
| 4. グアテマラ立入り禁止区域地図 | - 127 |
| 5. 調査対象市リスト | - 129 |

第1章 事前評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯

グアテマラ共和国（以下、「グアテマラ国」）では、マヤ系先住民族が居住するグアテマラ国西北部を中心に36年に及ぶ政府と反政府ゲリラ組織との内戦が行われ、1996年に和平合意が締結された。内戦終結後、グアテマラ国人口（1,080万人）の半数以上である600万人が貧困ライン¹（568US\$/年）以下で生活する状態にあり、更に全人口の6割を占める先住民族においては、7割以上が貧困層に属するといわれている。このような状況に対して、グアテマラ国の前政権（2001年～2004年）は先住民の貧困削減に取り組むため、2001年に「貧困削減戦略ペーパー（PRSP）」を発表した。同ペーパーは、地方の先住民族居住地域を重点地域とした公平な経済成長の達成、人的資源への投資及びインフラへの投資の3点を基本戦略と位置付けており、「市町村別貧困削減戦略」及び「各県別貧困削減戦略」が策定された。しかしながら、前政権の汚職は国民の政治不信や社会不安を増長させ、上記の戦略は成果を得るに至らなかった。現在、グアテマラ国ではマクロ経済指標が中米3位でありながら、人間開発指数・ジェンダー開発指数が共に中米最下位に位置付けられている。このことは、地域間格差や不平等な所得の分配・社会参加の機会といった、グアテマラ国の貧困の特徴を表している。

一方で、独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）をはじめとする援助機関は、貧困先住民族を対象とする開発調査や開発プロジェクトを実施してきた。しかし、グアテマラ国政府のプロジェクト実施能力の不足、国内治安の悪化、裨益の偏りによるねたみや対立等の影響から、援助の効果は低く留まっていることが認識されている。1999年から2003年にJICAが協力した開発調査「中部高原貧困緩和持続的農村開発計画」及びその実証調査においても、コミュニティの政治・社会的要因がプロジェクト進行の重大な阻害要因となった経緯がある。また、同調査は貧困先住民の生活改善を主眼に置いた小規模パイロットプロジェクトの実施を通じ、参加型開発手法の確立と有効性の確認を行ったが、カウンターパート（以下、「C/P」）機関における頻繁な人事異動の影響を受けており、今後は同手法の活用や普及が求められる。

上記開発／実証調査の終了後、農牧食糧省（MAGA）は当該地域の貧困削減を目的とする技術協力プロジェクトの実施を、日本国政府に要請した。当初の要望調査では、MAGA 県事務所と NGO の連携により、貧困先住民を対象とする各種生活、小規模農業技術の研修と普及を目的としていた。しかし、追って提出された正式要請においては、MAGA の研究機関である農業科学技術庁（ICTA）の研究者に小規模農業技術を移転し、彼らを通じて、貧困先住民に農業技術の普及を図る案件へと内容が変更されていた。本要請を受けて、JICA は 2004 年 10 月に同案件に係る情報収集を目的とする業

¹ 「貧困」の定義：12ケツアル（174円）/1日で生活する人々（必要最低限のサービスを受ける費用）
「極貧」の定義：5.31ケツアル（77円）/1日で生活する人々（必要最低限の栄養を摂取する費用）
「ENCOVI 2000：Perfil de Pobreza Guatemala」国家統計局（INE）2000年3月
1ケツアル＝14.5円（2006年4月現在）

務出張を行った。その結果、ICTAには案件の核となる農業普及の仕組みが存在しないこと、また、同機関の人員・予算規模を勘案すると、プロジェクト終了後における研修コスト負担の重さや、自立発展性の低さが懸念されることが確認された。従って、今後の案件の形成においては、当初要請された協力の枠組みと規模に対し、C/P機関の能力を考慮した再構成を加えることが不可欠となった。具体的には、まず貧困先住民の生活の実態に基づいた幅広いニーズを把握すると同時に、住民の多様なニーズに対応する事業推進体として、市との連携の可能性も視野に入れ、プロジェクトの枠組みを検討するものである。

係る状況の下、JICAは本件を単なる農業技術の移転ではなく、貧困層の真のニーズに応える貧困削減案件として位置付け、その枠組みを検討する目的で事前評価調査を実施した。

1-2 調査団派遣の目的

- (1) 想定されるプロジェクトの方向性、枠組み、概要、実施体制について、JICA側の基本的方針を先方政府に説明し、相手側の意向を確認する。
- (2) これまでの調査において把握されている中部高原地域の典型的な農家世帯の生活の問題点を確認する。
- (3) ワークショップ（第1回目）を通じて、既存の貧困農家支援制度、支援体制、関連機関の実態を把握する。
- (4) ワークショップ（第2回目）を通じて、関係者・関係機関の間でプロジェクトの目的に対する共通認識を得るとともに、各機関の役割、協力の方法、プロジェクトの到達目標を設定する。
- (5) ワークショップの結果、想定されるプロジェクトの方向性について関係者の共通の認識を確認する。
- (6) 今回の調査で整理し切れなかった事項に関して、今後の調査項目をまとめる。
- (7) 農業分野技術、栽培、普及の実態調査を農民の視点から行う。
- (8) 調査の結果を踏まえ、評価5項目の観点から事前評価を実施する。
- (9) 要請元である農牧食糧省との合意に至らない場合、協議内容とワークショップ内容を記載した文書を先方に提出する。

1-3 調査団の構成

| 担 当 | 氏 名 | 所 属 / 役 職 |
|--------------|-------|---------------------------|
| 団長 / 総括 | 野口 京香 | JICA 農村開発部 第二グループ 第二チーム長 |
| 栽培 / 普及 | 柚木 快夫 | 元 JICA 専門家 |
| 評価分析 | 野口 純子 | 国際開発高等教育機構 (FASID) 事業部 主任 |
| 協力企画 / ジェンダー | 大久保泰江 | JICA 農村開発部 ジュニア専門員 |

1-4 調査日程

2005年2月28日(月)～3月23日(水)(24日間)

- ・総括は、2005年3月6日(日)～3月14日(水)(9日間)
- ・評価分析、協力企画/ジェンダーは、2005年2月28日(月)～3月16日(水)(17日間)

| 月日 | 日程 | | 宿泊地 | |
|----|--|---|--------------------------------------|--------------|
| | 【a】栽培/普及 【b】評価分析 【c】協力企画 / ジェンダー | 【d】団長/総括 | | |
| 1 | 2/28(月) | 17:30 成田発 17:35 メキシコシティ着 | メキシコ シティ | |
| 2 | 3/1(火) | 13:55 メキシコシティ発 15:40 グアテマラシティ 16:30 JICA グアテマラ事務所 打合せ | | グアテマラ シティ |
| 3 | 3/2(水) | 9:00 MAGA(本部)表敬訪問・ 協議 →ケツアルテナンゴ着 ワークショップ準備 | | ケツアルテナ ンゴ |
| 4 | 3/3(木) | 9:00-16:00 第1回目ワークショ ップ(参加者)対象地域住民、 | | ケツアルテナ ンゴ |
| 5 | 3/4(金) | MAGA、ICTA、FIS、MSPAS、 MINEDUC 各事務所の地域事務所 員、NGO、REINSA、COCODE等 | | ケツアルテナ ンゴ |
| 6 | 3/5(土) | 【a,b,c】フィールド調査 | | ケツアルテナ ンゴ |
| 7 | 3/6(日) | 【b】追加調査 | 【a,c】グアテ マラシティ 【b】ケツアル テナンゴ | |
| | | 【a,c】追加調査 →グアテマラシテ ィ着 | | |
| 8 | 3/7(月) | 【a,c】資料整理 | 【a,c】グアテ マラシティ 【b】ケツアル テナンゴ | |
| | | 17:05 成田発 13:45 ヒューストン着 | | |
| | | 9:35 ヒューストン発 12:23 グアテマラシティ着 | | |
| | | 14:00 JICA グアテマラ事務所打合せ 15:30 在グアテマラ日本国大使館表敬訪問 17:00 SEGEPLAN 表敬訪問・協議 | | |
| 9 | 3/8(火) | 9:00 MAGA/ICTA 表敬訪問・協議 13:00 MINEDUC 表敬訪問・協議 14:00 MSPAS 表敬訪問・協議 16:00 FIS 表敬訪問・協議 PM: →グアテ マラシティ着 | グアテマラ シティ | |
| 10 | 3/9(水) | 9:00-14:00 第2回目ワークショップ(参加者)MAGA、ICTA、FIS、 MSPAS、MINEDUC 各本部の職員、NGO、REINSA 等 | グアテマラ シティ | |
| 11 | 3/10(木) | 関係者との協議 ミニッツ(案)作成 | グアテマラ シティ | |
| 12 | 3/11(金) | 9:00 ミニッツ(案)協議/作成 14:00 ミニッツ締結 16:00 INFORPRESS 訪問 | グアテマラ シティ | |
| 13 | 3/12(土) | 在グアテマラ日本国大使館及び JICA 事務所報告準備 | グアテマラ シティ | |
| 14 | 3/13(日) | 資料整理 | グアテマラ シティ | |
| 15 | 3/14(月) | 10:30 在グアテマラ日本国大使館表敬・報告 11:30 JICA グアテマラ事務所報告 | 【a】ケツアル テナンゴ | |

| | | | | | | |
|----|----------|---|--|---|--------------------|---------------------|
| | | 【a】 ケツアルテナンゴ周辺にて追加調査 | 【b,c】 16:35 グアテマラ発 18:30 メキシコシティ着 | 【d】 13:20 グアテマラ発 14:30 マナグア着 | | |
| 16 | 3/15 (火) | | 9:05 メキシコシティ発 | | | |
| 17 | 3/16 (水) | | 17:05 成田着 | 17:15 マナグア発 22:25 ロスアンジェルス着 | | |
| 18 | 3/17 (木) | | / | 11:40 ロスアンジェルス発 | | |
| 19 | 3/18 (金) | | | 16:25 成田着 | | |
| 20 | 3/19 (土) | | | | | |
| 21 | 3/20 (日) | →グアテマラシティ着 資料整理 | | | | 【a】 グアテマラシティ |
| 22 | 3/21 (月) | 16:35 グアテマラシティ着 18:30 メキシコシティ着 | | | 【a】 メキシコシティ | |
| 23 | 3/22 (火) | 9:05 メキシコシティ発 | | | 【a】 機内泊 | |
| 24 | 3/23 (水) | 17:05 成田着 | | | | |

1-5 主要面談者

【グアテマラ国側関係者】

(1) 農牧食糧省 (MAGA)

Ricardo Santacruz Rubi

食糧副大臣

Armando Maldonado

プロジェクト調整・海外協力・信託局副局長

Anabella Osorio

情報戦略担当

Eduardo Cifuentes Morales

MAGA ケツアルテナンゴ事務所長

Danilo Gonzales

プロジェクト支援担当

(2) 農牧科学技術庁 (ICTA)

Julio Rufino Salazar

ジェネラルダイレクター

Julio Antonio Franco Riviera

CIAL (ケツアルテナンゴ試験場) 技術振興・支援担当

Tomás Silvestre Garcia

CIAL 場長

(3) 教育省 (MINEDUC)

Roben Nolberto Chaven Dufaul

学校外教育局長

Gerber Chávez

学校外教育副局長

Julio Wilson García

プログラム・プロジェクト調整

- (4) 厚生省 (MINSAL)
 Edwin Asturias 国際協力局長
 Ligia Vargas 国際協力局次長
- (5) 企画庁 (SEGEPLAN)
 Juan Antonio Flores 国際協力副局長
 Leticia Ramirez 国際協力相談官
- (6) 社会投資基金 (FIS)
 Julio Galcía Gálvez 理事長
 Jaime Enrique Reyes Barrios 融資部長
 Marma Sagastume García 国際協力部長
 Efran Catalan 計画部長
- (7) ケツアルテナンゴ県ケツアルテナンゴ市庁舎
 Miguel Angel Gramajo Tucux 社会基礎サービス部アシスタント
 Branlio Hernandez 市開発審議会 (Zona 5)
 Zaila Marina Vaquilez 市開発審議会 (Zona 5)
 G.Arturo Rodriguez Moina コミュニティ開発審議会 (Solidalidad)
 Buenaventura Oliverio de Leon Soto コミュニティ開発審議会 (Solidalidad)
- (8) Tierra VIVA (NGO)
 Alma Odette Chacon コーディネーター／代表
 Esmeralda Alfaro プロジェクトコーディネーター
- (9) ケツアルテナンゴ県サンフアンオスタンカルコ市エデン集落
 サンフアンオスタンカルコ Papicultores 協会のメンバー約 15 名
 その他の女性 3 名
- (10) ケツアルテナンゴ県サンマルティンサカステペケ市リンコン集落
 リンコン集落 Papicultores 協会のメンバー約 20 名
 その他の女性 1 名

*ワークショップの参加者については、別添 1 を参照

【日本国側関係者】

- (1) 在グアテマラ日本国大使館
 四之宮 平佑 特命全権大使
 小杉 清隆 一等書記官

(2) 農牧食糧省

宮川 弘

個別派遣専門家

(3) JICA グアテマラ駐在員事務所

宿野部 雅美

所長

松井 恒

企画調査員（本プロジェクト担当）

横島 賢太郎

ボランティア調整員

藤野 晴美

所員

第2章 事前評価調査の内容と結果

2-1 貧困農家の問題点と既存の支援体制（ワークショップ）

2-1-1 ワークショップの全体目的

本調査では2回のワークショップを実施した。全体の目的としては、グアテマラ国における農村開発プロジェクトの可能性を見出すことであったため、第1回目のワークショップは「現場」に近い参加者が集まり、「現在、農家や農村の状況はどのようになっているか、農村開発の支援体制や関係機関の連携体制はどのようになっているか」についての情報を抽出することを目的とした。第2回目のワークショップでは、「政策レベル」に近い者が主要な参加者となり、最初のワークショップの結果を共有した上で、「農村開発プロジェクトはどのように展開し得るか」について情報収集や意見交換が行われた。2度にわたるワークショップの詳細は以下の通りである。

2-1-2 第1回目ワークショップの内容と結果

(1) 実施概要

最初のワークショップは平成17年3月3日と4日の2日間、ケツアルテナンゴ市で開催された。参加者はMAGA及びICTAの技術者の他に、ケツアルテナンゴ県教育省や保健省の技術者が参加した。また、同県以外にも、ソロラ、ウエウエテナンゴ、サンマルコス、ソロラ、トトニカパンの各県から生産者組織や開発審議村落委員会の代表者らが延べ人数で約100名参加した（別添1）。ワークショップの目的は「中部高原地域における貧困農家の支援体制と関連組織の連携についての現況を把握する」ことであり、そのために以下の作業を行った。

ワークショップの進行方法はまず、参加者は基本的に所属組織別に議論・作業を行い、その結果を全体で共有し、最後に全体で質疑応答・議論を行う、という形を取った。ワークショップの議論・作業はスペイン語で進行した。生産者組織の代表でキチェ語またはマム語を話す参加者には通訳が付いた。

(2) ワークショップの作業結果

広く浅い情報収集・分析であったが、上記の目的は、概ね果たされたと考える。ワークショップは以下6セッション（作業）から構成された。それぞれのセッションのねらいと結果は次の通りである。

セッション1：貧困農家が抱える問題点の確認

セッションのねらいは「貧困農家またはコミュニティが抱える問題の多様性が確認される」ことであった。ワークショップ参加者各自が「貧困削減」や「農村開発（desarrollo rural）」をどのように理解しているかを共有し、JICAがこれまで実施した各種調査の報告書で指摘された問題点（事前に作成した問題系図：別添

2) を見て、コメントを行った。

作業の結果、農家の抱える問題は農業を中心としつつも、多様であることが確認された。貧困削減や農村開発とは何かとの問いに対して、次のような意見が出された。

- 農業が発展する。
- 農業や他産業の生産性が上がる。
- 貧困には経済的、社会的、政治的要因がある。
- 教育や保健へのアクセスがある。
- 福祉のサービスがある。
- 持続性 (sostenibilidad) が重要である。
- 農村開発は住民のエンパワーメント (empoderamiento) である。

作成済みの問題系図に対しての特段の補足や修正は無かった。上記と同様なコメントが出された。

セッション 2：関係機関の農家支援／農村開発への関わりーその 1

農村開発に関係する組織の概要を把握することを目的として、参加者がそれぞれ所属する組織の名称、組織構成、役割・事業、予算源を書き出した。

【アウトプット】 農村開発に関連する組織の概要表（別添 3）

【要点】

- 生産者組織や NGO が独自の資金や外部からの支援を受けて、多岐にわたる活動を実施している。
- 農民への技術支援は行政サービスよりも、社会系基金によるプロジェクトや生産者組織の中で行われる場合が多い²。MAGA/ICTA は農家への直接的な技術普及を現在行っていない。
- FIS、FUNDAP、生産者組織 (Ajitikonel、ASOMAN、Movimiento Tzuk Kim Pop、Asociación de Agricultores de Tinecos、Asociación de Fluticuotores 等) には普及員またはプロモーターがいる。

セッション 3：関係機関の農家支援／農村開発への関わりーその 2

このセッションは、農村開発に関係する組織の強みと弱みを把握することをねらいとした。参加者の組織同士で類似するものがグループを作り、グループ毎にそれぞれの組織が持つ強みと弱みを書き出した。

【アウトプット】 農村開発に関連する組織の強みと弱みの表（別添 4）

【要点】

- 大半の組織は人材に自信がある。

² MAGA は一部の市に農業リーダー (Guia Agrícola) を配置している。ICTA は生産者組織に対して、契約ベースで技術支援を行っている。ただし、対象地域は限定されている。

- 法的制度は準備されている。しかし、完全な執行までには至っていない。
- 多くの組織に共通した弱みとして、人員や予算不足が挙げられている。

セッション 4：関係機関の農家支援／農村開発への関わりーその 3

このセッションは農村開発に関連する組織がコミュニティとどのように関わりを持っているかを明らかにすることであった。参加者の所属組織がそれぞれコミュニティでどのような活動を行っているか、その際に、組織の誰が対応し、コミュニティの誰が対応しているのかを書き出した。

【アウトプット】農村開発に関連する組織のコミュニティでの活動状況表（内容・主体・頻度）（別添 5）

【要点】農村開発に関連する組織の活動内容・主体・頻度は極めて多種多様である。

セッション 5：関係機関の農家支援／農村開発に関わる組織間の連携

農村開発に関わる組織が他の組織とどのように連携しているか、その現状を把握するために、参加者が他のどの組織とどのような内容で協働しているかを書き出した。

【アウトプット】1)各組織間の連携全体像（別添 6）、2)農村開発に関連する組織の連携状況の全体像がまとめられた（別添 7）。

【要点】

- 各組織が多数の他の組織と様々な形で協働しているが、協働の目的・内容に関わらず、「連携」という言葉が頻繁に、時に曖昧に使われている。
- 現在行われている連携の全体像は非常に複雑である。
- 参加者の多数が、連携は機能していないと考えている。「機能していない」要因は以下の通り。
 1. 組織を超えて全体の調整（coordinación integral）が行われていない。
 2. 調整役の組織が県レベルに無い。
 3. 農村開発の政策が無い。農村開発が何を指すのか、複数の組織が共通したビジョンを共有していない。
 4. 組織間での計画（planificación interinstitucional）が十分に行われていない。
 5. 結果として複数の組織が同じことをしている。
 6. 皆が参加出来る連携となっていない（コミュニティの声が反映されていない）。
 7. 官僚主義がはびこっている。
- 開発審議会システム³が軸として機能し、村落開発審議会（COCODE）がその

³ コミュニティに近い立場から、村落開発審議会、市開発審議会、県開発審議会、地域開発審議会、国家開発審議会と続く。

中心的役割を担う必要性・可能性が議論された。多く出された意見は次の通り。

1. 複数の機関が活動する状況で、コミュニティもしくは **COCODE** が他機関とのパイプ役を担えるのではないだろうか。
2. コミュニティもしくは **COCODE** を監督する機関は、県知事もしくは県開発審議会 (**CODEDE**) になると考えられる。

● このセッションのまとめとして、農村開発を目的とした組織間の連携を機能させるための提言が出された（別添 8）。ポイントは以下の通り。

1. 開発審議会システムが軸として機能し、**COCODE** がその中心的役割を担う必要性が議論された後の作業であったので、**COCODE** や **COMUDE** のキャパシティー・ディベロップメントに関連する意見が多く出された。
2. 情報の流れや共有がスムーズに行われるべきという声も共通して多かった。
3. **MAGA** と **ICTA** からは、開発審議会へより積極的に参加し得る、という意見が出された。
4. 「他から何を期待するかではなく、自分たちは何が出来るか？」を考慮してもらおうと頼んだが、「自分たちはこうあるべき、ありたい」という内容が少なくなかった。長期的に対応可能と考えるものが書かれていた。

セッション 6：農村開発プロジェクトが直面する問題と対応策

最後のセッションのねらいは、過去の農村開発に関連するプロジェクトが効果的に行われなかった問題点を振り返り、その対応策を考えることであった。手順としては、ファシリテーターから **JICA** が過去にグアテマラ国で実施したプロジェクトで指摘された問題点の内、持続性の低さと全員参加の難しさについて簡単な説明を行い、参加者がこれについて自由に議論した。

【アウトプット】プロジェクトの持続性を高め、より多くの住民が参加するためのアイデア

【要点】

- コミュニティによる (*por la comunidad*) プロジェクト実施である。
- 住民のニーズに基づいたプロジェクトが計画される。
- 住民がエンパワーメントされることで、オーナーシップ (*apropiación*) を持つ。
- 持続性を環境面、経済面、社会面等様々な分野から検討する。
- プロジェクト終了後も何らかのフォロー (*seguimiento*) が行われる（誰によってとの問いには、コミュニティ自身もしくは別のプロジェクトによって、とのことであった）。
- ベースラインを明確にし、活動計画を策定する。
- 総合的な (*integral*) プロジェクトである。
- 農村開発はプロジェクトではなく、プロセスであるという意識を持つ。
- 即興で (*improvisión*) 計画を作らない。

また、将来のプロジェクトでより多くの住民が参加・裨益するプロジェクトを計画するために必要なこととして、次のようなアイデアが出された。

- プロジェクトの内容はコミュニティによって優先付けされる。
- コミュニティ内には軋轢がいろいろあるが、それを避けるために良いリーダーを選ぶ。
- フィージビリティの高いプロジェクトを探す。
- 全員へ連絡（promoción）が行き届いている。
- 意思決定を民主的に行う（＝意見や文化等々の多様性が尊重される）。
- コミュニティの住民が意識化する。
- 全員が参加するための農地がある。
- 多様性の把握のために十分に検討される。
- 少なくとも半分の普及員/技術者がマヤの言語を話す。
- 多くの住民が参加することで持続性も高まる。

(3) ワークショップのプロセス

ワークショップはセクター、規模、歴史、コミュニティへの近さ等において大きく異なる組織が集まった大所帯となった。初日午前は硬い雰囲気があったが、議論や作業を経るにつれて、自由に発言できる雰囲気となった。以下、その具体例である。

1. 政府機関、開発審議会、NGO と比べて静かであった生産者組織の代表者が徐々に発言数を増した。セッション 5 及び 6 では、これまでの農村開発事業において、コミュニティの意見がいかに軽視されてきたか、また、今後はコミュニティ主導の開発／発展を進めたいという意見が切々と語られた。
2. 全体での質疑応答・議論の際、最初はファシリテーターが 1 人の参加者に問いかけ、答えを得て、またファシリテーターが別の参加者に問いかける、という双方向のインターアクションであったが、途中から、1 人の参加者の発言に別の参加者が次々と反応する他方向のインターアクションとなった。
3. 生産者組織のグループは、キチュとマムの人々が混じっていた。それぞれの通訳が当初よくリードしていたことにも起因すると思われるが、途中からは、参加者の一人が進行役となり、役割を順に分担し、活発にまた効率的に作業を進めていた。

短い時間にたくさんの内容を詰め込むワークショップとなってしまったが、大半の参加者は集中力がほとんど途切れることなく、作業に取り組んでいた。一部の参加者は所用があったためか、席を離れることがまれにあった。予定以上に作業の時間がかかったため、全体で作業内容を十分共有する時間が無く、小グループで共有するのみとなったセッションが多かった。

なお、ワークショップ終了時に、参加者からワークショップの時間、場所、準備、構成、ファシリテーターの進行、参加者選定、目的の理解、学び、楽しさについてアンケートを行った（別添 9）。参加者からの評価は概して高かった

と言える。これらの 9 項目の内、時間と場所以外の 7 項目において、8 割以上の参加者からプラスの評価を得た。時間については「短い」と答えた参加者が 3 割いた。場所については 2 割強が「狭い」と答えた。ワークショップから学びがあったと回答した人は約 9 割いた。大半が、ワークショップの内容を改めて認識したということであった。

2-1-3 第 2 回目ワークショップの内容と結果

(1) 実施概要

全体ワークショップは平成 17 年 3 月 9 日に、首都グアテマラシティで開催された。参加者は MAGA 及び ICTA の本庁及び県事務所職員、基金系団体職員の他、農村開発プロジェクトで実績のある民間コンサルタント会社や NGO からの代表者も参加した（計 29 名）（別添 10）。ワークショップでは、事前ワークショップの結果に基づいて、「農村開発プロジェクトにどの様に取り組むべきかについて意見交換・議論を行うこと」を目的とした。

ワークショップの進行方法はまず、参加者は基本的に所属組織別に議論・作業を行い、その結果を全体で共有し、最後に全体で質疑応答・議論を行う、という形を取った。ワークショップの議論・作業はスペイン語で進行した。

(2) ワークショップの作業結果

ワークショップは 4 つのセッション（作業）から構成された。それぞれのセッションのねらいと結果は次の通りである。なお、作業の前に、第 1 回目ワークショップの結果概要がファシリテーターから説明された。

セッション 1：農村開発のイメージ合わせ

様々な所属・立場の参加者が「農村開発とは何か？」のイメージを議論し、共通の認識を持つことを目的として、参加者は 4 つのグループに分かれ（各グループは 6～7 名）、「農村開発（desarrollo rural）とは何か？」または「発展した農村（comunidad rural desarrollada）とは何か？」について議論した。続いて、全員の議論により、グループ作業結果の共通点を探した。

【アウトプット】「農村開発」と「発展した農村」についての共通認識（別添 11）

【要点】

- 農村開発が何を意味するか、何を指すのかは参加者の所属・立場により様々であり、完全に統一した定義を作ることは難しい。
- 共通しているのは、社会・生産インフラの充実に加えて、食糧・健康・教育・衛生・水・雇用（収入）等へのアクセスが保障されているということ。
- また、アクセスだけでなく、組織化やエンパワーメントを通じた個人の発展も重要な要素である。
- 生産の多様性・収入向上という語句が使われていたが、農業等の 1 セクターに限った議論は行われなかった。

セッション2：農村開発におけるコミュニティ及び開発審議会の役割

このセッションでは、コミュニティと開発審議会が農村開発において担うべき役割を把握することを目的として、参加者がグループに分かれて議論した。

議論の結果として、コミュニティと開発審議会の3レベル（村・市・県）が、農村開発において担うべき役割がまとめられた（別添 12）。ポイントは以下の通り。

- コミュニティと村落開発審議会、また、レベル別の開発審議会の間において、重複する役割が多い。
- 開発審議会の役割は「開発審議会法」に詳述されているが、改めて役割を考える必要があるという意見があった（作業にあたって、同法を参照する必要があるかとのファシリテーターからの問いに対して）。
- コミュニティ、開発審議会ともに組織強化の必要性が高い（紙に書き出された役割のほぼ全てが、強化する必要があると指摘された）。
- コミュニティ、開発審議会の役割の強化について、支援できると答えた組織は多数ある。

セッション3：農村開発に関連する関係機関の役割・機能

農村開発の関係組織が農村開発において担うべき役割を把握するため、参加者はセッション2と同様に、「発展した農村」を実現するために、関係する組織はどのような役割を担うべきかについて所属組織別に議論し、結果は全体で共有した。

議論の結果は政府機関と NGO がそれぞれ農村開発において担うべき役割がまとめられた（別添 13）。組織が果たすべき役割はそれぞれに異なっており、非常に多様であることがわかる。関係組織の連携の重要性・必要性が確認され、プロジェクトの実施機関に限らず、他の参加者（組織）からも、農村開発プロジェクトを支援したいという声が多く挙げられた。

セッション4：農村開発における生産プロジェクトの案

将来実現されるプロジェクトの中で、対象コミュニティで実施される「農村開発を目的とした生産プロジェクト」（ミニプロジェクト）の候補としてどのような内容が考えられるか、参加者の経験に基づき、全体で議論された。なお、現時点では、プロジェクトが実施される地域は特定されておらず、この作業はアイディアのブレインストーミングであることが強調された。

生産プロジェクトのニーズ・考え方・内容に関しての議論のポイントは以下の通りである。

- 食糧安全保障を確保するようなものであること
- 農業や牧畜業に関するもの
- 養鶏（avícola）に関するもの
- 手工芸品（artesanias）に関するもの
- 集出荷センターの機能強化
- アグロ・ツーリズム（turismo comunitario）

- 薬用植物栽培やその販売
- 農産加工等の手工業
- 生産から販売までのチェーンを強化する取組み

(3) プロジェクトにおける JICA の協力量針・可能性・制約要因の説明

上記目的を果たすための実質的な作業に取り掛かる前に、本ワークショップ実施に至った経緯と、JICA の農村開発プロジェクトに関する方針が野口団長より説明された。説明のポイントは以下の通り。

- MAGA より小規模農家支援のためのプロジェクト協力要請が上げられた。
- 農家支援・農村開発プロジェクトについて、JICA は特に以下の 2 点を重要視している。
 - 1) 組織改編の結果、農業開発から農村開発へと焦点が広がった。農業という一セクターだけではなく、複合的アプローチが必要である。
 - 2) 安全保障の観点から、行政機関の農業技術者への技術移転に留まらず、農民が直接裨益するプロジェクト実施が必要である。

また、ワークショップ作業中に、野口団長からプロジェクト実施に係る条件や、JICA による協力の形態について説明がなされた。説明のポイントは以下の通りである。

- JICA のプロジェクトは資金協力ではなく、人を通じた技術協力である。
- 必要な分野において、長期専門家や短期専門家を派遣できる。ただし、スペイン語を話せる人材かどうかは確約できない。
- 農村開発のプロジェクトは多様なアプローチが求められるが、農業が活動の中心になると思われる。農業技術や農家の生活に関連した他セクターの問題にも対処できるが、保健や教育の問題を主として扱う社会開発系のプロジェクトとは成り難い。保健については、ケツアルテナンゴ県で JICA のプロジェクトが開始されたばかりである。
- プロジェクトでは、農村開発審議会を中心とした仕組みの強化だけでなく、コミュニティレベルの強化として、ミニプロジェクトを実施してはどうかと考えている。ミニプロジェクトは、インフラ基盤を整備するものではなく、何らかの生産性を高めるプロジェクト (proyectos productivos) が想定される。
- 対象地域は中部高原地域であるが、具体的な市や村は今後選定する (JICA 事務所の安全対策クラークより、JICA 関係者の活動できる範囲が説明された)。
- 協力の期間は 3~5 年を予定している。

(4) ワークショップのプロセス

全体ワークショップは事前ワークショップと比べ、小さな集まりであった。参加者は農村開発・農業開発・農村調査・ジェンダーの実務者であり、短時間ではあったが、集中した議論が行われた。

プロジェクトの内容・対象地域は未定であるが、MAGA や ICTA、市町村が主要な実施機関となる想定で議論が進んだため、それ以外の組織からの参加者

の中には、自分に対してどのような意図でワークショップ参加が求められているのかを疑問に感じた者もいた。これについては農村開発に関する情報収集が主な目的であること、プロジェクトの内容によっては連携をお願いする可能性があることを説明した。MAGA や ICTA 以外の参加者からも、自分も何らかの形でプロジェクトに参加協力したいという声は多く寄せられた。第三者的立場からアドバイザー・コミッティーのようなものを作ることで関与したい、という意見も出された。

2-2 貧困農家生活／営農・普及の実態（フィールド調査）

2-2-1 調査方法・地域・事項

(1) 調査方法

時間的な制約から、統計的な手法に則った部分（標本）調査は不可能であり、個別（事例）調査とした。事例研究により集約的な質的観察を試みた。問題解決のための調査としての観点から農家の抱える問題点に焦点をあてた。また、サンプル数が少ない上に有意抽出となることから、標高の違う集落を選定し、営農形態の違う農家を選び、女性を出来るだけ対象とするといった層化抽出の考えを取り入れた。

基本的には、中部高原各地の農家集落を訪問し集団聴取を行い、次に個別農家に対し質問表をベースにしたインタビューを行った（添付 1）。最後に、実際の農家圃場、住居を訪問し、目で観察を行った。

上記質問表の一部は、MAGA 各県事務所の技術者が別途個別農家に対しインタビューを行い、記入を行った。

(2) 調査対象地域

一般にグアテマラ国の中部高原地域と言え、東からアルタ・ベラパス県、バハ・ベラパス県、チマルテナンゴ県、ソロラ県、トトニカパン県、ケツアルテナンゴ県、キチェ県、ウエウエテナンゴ県、サン・マルコス県の計 9 県における標高 1,500m 以上の地域を指すが、将来のプロジェクトのベースとして考えられるのがケツアルテナンゴ市であるため、遠隔地にあるアルタ・ベラパス県、バハ・ベラパス県をまず外した。キチェ県もかなりの距離があり、かつ全県が JICA の指定する立ち入り禁止地域であったため除外した。また、チマルテナンゴ県は首都近郊の野菜生産地として農業条件に恵まれており、貧困率も他県と比較して高くないことから除外した。残り 5 県で JICA の指定する立ち入り禁止地域を除く、ケツアルテナンゴ市から日帰り可能な範囲内において、異なる標高、営農形態を有する農家集落訪問のアレンジを MAGA（農牧食糧省）に依頼した。

実際には、約 1 週間でケツアルテナンゴ県 4 市 4 集落、サン・マルコス県 2 市 2 集落、ウエウエテナンゴ県 1 市 2 集落、トトニカパン県 2 市 2 集落、ソロラ県 1 市 2 集落、計 5 県 10 市 12 集落の訪問調査を行った（添付 2）。質問表を用いた個別農家に対するインタビューでは、ケツアルテナンゴ県 6 市 8 集落 11

農家、サン・マルコス県 2 市 3 集落 6 農家、ウエウエテナンゴ県 1 市 3 集落 6 農家、トトニカパン県 2 市 5 集落 12 農家、計 4 県 11 市 19 集落の 35 農家から回答を得た。今回の調査で対象としたのは土地所有面積 7ha 以下の「小規模農家」であったが、その中でも土地所有面積 1ha 以下の灌水施設を有さない農家を「貧困農家」とする。

(3) 調査事項

農家集落における集団聴取では、主に集落の概要（標高、人口、家屋戸数）、主要農産物、平均的な農家の土地所有面積、農家グループの有無、活動内容、女性の参加状況、COCODE（コミュニティ開発審議会）の有無、COCODE と農家グループ、COMUDE（市開発審議会）、市役所等との関係、政府機関、NGO 等によるプロジェクトの有無、技術支援の有無、集落が抱える農業、生活上の問題点、国内移動民の有無、米国への出稼ぎの有無、その人数、日本国の協力に望むこと、その他について質問を行った。

質問表を用いた個別調査では、以下について農家 1 人当たり 20 分以上かけて詳細に調査した。

1. 農家氏名、性別、年齢、最終学歴、家族構成等の基礎情報
2. 土地所有、土地利用、土地特性
3. 作付け作物（飼養家畜）、作付面積（飼養頭数）、生産量、販売額
4. 販売方法、販売先
5. 借り入れ金
6. 農外収入
7. 農業施設
8. 農業機械、農具
9. 農業技術上の問題点
10. 技術支援
11. 農家経営上の問題点
12. 生活上の問題点
13. 営農発展意欲
14. 組織化の必要性、組織加入
15. 集落の発展
16. その他意見等（日本国の協力に求めること）

また農家圃場の見学では、栽培作目の確認、耕種法、栽培管理状況、病虫害の発生状況等の調査を行った。農家住居の見学では、建築材料、炊事施設、サウナ、便所、家具、生活用具、電気製品等の確認調査を行った。電気、水道の有無についても確認を行った。

2-2-2 調査結果及び考察

(1) 集団聴取結果

調査対象 12 集落の標高は 1,700m～3,000m の標高に位置した。人口は集落によって 72 名～約 5,000 名、戸数も 22 戸～約 800 戸まで大きな差があった。これは市レベル以下の行政単位がはっきりしないことに起因する。通常市レベルの下には村 (Aldea) が来る。ここには村長 (Alcalde auxiliar)、COCODE (コミュニティ開発委員会) が存在し、一応は行政単位として機能している。村の下には地区 (Paraje)、小集落 (Caserío) 等が存在するが、場所によって呼び方が変わったり、全く使わないケースもあるようで不確定である。集落を訪問し質問を行う際に「コミュニティ」(Comunidad) という言葉を使うので、農家自身も若干混乱したようであった。彼らを感じる「コミュニティ」の範囲を尊重する意味で、村、地区、小集落全て当てはまる日本語として「集落」をこの報告では用いる。

主要農産物は標高や灌漑設備の有無によって大きく変わる。標高 2,200m、2,300m 以下で、谷沿いの灌漑設備のある地域では野菜の周年生産が可能である。場所によって降霜 (ケツアルテナンゴ等の盆地) の心配もあるので一概には言えないが、ジャガイモ、ソラ豆、タマネギ、ニンジン、キャベツ、ブロッコリー、エンドウ豆等の栽培が盛んだった。調査で訪問した集落では見られなかったが、2,000m 前後のチマルテナンゴ県、ケツアルテナンゴ県の Almoronga 市、Zunil 市等ではレタス等の葉野菜栽培も盛んである。灌漑施設の無い集落では、一転雨季作のトウモロコシ、フリホール豆等の基礎穀物栽培、若干の温帯、亜熱帯果樹 (リンゴ、モモ、アボガド、柑橘等) 栽培が変わった。2,000m 以上の地域ではほとんどの地域で雨季作のジャガイモが作られている。標高が上がり 2,500m 以上の高地になるとジャガイモの他に小麦が入り、3,000m 近くになるとエンバク、羊等が経営の中に入ってくる。

平均的な土地所有面積は 5～20cuerda⁴であり、いずれにしてもかなり狭かった。

集落には、必ずと言って良いほど生産者組織、住民組織、灌漑組織、女性グループ等が存在した。中には実質的な活動を行っていないグループもあるが、外部から支援の受け皿ということも含めて組織化の重要性は理解されているようであった。活動内容が多かったのは、植林、テラス造成、有機肥料作成等の環境保全、土壌保全活動であった。こういう活動が外部からの支援を受けやすいということもあるが、集落の住民自身も森林伐採によって引き起こされる土壌流亡、浸食の現実に直面して、危機意識を持っているようであった。女性のグループ活動への参加は思った以上に多かった。我々の集落訪問時に集まった農民達の中の女性の割合は大きく男性を上回っていた。女性の方が危機意識を持っているようであった。男性は乾季の農閑期でもあり、気持ちが緩んでいるのかもしれない。我々が聞き取りを行った際には昼間であるにも関わらず、酒

⁴ Cuerda : 1cuerda=437 m²、5cuerda=2,185 m²、20cuerda=8,740 m²

臭い男性が数名確認された。

COCODE は我々が訪問した全ての集落でその存在が確認された。しかしながら、まだ十分にその機能を果たしていないようであった。唯一トトニカパン県、Santa María Chiquimula 市、Xebe 集落の COCODE だけは住民のニーズを取りまとめ、市に対する事業申請を行い、COMUDE の事業に対する順位付けにより、保健ポスト建設の計画が採択されたのを確認できた。本集落への訪問時には、どこで聞き及んだのか市長代理、トトニカパン県知事も駆けつけた。COCODE、COMUDE、CODEDE までの開発審議会システムのモデルを確立するには、トトニカパン県、Santa María Chiquimula 市、Xebe 集落のラインが有望と思われる。

我々の訪問した集落の幾つかで、現在政府機関もしくは NGO によって実施されているプロジェクトを確認できた。サンマルコス県、Ixchiguán 市、San Antonio 集落で FODESAR という NGO が植林やパン作りの指導を行っている。ウエウエテナンゴ県、Aguacatán 市、Los Cifuentes 集落では CISP というイタリアの NGO が菜園用ハウス、雨水集水タンク、改良カマド、改良便所、ジャガイモ種芋貯蔵、羊肉加工、森林保護等、農村開発に係る様々なプロジェクトを実施している。ウエウエテナンゴ県、Aguacatán 市、Climentro 集落の農協では、MAGA がオランダの支援を受けて実施している PROCUCH（天然資源持続的管理プロジェクト）⁵より 4 名の農業技術者が派遣されている。

農業技術支援に関して上述の NGO、農協を除いては、1 カ月に 1 回程度の不定期な指導が少し行われている程度で、どこの集落でもほとんど開催されていないのが実情である。

各集落が抱える農業、生活上の問題点の一番は水不足の問題である。灌水用の水はもちろんのこと、尾根上に位置する集落は生活用水にもこと欠いている。ほとんどの集落で水道は設置されているのだが、根本的な水量や水圧等の問題で、1 週間に 1 度程度しか水が来ない。次に生産技術の不足からくる低収量、低品質、生産物の低価格、食糧不足からくる栄養不良、集落に農業以外の仕事が無いことから働けず、現金収入の不足、生産資材価格の上昇等が続く。水と食糧、お金、どれも人が生きていく上で不可欠なものばかりである。

国内移動民、米国への出稼ぎはほとんどの集落で確認されなかったが、サン・マルコス県、Comitancillo 市、Agua Tibia 集落からだけは、コーヒーの収穫時（12 月～2 月）に多くの農民が南海岸へと続く傾斜地のコーヒー園へ働きに出る。ウエウエテナンゴ県、Aguacatán 市、Los Cifuentes 集落からは、小さい集落であるにも関わらず 40 名近くの米国向け出稼ぎ者が出ている。Agua Tibia 集落は農家 1 戸当りの土地の所有面積が狭く、Los Cifuentes 集落は標高が高く自然条件が厳しいという状況にある。

⁵ オランダの支援で 2000 年～2005 年の 5 年間の予定で実施されている森林保全、植林プロジェクト、予算規模 700 万 US\$

(2) 個別農家インタビュー結果

1. 基礎情報

インタビュー対象農民(計35名)の男女構成は、男27名、女8名であった。なお、女性の農民は特に女性戸主である訳ではない。年齢は22才～68才(平均39.7才)、その内訳は20代9名、30代10名、40代8名、50代5名、60代3名であった。学歴は未就学～教員養成高校まで幅広いが、半分程度は未就学であるようだ⁶。学校へ行けた者の中でも小学校中退者が多く、卒業者は一部に限られていた。中等教育以上の教育を受けたものは僅か2名であった(内1名は通信教育で中学を修了)。家族人数は3名～12名で、一番多かったのは7、8名程度の家族であった(平均7.5名)。この内農業従事者数は1～7名で、多くは4名以下の少人数で作業を行っていた(平均2.3名)。雇用労働に関して、常時雇用を行っている農家は2戸のみだった。他に播種期、収穫期等の農繁期に限り雇用を行う農家が5戸あったが、残りの農家は家族労働のみの農業を行っている。

2. 土地所有、土地利用、土地特性

農家の土地所有面積は1cuerda～150cuerdaであった。ウエウエテナンゴ県で100cuerda以上の土地を所有する2農家を除くと、平均10.5cuerdaであった。なお、全く土地を持たない土地無し農民は存在するようだが、本インタビュー調査では確認できなかった。

上記ウエウエテナンゴ県の2農家の土地利用は、耕作地面積はごく一部で、大部分が森林となっていた。しかし、その他の農家の所有地のほとんどは耕作地のみであり、中でも基礎穀物、野菜を中心とする短期作物の圃場に占められていた。

対象農家の所有地の大部分は傾斜地で、平坦地はごく僅かであった。土性は基本的に火山性のものであるが、砂から粘土まで多岐にわたった。

3. 作付け作物(飼養家畜)、作付面積(飼養頭数)、生産量、販売額

農家における作付け作物の中で最も多かったのはトウモロコシであった。ジャガイモ専門作農家、高地集落の農家を除く29戸(35戸中)で栽培が行われていた。1戸当りの栽培面積は1cuerda～22cuerda(平均6.9cuerda)で、単収は0.3qq～6.0qq⁷/cuerda(平均1.7qq/cuerda)であった。29戸中12戸のトウモロコシ栽培はフリホール豆他との同時播種による混作⁸であった。トウモロコシ栽培の大部分は自家消費を目的としたものだった。

次に多かったのがフリホール豆で、16戸で栽培が行われていた。1戸当りの栽培面積は1cuerda～10cuerda(平均4.9cuerda)、単収は0.2qq～2.0qq/cuerda(平

⁶ 事前に準備した質問表に本項目を設けていなかったため、全ての対象者から返答を得ることができなかった。

⁷ Qq: 1qq (quintal) = 46kg、6.0qq/cuerdaは稀に見る高収量である。おそらく回答間違いだと思われる。

⁸ トウモロコシとフリホール豆の混作以外にソラ豆、ジャガイモ等との混作も見られた。

均 0.5qq/cuerda)であった。フリホール豆栽培もトウモロコシと同様にほとんどの農家で自家消費を目的としていた。

次いでジャガイモで、15戸で栽培が行われていた。1戸当りの栽培面積は2cuerda～30cuerda（平均 6.2cuerda）、単収は 2.5qq～28.0qq/cuerda（平均 15.9qq/cuerda）であった。ジャガイモはトウモロコシ、フルホール豆等の基礎穀物とは違い、明らかに販売を目的とした換金作物であった。販売単価は 25～125Q⁹/qq（平均 46.7Q/qq）と変動があり、特にサン・マルコス県、ウエウエテナンゴ県等の遠隔地においてジャガイモの販売価格は低かった（30Q/qq 前後）。これは仲買人に買い叩かれている以外に、グアテマラ国における主要品種である Lóman が 3,000m 近い高地では栽培不可能で、芋品質の悪い在来品種に依存していることにもよる。トトニカパン県においては全くジャガイモの作付けが確認できなかった。標高が若干低く、ジャガイモ栽培適地ではないという事実はあるが、調査対象地域は遠隔地かつ文盲率が高く、その農業が未だに自給基礎穀物の栽培のみに留まっている事実も看過できない。その他に自家消費費用の小麦、換金作物としてのソラ豆、モモ、アボガド、キャベツ、カリフラワー、トマト、インゲン、リンゴ、飼料作物としてエンバク、飼養家畜として羊、牛、馬、豚、鶏等が見られた。

ジャガイモ以外の農畜産物の販売価格を列挙すると、トウモロコシ 90～100Q/qq、フリホール豆 200Q/qq¹⁰、小麦 100Q/qq、ソラ豆 250～300Q/qq、モモ 50Q/100 果、アボガド 75Q/100 果、キャベツ 9～20Q/ダース、カリフラワー 0.8Q/花蕾、トマト 100Q/qq、インゲン 75～100Q/qq、リンゴ 25Q/qq、エンバク 100Q/qq、羊 300～400 Q/qq、牛（乳用牛）1,800～3,000Q/qq、馬（農耕用）2,500Q/qq、豚 600Q/qq である。

1戸当りの農業粗収入は 0～97,800Q/年（平均 4,859Q/年）であった。農業粗収入額による分類を行うと、全く農業による収入の無い農家 14 戸、0Q/年以上 5,000Q/年未満 15 戸、5,000Q/年以上 10,000Q/年未満 3 戸、10,000Q/年以上 20,000Q/年未満 2 戸、10 万 Q/年に近い農家が 1 戸となった。10,000Q(1333US\$)/年¹¹未満の全 32 戸に関しては、自家消費費用の穀物が十分に確保されていたとしても、農業のみで生計を維持して行くことが非常に難しい層であると考えられる。

インタビュー調査を通して、5cuerda 前後の耕地面積では基礎穀物の自家消費分も十分にまかなえないことが判断できる。家族人数にもよるが、基礎穀物の自給を達成するには 10cuerda 以上、農業である程度生計を維持する為には 20cuerda 以上必要であると考えられる。灌漑設備があれば 5cuerda でもやり方によっては生計の維持が可能だと考えられる。

⁹ Q : 1Q (Quetzal、ケッツアル) = 約 14 円、1US\$ = 7.5Q (平成 17 年 3 月現在)

¹⁰ トウモロコシ、フリホール豆等の基礎穀物は価格変動が少ない。

¹¹ この内 50%程度は生産コストになると考えられる。

4. 販売方法、販売先

自家消費のみの農家 14 戸を除いた 21 戸の農業生産物の販売方法は仲買人 21 件（70%）、小売人 2 件（7%）、直売 7 件¹²（23%）となった。販売先は基本的に近隣の農産物の集積地や市場に持ち込むケースが多い。直売では庭先販売やローカルマーケットにおける販売が見られた。

5. 借り入れ金

35 戸中 10 戸が作付け資金、その他の借り入れを行っていた。借り入れ金額は 1,500～80,000Q（平均 4,422Q¹³）であった。借り入れの目的は 1 件を除いて営農、作付け資金としてのものであった。借り入れ元は個人（近隣の農家）2 件、ローカル NGO 4 件、農協 4 件で、年利息は 7～36%/年であった。前述の集団聴取の結果、平均的な借り入れ利息は年 20%前後のようである。

6. 農外収入

35 戸中 19 戸で農外収入が確認された。その内訳は他農家での作業 7 件、織物 4 件、農協もしくは NGO での勤務 2 件、左官 2 件、運転手 1 件、小学校教師 1 件、商店経営 1 件、米国からの仕送り 1 件であった。収入額としては 200～20,000Q¹⁴/年（平均 8,944Q）であった。農協、NGO、小学校での勤務等が比較的収入が良く 10,000～20,000Q/年であったのに対し、他農家での作業は 200～4,800Q と低く留まった。ちなみに聞き取りの結果、他農家での作業日当は 20～40Q/日である。

7. 農業施設

家畜舎、倉庫等を除いてほとんどの農家に農業施設は存在しないが、ケツアルテナンゴ県、San Martín Sacatepequez 市、El Rincon 集落の 2 農家にスプリンクラー灌漑設備が確認された。ウエウエテナンゴ県、Aguacatán 市、Los Cifuentes 集落、El Salvador 集落の 3 農家では、イタリア国の NGO の支援による菜園用ミニハウス、雨水集水用のタンク等が見られた。

8. 農業機械、農具

農業機械と言えるものは全く所有していなかった。唯一ケツアルテナンゴ県、San Martín Sacatepequez 市、El Rincon 集落の 1 農家がピックアップトラックを所有していたが、農機とは呼べない。農具の所有も非常にシンプルで、大部分の農家は鍬、山刀、斧、鎌程度を所有しているに過ぎない。農家にとって必需品であるはずの手動噴霧器も 11 農家が所有するに留まった。手動噴霧器（4galón¹⁵容量）の価格は最低 30～40US\$程度と考えられ、現金収入の無い自

¹² 複数の販売先、販売方法を持つ農家は複数回カウントした。

¹³ 80,000Q の借り入れ金を負う農家 1 戸を除く平均

¹⁴ 米国からの仕送り額については回答を得られず不明。

¹⁵ Galon : 1galón=約 4.5L

給的農家にとっては高額なものだと言える。手動噴霧器を持っていない農家は近隣農家から借りるのが一般的だが、一部には薬剤散布を行っていない農家もいるようだ。農業を営む上で鋤、山刀、斧、鎌以外に最低限手動噴霧器、一輪車、スコップ（シャベル）等は準備する必要があると思われる。特にトトニカパン県の全ての農家は手動噴霧器を持っていない。基礎穀物中心の営農を行っていて薬剤散布の必要性は比較的少ないが、やはり必要である。

9. 農業技術上の問題点

農業技術上の問題点として一番に病虫害による被害が挙げられた。病害ではジャガイモのウィルス病、疫病、立ち枯病、黒脚病等、虫害では各作物の共通害虫としてネキリムシ、アブラムシ、トウモロコシではアワノメイガ、フリホール豆ではカメムシ等の被害が指摘された。次に生理障害としてリンゴやモモ等の温帯果樹の花落ち、落果、腐敗果の発生、家畜飼育では乾季の餌不足、在来家畜種の増体不足等の問題が述べられた。また技術上の問題ではなく、結果としての低収量、低品質、低乳量、低増体重等、更に、自然、気候条件の問題として凍霜害、雨季期間中の旱魃（カニクラ）等の問題が挙げられた。

質問を行った農家の大部分は農業技術支援を受けておらず、教育レベルも低かったこともあり、作物の病虫害や生理障害等について診断能力を有しておらず、また対処法についても十分に分からない様であった。

10. 技術支援

政府機関、NGO、農協他による農業技術支援について、11 農家は何かしらの技術指導を受けているとの回答を行った。しかしながら、週 1 回程度の頻度で指導を受けている農家は僅か 2 戸だけで、いずれもウエウエテナンゴ県 Aguacatán 市 Los Cifuentes 集落の農家であり、前述の CISP（イタリア NGO）、ICTA より指導を受けていた。他の農家については 1 カ月に 1 回、年に数回程度の頻度で技術指導を受けているだけだった。11 農家以外は全く技術支援を受けていない。技術支援実施元は MAGA（ICTA）6 件、CISP 4 件、FODESAR 3 件であった。トトニカパン県の 12 農家は全く技術支援を受けていなかった。

今回の訪問先は MAGA により選定されたもので、MAGA の技術支援が比較的入っていることが予想されたが少なかった。また一部 NGO が技術支援を行っていたが、農業技術指導については十分な指導を行えていなかった。今回訪問しなかった地域は更に技術支援サービスが希薄であると考えられ、グアテマラ国中部高原地域の小規模農家の農業発展には大きな障害が存在すると言える。

11. 農家経営上の問題点

農家経営上の問題点で最も多かったのは営農資金（融資）の不足であった（21 回答）。次いで技術支援の不足（17 回答）、生産物の低価格（13 回答）と続いた。その他の意見として生産資材の高価格、輸送手段の不足、耕地面積の不足、

販売先の不足他の回答が見られた。

今回インタビューを行った農家のほとんどが経営的に立ち行かない農家なので、新たな作付けを行うのに必要な資金に事欠くことは容易に推察できる。ただ単に営農資金の支援や貸付けを行ったところで、問題の解決にはならない。営農形態を根本的に改善する必要がある。

小規模農家への技術支援の問題はグアテマラ国政府の施策によるところが大きいが、政府が直接実施しないにしても、何らかの技術支援体制を構築する必要がある。

12. 生活上の問題点

生活上の問題点で最も多かったのは水不足と医療費負担であった（各々12回答）。続いて栄養不良（8回答）、教育費負担（7回答）、悪い道路（5回答）、仕事が無い（4回答）と続いた。その他に現金が無い、医療サービス不足、悪い住居、電気が無い等の回答が見られた。これらの結果は集団聴取結果とも一致する。

13. 営農発展意欲

35戸全ての農家が営農発展意欲を有していた。具体的な営農発展の方策として栽培面積拡大が最も多く（16回答）、収量向上（13回答）、新規作物導入、生産インフラ整備、生産物の有利販売（各々6回答）、灌漑設備の導入もしくは拡大（3回答）等が見られた。

栽培面積の拡大は、ほとんどの農家に耕地面積の余裕が無い現状を鑑みると非常に難しい。また、新たに土地を購入する余力はほとんどの農家に無い。収量向上、新規作物の導入といった方法が最も現実的な方法と思われる。

14. 組織化の必要性、組織加入

組織化について、3戸を除く全ての農家が必要さを認識していた。組織化の必要性の理由については、生産物の有利販売（9回答）、技術指導を受けるため（6回答）、外部からの支援を受けるため（4回答）、助け合い（3回答）他が挙げられた。

35戸中22戸は何らかの組織に加入していた。組織の内訳は農業生産者組織（組合）12戸、住民組織（グループ）10戸である。組織活動の内容として主にクレジット事業（6回答）、植林（5回答）、果樹苗共同育苗（3回答）、パン作り（3回答）が挙げられた。その他に土壌保全活動、堆肥作成、研修受講等の回答もあった。

15. 集落の発展

集落の発展にとって何が重要かという問いかけに対して最も回答が多かったのは、政府の支援（13回答）であった。続いて農業開発（12回答）、外部からの支援（7回答）、近隣住民の助け合い（協働）（5回答）、道路改善（4回答）、

女性参加（4 回答）、水道設置（改善）（3 回答）、安定収入確保（3 回答）等となった。

非常に現実的な回答が多かった。新政権が発足してあまり時間が経過していないこともあり、新政府に対する期待が大きいのも印象に残った。また、農村部の集落における基幹産業は農業であることから、農業開発が集落発展（農村開発）に繋がるという認識が多く認められた。

16. その他の意見（日本国に対する要望）

日本国に対する要望で一番多かったのは、資金支援（作付け資金、事業資金他）（18 回答）であった。続いて農業技術支援（10 回答）、改良カマド設置（6 回答）、水道設置（改善）（5 回答）、農産物販売支援（3 回答）、ウィピル織り機もしくはミシン支援（4 回答）、製粉機支援（3 回答）等であった。

資金支援という要望が多く出ているが、農業に関しては前述の通り根本的な営農形態を変えない限り成果は期待できない。本プロジェクトの一つの目標として、新たな農業技術支援体制の確立を含める必要がある。

(3) 農家圃場、農家住居の見学

農家圃場において栽培作目、耕種法、栽培管理状況、病虫害の発生状況等の確認を行った。時期的に乾季の最中ということもあり、圃場に何も作物が無いというケースが多く、多くの事例を観察することが出来なかったが、少ない観察事例から明らかになった点を主要作物毎に記す。

最も多く栽培されていたトウモロコシでは、農家個々が自家採種を行い在来系統・品種を利用していた。ICTA（CIAL）では中部高原地域各地から在来系統・品種の収集を行い、それらの系統・品種の中から優良なものを選抜、固定し、ICTA 推奨品種（固定種）としての普及を図っているが、十分に広まっていなかった。耕種法として特徴的だった点は、栽植密度が 1m×1m でかなり広く、1カ所 7～8 粒撒きが行われ、萌芽後 2～3 株を残して間引かれることである。ICTA が推奨する様に畝間 80～90cm、株間 50cm、1カ所 3 粒撒き、萌芽後 1～2 株を残すことで、収量の向上が期待される。併せて ICTA 推奨品種を組み合わせることで更に増収効果が期待出来る。また、標高 2,000m 以下の暖地向けには、既に ICTA が CIMYT（国際トウモロコシ・コムギ研究センター）の協力を得て高収量性 F1 品種の開発・普及が行われているので、本品種の利用が望ましい（ICTA HB83 他）。

フリホール豆でも、農家個々が自家採種を行い在来系統・品種の利用を行っていた。フリホール豆についても ICTA が選抜・固定を行った品種の利用が望ましい（ICTA TEXEL 他）。耕種法については、慣行的にトウモロコシ、その他の作物と混作されることが多い。混作自体は非常に理にかなった栽培法で問題はないのだが、その方法に問題があると考えられる。同じ播種場所に多種多様な作物を同時播種する点は改めなければならない。トウモロコシとの混作ではトウモロコシの播種畝の横もしくは間にフリホール豆を条播することが望ま

しい。また、播種時期もフリホール豆を若干遅く播種する方がより良いかも知れない。更に、生育初期のネキリムシ等の被害は深刻で、その防除にかなり毒性の強い殺虫剤が使われているので改善の余地がある。生育初期のウィルスへの罹病による被害も問題になっている様なので、若干コストはかかるが浸透移行性の殺虫剤等の散布も必須であろう。

ジャガイモは中部高原地域における換金作物として最も重要な作物で、かつ最も改善の余地が多い。ICTA の有する現行技術で十分に対応が可能だ。まず、ジャガイモ栽培農家のほとんどが自家採種による種芋を用いているので、これをウィルスに罹病していない優良種芋に変更する必要がある。また標高の比較的高い地域（約 2,500m 以上）では、Lomán 種の芋の肥大が悪いことから在来品種を使っているが、収量性も低く疫病等の病害にも弱い。疫病に耐性を有する ICTA Frit 等の品種の利用が望ましい。実際の栽培管理法等にも多くの改善点があると思われるが、今回の調査ではじっくり見ることができなかった。農家からの聞き取りでは、毎年耕地面積一杯にジャガイモ栽培が行われ輪作が行われていない。これは改善する必要がある。また毎年収穫量の 4 分の 1 程度を翌年の種芋として保管しており、種芋に割かれる量としてあまりにも多すぎる（日本国では 10 分の 1 程度）。優良種芋の導入とともに種芋の切断（分割）利用が必要である。芽かきや、アブラムシ等のウィルス媒介昆虫、疫病等の適正防除法の指導も効果的である。ジャガイモ価格の周年変動を見ると収穫後の芋貯蔵技術の普及は重要となる技術であろう。

その他の作物でも改善点は見られたが、ここでは割愛する。

農家の見学では、まず住居の建築材料の確認を行った。建築材料は生活レベルを如実に表すもので興味深かった。最も貧しかったトトニカパン県、Santa Lucia La Reforma 市、Tzanxan 集落では、チェーンソーで荒削りした板を並べた隙間だらけの壁に瓦が乗っているだけの粗末なもので、一見家畜小屋と見まがうものだった。少し生活レベルが上がるとアドベレンガの壁に瓦屋根となり、次にブロックの壁にトタン屋根となっていた。米国への出稼ぎ者の多いウエウエテナンゴ県、Aguacatán 市、Los Cifuentes 集落等の一部では柱に鉄筋とセメントを用い、ブロック塀の上にセメント、漆喰等を上塗りした立派な住居が建設されていた。前述の Tzanxan 集落では生産技術支援も大切だが、住居改善が一番必要だと思われた。

次に炊事施設の確認を行った。Tzanxan 集落では未だカマド自体が無く、焚き火に鍋を直接置いて炊事を行っていた。ほとんどの集落では改良前のカマドを用いていて、一部集落では改良カマド、訪問した農家の中で 1 戸のみガスコンロを保有していた。

サウナは全ての訪問集落にある訳ではなかった。特に標高の高い、水が手に入りにくい地域に多かった。生活レベルの違いによるはっきりとしたサウナの違いは見出せなかったが、Tzanxan 集落ではアドベを積み上げた簡素なサウナを利用していた。開発実証調査等で普及された改良サウナを見ることはできなかった。

便所は基本的に穴を掘って、決まった所に設置されていた。穴が一杯になると埋め戻し、便所を別の場所に移動するといった方法が取られている。ウエウエテナンゴ県 Aguacatán 市、Los Cifuentes 集落では NGO の支援を受けて、トタンを用いた立派な便所が建設されていた。その他の地域ではもっと簡易なものが多かった。

家具、生活用具、電気製品等の有無、充実度は集落によって異なった。Tzanxan 集落では、家具、生活用具、電化製品がほとんどなかった。他の集落では少なくとも衣装ダンス、鍋、食器、ラジオ等があった。

電気、水道はほとんどの集落で確認された。唯一 Los Cifuentes 集落では電気、水道が無かったが、本集落は前述の NGO より手厚い支援を受けていて、出稼ぎ者も多く暮らし向きは良かった。本集落の数農家には、屋根上にソーラーパネルが設置されていて、太陽光発電を行っていたのには驚かされた。また同じ集落に電気、水道が来ている、権利代等が払えなかったり、住居の位置関係等の問題で便益を得られない農家も存在した。水道は繋がっている、水が来ず、水不足の問題はどの集落でも深刻な問題となっていた。

2-2-3 結論

(1) 貧困農家の生活

中部高原地域における貧困農家の営農と生活の実態は多様である。しかし、ここではあえて典型的貧困農家例を挙げて説明を行う。中部高原地域とは標高 1,500m 以上の 9 県にまたがる高原地域を言うのだが、今回調査を行った地域では、貧困農家の大部分は次の様な営農と生活を行っている。

貧困農家の家族人数は 7~8 名、その内農業に従事しているのは 2~3 名である。大部分の農家が家族労働を主体とした営農を行っている。

貧困農家の土地所有面積は 0.4ha 前後で非常に狭く、そのほとんどが耕地として利用されているが、大部分は傾斜地である。土性は基本的に火山性のものであるが、有機物に乏しく痩せている。

主要作物はトウモロコシ、フリホール豆等の自給作物とジャガイモ等の換金作物である。貧困農家間でも自給作物主体、換金作物主体の大きく 2 タイプの農家経営に分けることができる。いずれの作物の栽培面積も 0.2ha 前後で、その単収はトウモロコシで 1.0~2.0t/ha、フリホール豆 0.5~10t/ha、ジャガイモ 15~20t/ha である。ジャガイモの収量だけは、先進諸国と比較してもそれほど遜色がない。各々の作物の販売価格は、トウモロコシ 260~290US\$/t、フリホール豆 580US\$/t、ジャガイモ 60~360US\$/t である。トウモロコシ、フリホール豆等の自給作物は価格変動が小さく、ジャガイモ等の換金作物で価格変動が大きいのが特徴である。1 戸当たりの 1 年間の農業粗収入は自給作物中心の農家ではほとんど無く、換金作物中心の農家でも 500~1,500US\$ といった程度である。農業粗収入に占める生産コストは 50% 程度だと考えられる。

販売方法は農産物の販売を行う農家のほとんどが仲買人に販売を行い、それ以外に小売人への販売、直売等がある。販売場所は基本的に近隣の農産物集積

地、ローカルマーケットである。

換金作物を主体に経営を行う農家の多くが営農資金の借り入れを行っている。借り入れ額は 500US\$前後で、主に NGO、農協、銀行等の融資制度を利用して。借り入れ利息は年 20%前後が一般的である。

半数程度の貧困農家が農業以外（他農家での農作業を含む）の収入を得ている。最も多いのが他農家での作業である。他農家での作業賃金は 3～5US\$/日と低く抑えられており、農繁期のみでの作業となるので十分な収入とはならないが、自給的な農業を行う貧困農家にとっては貴重な現金収入である。最貧困地域では他農家での作業も無く、現金収入の全くないケースが多い。

貧困農家は農業施設と呼べるものを一部倉庫、家畜舎等を除いて全く有していない。農業機械は全く保有しておらず、農具も鋤、山刀、斧、鎌程度のものしか持っていない。手動散布器も一部農家が所持するのみである。

農家の抱える問題点は次のように挙げられる。

- ・ 農業技術上の問題点：作物の病虫害、生理障害、気候上の問題点として凍霜害、旱魃他
- ・ 農業経営上の問題点：営農資金の不足、技術支援の不足、生産物の低価格他
- ・ 生活上の問題点：水不足、医療費負担、栄養不良、教育費負担他

大部分の貧困農家は営農発展意欲を有しており、栽培面積の拡大と収量の拡大による農業収入の向上を図る意思を持っている。

また、大部分の貧困農家は組織化の必要性を理解し、現に農協、地域住民グループ等に参加しているケースが多い。よく行われている組織活動はクレジット事業、植林等の環境保全活動が多い。大部分の集落ではコミュニティ開発審議会（COCODE）が組織されている。貧困農家の大部分はその存在を知っているが、その目的、活動については十分に知らない。未だコミュニティ開発審議会は十分に機能していないようであった。

集落の発展にとって必要なことは政府の支援、農業開発、外部からの支援と考えている貧困農家が多い。

貧困農家が日本国（外部）からの協力に求めていることは資金支援、農業技術支援他である。

(2) 貧困農家の農業技術レベル

中部高原地域における貧困農家の農業技術レベルは総じて低い。これは貧困農家の大部分が十分な教育を受けることが出来ず、読み書きが出来ない点、貧困農家に対する技術支援体制が脆弱である点によるところが大きい。加えて新たな技術を実践するための資金が無い点等も大きい。

前述の主要作物について栽培技術を見ると、トウモロコシでは自家採種を行った低品質の種子が未だに使われている。また栽植密度が 1m×1m とかなり広く、1カ所 7～8粒撒きが行われ、萌芽後 2～3株を残して間引かれる。

フリホール豆でも自家採種が行われ、低品質の種子が利用されている。他作

物との混作では、同じ場所に複数の作物と一緒に同時播種されている。生育初期のネキリムシ等の土壌害虫やモザイクウイルスをはじめとするウイルス病も大きな問題となっている。

ジャガイモでも自家採種による種芋生産が行われており、種芋の品質に起因する低収量、低品質、ウイルスへの罹病等の問題が見られる。雨による疫病の発生の問題も大きい。毎年耕地面積一杯にジャガイモが栽培され、十分に輪作が行われておらず、連作障害も問題となっているようだ。

この様に中部高原地域における貧困農家の大部分は、粗放的な農業を行っている。先住民地域においては古くから伝わる持続的農法の存在等も期待されたが、トウモロコシとフリホール豆の混作以外見ることができなかった。

(3) 貧困農家に対する技術支援（普及）体制

1997年にMAGA内部において機構改革が行われ、それまで農業普及を担ってきた農業サービス総局（DIGESA）、牧畜業サービス総局（DIGESEPE）が解体され、一部普及機能が農業科学技術院（以下ICTA）に移転された。しかしながら現状でICTAの人員、予算体制は不十分で、一部研修業務を除いて貧困農家に対する技術支援はほとんど実施できていない。MAGAは各県（全22県）の調整事務所に技術者を配置しているが、事務手続きが主たる仕事となり、十分な普及活動は実施出来ていない。MAGAが各国ドナーの支援を得て実施している特別プロジェクト、プログラムは普及活動（技術支援）を実施しているようだが、今回中部高原地域5県で行った現地調査ではほとんど確認出来なかった。NGOが実施する集落レベルの支援活動は数例確認することができたが、農業技術に関しては十分な知見を有していない様であった。

MAGAが貧困農家に対する技術支援を行う所轄官庁であると考え、MAGA内部の各機関、特別プロジェクト・プログラムが行う技術支援活動は個別に実施されていて有機的な連携や調整が行われていない。NGOの活動についても、MAGAが調整機関としての役割を果たすべきだが行われておらず、各NGOが独自に活動を行っている。MAGAには限られた予算、人的資源の中で、可能な限り効果的な技術支援を貧困農家に対して行う調整役としての役割が求められている。

なお、現在MAGAでは国内の民間コンサルタント、NGO等を活用して効果的に貧困農村地域における農村開発を行うため、新たな仕組み作りを行っている。これは言わば「人材登録バンク」で、各コンサルタント、NGOの過去の実績、得意分野、得意地域等を登録、評価し、最も適当なコンサルタントもしくはNGOに一定の予算を付けて当該地域の農村開発を委託するというものである。この中に農業技術支援も含まれる。これはMAGAによる直接的な農業普及、技術支援活動実施の放棄を意味する。

(4) CIALの概況、実施活動、技術レベル

MAGAにおいて名目上、農業研究開発と普及を担っているのはICTAである。

また、ICTAにおいて中部高原地域を担当するのは CIAL（アルティプレーノ研究センター）である。その中でもケツアルテナンゴ農場が主体的役割を担っているため、本農場の概要と活動、技術レベルについてここに述べる。

CIAL ケツアルテナンゴ農場は敷地面積 21ha、職員数約 50 名～60 名（技術者 15 名、管理部門職員数名、圃場作業員 30 名～40 名）である。組織としては、所長の下に 4 つのサブプログラム（野菜、果樹、基礎穀物、小家畜）と 2 つの支援研究室（バイオテクノロジー、病虫害）、実証普及ユニットが存在する。各サブプログラムにおける技術者の配置は野菜 2 名、果樹 1 名、基礎穀物 2 名、小家畜 1 名、研究室はバイオテクノロジー 3 名、病虫害 1 名、実証普及ユニットが 5 名である。

各サブプログラムにおける主な研究対象作物（家畜）は、野菜でジャガイモ、ソラ豆、果樹でモモ、スモモ、リンゴ、アボガド、基礎穀物でトウモロコシ、フリホール豆、小麦、小家畜で山羊、羊である。ジャガイモ、トウモロコシ、フリホール豆については種芋、種子の生産販売を行っている。

研究室における活動は、バイオテクノロジー部門でジャガイモの茎頂培養によるウィルスフリー幼苗の生産、その他の野菜、果樹、花卉等のウィルスフリー苗の作出等、病虫害部門で野菜、果樹、基礎作物の病虫害診断と防除法の確立を行っている。

実証普及ユニットは、CIAL と NGO、農民組織等との間で契約ベースの技術研修、普及を行っている。ICTA 以外の MAGA が実施する特別プロジェクト、プログラムから予算がついた場合は農家圃場において実証圃の設置を行っている。

CIAL の様々な活動の中で最も重要なのはジャガイモのウィルスフリーの種芋（原種）生産である。インビトロから原種の種芋生産まで一貫したシステムが構築され、機能している。ウィルス検定植物の利用、ELISA 法による最終的なウィルス検定も行われていた。2004 年実績の原種種芋生産量は 50.6t であった。

トウモロコシ、フリホール豆、ジャガイモ等の中部高原地域における主要作物について CIAL の技術レベルは高い。これらの作物については近隣の国際研究機関から技術支援を受けてきた経緯がある。トウモロコシについては CIMMYT（トウモロコシ・コムギ改良研究センター：メキシコ国）、フリホール豆では CIAT（熱帯農業研究センター：コロンビア国）、ジャガイモは CIP（ジャガイモ研究センター：ペルー国）である。これらの作物に関しては、既に普及に供すことの出来る種子、種芋、栽培技術、貯蔵技術等が確立しており、普及体制さえ整えば、貧困農家の農業生産を劇的に改善出来る可能性がある。その他の作物、小家畜等についても中部高原地域の貧困農家に対して普及可能な推奨技術は確立されており、彼らのニーズに対応することが可能だと考えられる。

(5) 本プロジェクトに求められる点

CIAL に中部高原地域における主要作物栽培、家畜飼育に関する推奨技術が存在するにも関わらず、中部高原地域の貧困農家のほとんどが慣行的な技術を用い、低収量、低品質、結果として食糧不足、現金収入不足に喘いでいる。これはひとえに普及システム（技術支援体制）の弱体化もしくは不在によるところが大きい。適正技術の開発がなされても、それを伝える術が無いのである。農民の識字率が高ければ、技術資料の配布を主体とした効率的な技術移転の余地があるかも知れないが、グアテマラ国の現状はそうではない。一緒に作業を行い、手取り足取りの技術指導が必要であろう。

本プロジェクトに求められることは、新たな普及システムの構築であろう。現状で MAGA に直接普及事業を実施する計画が無いのであれば、CIAL (ICTA) の開発技術と貧困農家を結ぶ新たな技術移転のメカニズムが必要となる。開発審議会システムは基本的に社会インフラの整備を念頭に計画されたものだが、農業技術移転にも利用が可能かも知れない。既存の農業生産者組織では、自ら技術者を有し、その技術者のトレーニングを CIAL に依頼して行っているというケースが出てきている。貧困農家の技術支援体制の確立には、貧困農家達が組織化し、開発審議会システム等を介して新技術獲得の場を求める様な仕組み作りを本プロジェクトの実施を通して行うことである。MAGA は社会投資基金 (FIS) の様な技術支援パッケージのリストを作成し、開発審議会システムを通して集落における住民の技術支援に対するニーズが高ければ、FIS、MAGA 等から資金を供出し、技術支援を実施するといった内容となる。また、村レベルでの具体的な活動内容については、別添のミニプロジェクト（案）を参考とされたい（添付 3）。

本プロジェクトには、日本国から 2 名程度の長期専門家の派遣が予定されているが、その内の 1 名は、上記普及システム（技術移転メカニズム）の構築を図るための農業普及に関する知識と経験が必要である。また適宜、ICTA に対する助言、指導等も可能である様に、基礎穀物や野菜等の作物栽培に関する専門性も求められる。

2-3 農村開発に係る政策と制度

2-3-1 農村開発の政策

グアテマラ国政府は内戦後の農村地域における貧困問題に対して、和平協定の履行¹⁶を通じて対応を進めてきた。和平協定の合意の中で、特に農村開発に関連するのは「社会経済と土地に関する合意」と「先住民のアイデンティティと権利に関する合意」である。前者の「社会経済と土地に関する合意」を例として合意の内容を見ると、人々が内戦時に奪われた土地の返還、農地法と安全保障の導入、作物の商品化支援、技術研修の提供等の保障が盛り込まれており、内戦後、農村地域の人々

¹⁶ 1996 年 12 月に締結された和平協定は 2000 年に履行期限を迎えたが、60%が未履行であることから履行期限の延長が行なわれた。

が実に多様な問題に直面してきたことが表れている。同国政府は、このような多様性のある問題は特定省庁やセクターが単独で解決し得るものではないことを認識した上で、国連¹⁷等の支援を受け、より幅広い視点から農村開発を進める枠組みの検討を進めてきた。

グアテマラ国が農村開発に係るセクター横断的な対応の枠組みを検討してきた結果、2004年6月に農村開発内閣（Gabinete de Desarrollo Rural）が発足された。本内閣は、農村地域における農業以外の開発の代替案（観光開発や民芸品販売等）を分析した上で、「総合的農村開発戦略計画」（Agenda Estratégica para el Desarrollo Rural Integral）に落とし込む役割を担っており、その調整についてはMAGAが担当している。同開発戦略の実施手段は、「農村からの経済開発プログラム」（El Programa de Desarrollo Economico desde lo Rural）にまとめられ、主な実施機関としてSEGEPLAN、MINECO（Ministerio de Economía/経済省）、FIS等が挙げられている。

農村開発内閣が農村開発の戦略策定を目的としている一方で、2005年2月に設置された「農村開発政策策定のための対話と参加のセクター横断的協議会」（Mesa Intersectorial de Diálogo y Participación para Formular Políticas de Desarrollo Rural）は、農村開発の政策部分を策定する役割を担っている。本政策¹⁸は、2005年末を目処に完成される見通しである。同協議会にはMAGAを含める各省庁からの代表者、社会セクター代表者等が参加しており、事務局の調整はSEPAZ（平和庁）が担当している。また、同協議会における合意を農村開発の法的枠組みに組み込むため、農村開発政策委員会（Comisión de Incidencia Política para el Desarrollo Rural）が設置された。

2-3-2 開発審議会制度を中心とする行政の仕組み

グアテマラ国政府は2001年11月に貧困削減戦略を閣議承認した。2002年4月、同国はこれに基づき、国家の統一性、多民族性、多文化性、多言語性という国の特質を考慮した開発の民主的なプロセスを実現し、先住民及び非先住民が公共業務に参画することを目的に、「都市・農村開発審議会法」（Ley de Consejos de Desarrollo Urbano y Rural y Su Reglament）を承認している。

都市・農村開発審議会法は、開発政策、計画、予算プログラムの策定と、公共・民間の多機関間の調整を進め、公共行政を組織・調整する基本的手段として「開発審議会制度」を定めた。同制度は以下の5段階に審議会を設置し、審議会の機能と構成員をそれぞれに定めている。

- ① コミュニティ開発委員会/COCODE（プロジェクトの選定、優先順位付け、予算申請）
- ② 地方自治体開発審議会/COMUDE（プロジェクトの優先順位付け、予算申請）
- ③ 県開発審議会/CODEDE（県レベルでのプログラム策定、予算申請）
- ④ 地域開発審議会/COREDE（地域レベルでのプログラム策定、予算申請）
- ⑤ 国家開発審議会/CONADE（政策策定、予算申請・配分等）

¹⁷ El debate sobre la política de desarrollo rural en Guatemala: avances entre octubre de 2000 y abril de 2002.

審議会システムの総括は大統領府（SEP/Secretaria Ejectiva de Presidencia）、戦略面に関しては農村開発内閣（Gabinete de Desarrollo Rural）、市レベルでは全国の市役所代表による地方自治体参事会（ANAM/ Asociación Nacional de Municipalidades）、開発計画の策定については SEGEPLAN（企画庁）が調整を担当している。しかしながら実際には、全体プロセスの機能を促進する調整役が別途必要とされている。

コミュニティレベルで特に重要な役割を占める、コミュニティ開発委員会と市開発委員会の役割と機能は以下の通り。

① コミュニティ開発審議会（COCODE）

- 構成員は、議長を務める村長及び総会により選出される最高 12 名までのコミュニティ代表者、当該コミュニティ住民により構成されるコミュニティ会議となっている。
- 関連法律が実質的に動き出した後、市から指導・監督があり、COCODE が形成されるようになった。多くの村には既存のコミュニティに水委員会、教育委員会、保健委員会、農業委員会等、それぞれのニーズに基づく委員会（Comite）が存在している。COCODE の形成においては、既存の委員会が統合されて COCODE となるケースと、委員会とは別途、新たに COCODE が形成されるケースが確認されている。
- 委員会と COCODE が同時に存在する場合でも、COCODE の役割は主に村のニーズの選択順位を付けることにある一方で、委員会は課題や問題に対して、具体的な対応策の検討やきめ細やかな対応を行っていることから、それぞれに役割が異なっており、特に混乱するようなことはない様子である。
- COCODE の利点は、コミュニティの意思決定により多くの参加を得ることで、政治的要因を排除し、民主的にコミュニティの発展を進めることが出来ることである。また、COCODE は法人化された組織であることから、COMUDE にプロジェクト申請をするのみならず、省庁や援助機関に資金援助や技術支援の申請を直接行うことが可能である。

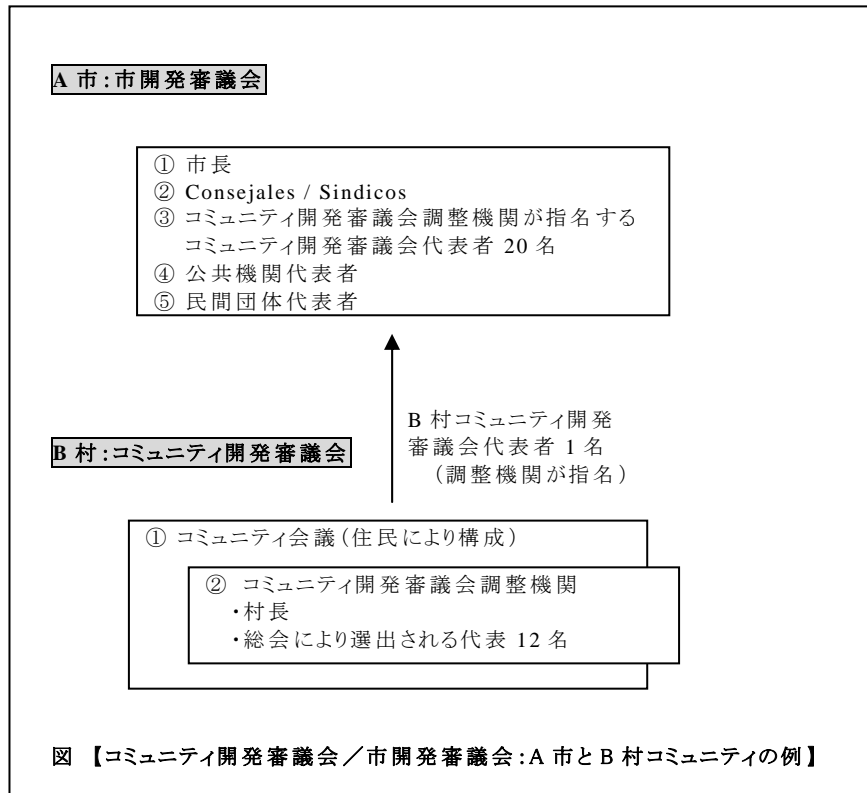
② 市開発審議会（COMUDE）

COMUDE は、COCODE で優先順位付けされ、申請されたプロジェクトに対して、予算の範囲内で承認の優先順位をつける役割を担う。COMUDE は市の管轄にあり、市長が COMUDE のコーディネーターとして調整を行っている。COMUDE の構成は以下の通りである。

- ・ 市長（Alcalde Municipal）
- ・ Síndicos（住民利益代表者）と concejales（市議会議員）がそれぞれ 2～3 人
- ・ 各 COCODE の代表（20 名以内）
- ・ 公共団体（entidades públicas）該当団体に声をかけ、参加は任意。
- ・ 民間団体（entidades privadas）該当団体に声をかけ、参加は任意。

Misión de Verificación de las Naciones Unidas en Guatemala: Abril de 2002.

¹⁸ Propuesta para el Diseño de la Política de Desarrollo Rural Intergral y su Matriz



2-4 ジェンダー／文化に係る留意点

上述の 2-1 から 2-3 の調査を通じて、プロジェクト形成から実施に際して留意すべき以下のジェンダー／文化関連事項が確認された。

2-4-1 プロジェクト形成段階における留意点

【留意点 1】

内戦の影響から、地域によっては国家への不信感が強く、未だ警察がコミュニティに入りこめない地域が存在している。また、平和協定の不履行や社会的不安によって、リンチや暴行の件数が増加している。

【対応策 1】

プロジェクト対象地域の選定においては、安全面に十分配慮する必要がある（付属資料 4「グアテマラ立入り禁止区域地図」参照）。

【留意点 2】

過去に実施されたプロジェクトにおいて、ニーズの把握を目的として住民の参集を呼びかけた際、女性や社会的弱者に情報が行き渡らず、一部の住民が参加の機会から排除された例が報告されている。結果として、参加意欲があるにも係わらず参加の機会を与えられなかった住民に妬みが生じ、住民やグループ間に対立が起こったことで、プロジェクトの阻害要因となった。

【対応策 2-1】

プロジェクトに関する情報や参加の機会が、対象地域の住民に平等に与えられるよう、またプロジェクトの内容自体が参加者を限定することのないよう留意する。

【対応策 2-2】

平等な参加の機会を提供する方法としては、村人全員に対する情報提供を徹底させていくと同時に、対象村が抱える本当の問題を住民自身が把握する「意識化」のプロセス、把握された問題点をプロジェクト側と共有する「社会化」のプロセス、また、コミュニティ全体として問題を捉え、対応策を考える「組織化」のプロセスを進めるために、十分な期間を確保することが求められる。

【対応策 2-3】

本来、マヤ民族は民主性や平等性の確保を非常に重視しており、現在もマヤ民族による組織の合意形成には長い時間を費やす傾向が観察されている。このような先住民の価値観に基づき、コミュニティ内の格差解消を視野に入れたプロジェクトを形成することが望ましい。

【留意点 3】

農業を中心とした生産性向上プロジェクトでは、男性に裨益が集中する傾向がある。これは、農作物の生産は主として男性の役割であり、農業における女性の参加は男性の補助的役割を担うに過ぎないことが原因となっている。

【対応策 3-1】

プロジェクトは参加対象者を世帯単位で評価することが多いが、1つの世帯であっても、異なる役割、ニーズ、経済力による差異や格差を持つ人々により構成されている。このことを踏まえ、単なる男性のサポート役としてではなく、女性が中心となって行う活動をプロジェクトに含めるよう検討する。現在、グアテマラ国中部高原地域で先住民族女性を対象に実施されている生産性向上プロジェクトとしては、ウイピル、民芸品、パン、自然薬品、ハーブを使用したシャンプーやクリーム等の生産と販売の例が挙げられる。収入向上プロジェクトとしては、携帯電話の貸し出し事業等がある。

【対応策 3-2】

女性の参加を得たプロジェクトの実施が、必ずしも自動的に女性のエンパワーメントに繋がるわけではない。女性が単なるプロジェクトの受益者／参加者に留まった場合、プロジェクトの効果が限定されるだけでなく、世帯レベルで夫婦間の格差が拡大するといったマイナスのインパクトが生じる可能性もある¹⁹。農村女性が置かれている不利な立場については、女性自身が必ずしも認識していないことから、女性のエンパワーメントを促進する戦略を関係者側から提案し、プロジェクトに盛り込んでいく工夫が求められる。

¹⁹ 特定テーマ評価「参加型地域社会開発のジェンダー評価」報告書：p47, p56, 2005. 国際協力機構（JICA）企画・評価部

【留意点 4】

COCODE や COMUDE においては、メンバーに女性が含まれている場合でも、女性の発言権が確保されているとは言えない。女性の発言に対して市長やリーダーの理解がないと、女性の意見は無視されてしまう。

【対応策 4-1】

対象村の選定においては、グループメンバーのジェンダーバランスに留意するだけでなく、リーダーや代表者、Director などの重要なポジションにいる人物が男性か女性か、また、彼らのジェンダー配慮に関する意識を調査、確認する必要がある。

【留意点 5】

マヤ民族の開発観は、「万物は母なる地球のものであり、人類と環境は調和の下にある。開発は物質的なものとは異なる²⁰」というものである。実際、電気を革新の要素とみなさず、電気よりもロウソクを好んだり、テレビを使用しない傾向が観察される。開発における先住民族団体の主なフォーカスが「環境保全」、「天然資源の利用」、「化学肥料を使用しない農業」である²¹のに対して、農業普及員が指導する技術は民族独自の伝統や価値観を無視しがちである²²ことが指摘されている。内戦の影響によって先住民が持ち続ける役人への恐れや猜疑心の強さから、先住民はそうした見方を普及員に伝えず、普及員から指導された技術も実践しない結果となりがちである。

【対応策 5-1】

民族固有の価値観や内戦の影響により、外部者が先住民の真のニーズを把握することは容易でないが、適切な協力内容と高いプロジェクト効果を確保するために、対象コミュニティの価値観や慣習、コミュニティ固有の能力（共有資源管理の経験、組織、歴史）等を十分に把握することが不可欠である。

2-4-2 プロジェクト実施段階の留意点

【留意点 6】

女性グループの形成後、グループが成長して利益を得られるようになった途端に、男性がグループに介入・支配し、利益を独占してしまうケースが頻繁に発生している。読み書きが出来ない女性が多いため、自己の権利に関する書類を作成したり、その内容を確認したりすることができず、このような事態に陥ると思われる。

【対応策 6-1】

住民が置かれている不利な立場や変革の潜在能力について、まず男女共に住民側が正しく認識する事が重要である。その上で、女性の参加を促進する環境や支援体制の整備を行うことが望ましい。例えば、既存の識字教育プログラム（CONALFA）への参加支援、会議開催時刻の配慮（女性が自由に使える時間帯は、主に昼過ぎか

²⁰ 先住民支援基礎調査報告書 2004.国際協力機構（JICA）：2003年3月20日 AMEG, Juan Carlos からの聞き取り

²¹ 先住民支援基礎調査報告書 2004.国際協力機構（JICA）：2003年3月14日 Jose Serech からの聞き取り

²² 先住民支援基礎調査報告書 2004.国際協力機構（JICA）：2003年3月19日 GTZ, Mario Pinones からの聞き取り

ら夕方まで)、託児サービスや組織運営に関する各種研修の提供、言語が異なる場合の通訳の配置等が考えられる。

【留意点 7】

内戦後、女性は男性に比べて社会参加の十分な機会が与えられておらず、公の場
で出意見を述べることに慣れていないことから、会議では男性による発言が主とな
ることが多い²³。また、中部高原地域では少数民族女性に対する社会的差別だけで
なく、家庭内における差別や暴力等が存在しており、女性の人権保護については未
だ十分な対応が成されていないのが現状である。

【対応策 7-1】

男女の共働は重要であるものの、先住民女性の力が極端に弱いグアテマラ国の現
状²⁴を踏まえると、時には男性の力の及ばない空間を意図的に作り出し、女性の意
見を引き出していく配慮が求められる。

²³ 2005年3月11日 Tierra Viva プロジェクトコーディネーター Alma Odette Chacon からの聞き取り

²⁴ 「グアテマラ国南西地方の先住民女性に対する経済・社会・政治・文化的差別に関するレポート」エレ
アザール・カストロ、ベンハミン・チャフ：内戦で夫に先立たれたり、婚外子のいる先住民女性に対する
社会的差別が存在するだけでなく、家庭内暴力、性的暴力、望まない妊娠、相続権の不在等の家庭内差別
が確認されている。

第3章 主な協議結果

現地調査期間中の関係機関での議論やワークショップ結果を踏まえて、当初の要請元である MAGA 及び ICTA と協議した結果のポイントは以下の5点にまとめられる。

第一に、当初の協力要請では、プロジェクトの内容は農業技術開発を主目的としたものであった。しかしながら、JICA 農村開発部の方針及び農村地域における問題の多様性に鑑み、農業セクターに限定しない複合アプローチを検討する必要があるとの JICA 側からの見解が先方に認識され、当初の要請内容を修正してプロジェクトを実施することについて、要請元である MAGA の同意が得られた。なお、MAGA は従来、農業セクター官庁としての政策が主体であったが、最近是他省庁と連携しての農村開発アプローチの動きもある。

第二に、農村開発に関連する組織は政府機関、自治体、民間企業、NGO 等様々あり、農村支援を実施している。しかし、これらの機関を統一し、組織間連携を調整・促進する組織が存在していなかった。現政権になって開発審議会システムが動き出しつつあり、その法的整備も整っていることから、同システムが組織間連携の軸となることが期待されている。特に、村落及び市レベルの開発審議会の活躍が期待されており、プロジェクトとしても同システムの強化が想定される。

第三に、村落レベルの能力強化の一環として、プロジェクトの枠組み内でミニプロジェクトを実施する。生産プロジェクトにより住民への直接裨益が期待される。ミニプロジェクトの内容・実施方法は、対象地域・村落が選定された後、村落のニーズとプロジェクトの制約要因を考慮した上で決定される。

第四に、今後、プロジェクト実施に向けて、第二次事前調査団が派遣される予定である。その前提条件として次の3つについて合意された。まず、複合アプローチによる農村開発を可能にすべく、MAGA は農村開発の主管官庁ではないため、他の関連省庁を巻き込んだプロジェクト実施体制案を MAGA が中心となって策定・提示することである。次に、対象市の選定指標の設定である。本調査団派遣時に MAGA は ICTA-CIAL を中心として対象地域案を想定していたが、協議の結果、プロジェクトの内容・実施体制の軌道修正が必要であることが合意されたため、再度の地域選定、そのための選定指標が必要となる。3点目の前提条件は、農業関連の生産ミニプロジェクト案の検討を行うことである。対象村落が未定のため、現時点ではあくまでも提示メニューの一部という位置付けである。

最後に、現時点での案として、対象地域は中部高原地域の内、対象市が複数選ばれること、協力期間は3～5年間であることが想定される、という点が協議・合意された。

第4章 今後の方向性

4-1 複合アプローチによる農村開発の推進に関して

本調査は事前調査としての位置付けであるが、実態としては、プロジェクト形成調査的なものであった。当初の要請元である MAGA 以外の機関を巻き込んだワークショップを実施したことについては参加者から概ね好評を得、プロジェクトに連携・協力したい旨の意見が出された。このことを今後のプロジェクト形成に活用していくべきと思われる。

グアテマラ国においては、いわゆる農村開発を主管する官庁が存在しない。MAGA、教育省、保健省等がそれぞれのサービスを村落レベルに提供するという「縦割り」行政を基本とし、近年になって、セクター間連携による農村開発促進の試みが開始されたばかりである。このように、グアテマラ国側の関係機関は農村開発を促進する上での連携の経験が十分とは言えない。加えて、4年毎の政権交代により主要な役職も含めて要員の変更が定期的にあることから、プロジェクトの効果を制度面で根付かせるのは非常に困難を伴う。従って、開発の仕組みを村落に実際に根付かせていくためのアプローチを重視すべきである。

4-2 農業技術に係る支援について

本件は MAGA から要請された案件であること、また、農村におけるニーズは多様であるものの、農業の技術的支援は必要であることが今回のフィールド調査等を通じて明らかになったことから、営農や生活の改善についての支援を行う必要がある。農業普及については、MAGA は今後普及事業を民間企業や NGO へ委託する方針であることから、MAGA のスタッフを本プロジェクトに直接組み込むのではなく、MAGA が提供する資金を住民側がどのように利用するか、その中身と方法に焦点を当てたシステム形成を支援すべきであろう。

4-3 対象市の選定に向けた調査に関して

今後、次の調査団が派遣されるまでに行われるべき作業の一つが、対象候補市の選定に向けた調査である。調査の対象となる県は、グアテマラ立入り禁止区域地図（別添5）に基づき、比較的安全性が確保され易く、貧困指数の高いケツアルテナンゴ県、トトニカパン県、ソロラ県とした。更に以下の指標に基づいて、上記3県における調査対象市を15市まで絞り込んだ（調査対象市は付属資料5の通り）。

選定指標：（以下の市を対象から除く）

1. 県別高地所在市の平均農村人口比率を下回る市
2. 県都市、商工業市、観光市
3. 県都市（中心部）から市中心部まで35km以上離れた市

対象15市における調査は、4月末から現地コンサルタントへの委託により実施される予定である。調査内容は、市町村行政の実施体制、教育サービスの普及状況、医療

サービスの普及状況、農業生産状況、他ドナー・NGOの活動状況となっている。6月に提出される調査結果を基に、7月を目処に実施される予定の第二次事前評価調査を通じて、最終的な対象市が選定されることとなる。なお、市の選定においては、政治的な要素を完全に排除することは困難であるが、不安定な政治的要因による影響を最小限とするため、慎重な検討が必要である。また、他ドナーも市及び集落を選定し、パイロットプロジェクトを実施する計画があるため、重複を避けるよう考慮し、可能性がある場合は連携を検討する。

4-4 プロジェクトで取組む内容

(1) 開発審議会制度の機能促進支援

開発審議会は、組織間連携の軸を担う役割が法的に与えられている。特に、村落及び市レベルの開発審議会の活躍が期待されていることから、これらの開発審議会の強化をプロジェクト内容に含めることが想定される。支援内容としては以下が考えられる。

COCODE レベルの支援

- ・コミュニティニーズの把握とミニプロジェクトの形成・実施
- ・既存の支援スキームの活用（情報入手、申請、実施、評価、維持管理）
- ・民主的な組織運営（メンバー選定、ファシリテーション、意見交換、優先順位付け等の方法）

COMUDE レベルの支援

- ・開発審議会の機能強化を目的とする、各種セミナーの開催
- ・民主的な組織運営（メンバー選定、ファシリテーション、意見交換、優先順位付け等の方法）
- ・関係機関の連携支援

プロジェクト実施機関としては、MAGA、社会投資基金（FIS）、企画庁（SEGEPLAN）が参加することが望ましい。

(2) 支援メニューリスト（カタログ）の作成・提示

社会投資基金（FIS）は、同基金による支援が可能な事業項目を「支援メニューリスト」を提供している。これは、住民側が同メニューで示される「小学校建設」、「道路整備」、「上水道設置」等の項目一覧から、希望する事業を選択し、資金申請を行うシステムである。

同システムを参考にし、MAGAや他の農村開発関連機関が提供する支援内容をメニュー・カタログとして作成し、審議会に提供することが、プロジェクトで取り組むべき内容の一つとして考えられる。これは、直面する問題を的確に捕らえ、その問題に対する対応策を挙げる十分な能力が審議会側に備わっていない場合、特に参考となると思われる。

(3) ミニプロジェクトの実施支援

上記 2) によって提供されたメニュー・カタログを利用して、COCODE が選定・申請し、予算が付いたプロジェクトに関しては、その適切な実施・運営プロセスについての支援を行うことが望ましい。想定されるミニプロジェクト（案）は添付 5 の通りである。ミニプロジェクトの実施にあたっては、基本的に FIS や MAGA の提供する既存の資金を利用することを原則とする。

4-5 第二次事前評価調査で実施すべき内容

第二次調査においては、実施体制の確認、候補市の確認、対象市の選定、実施機関と共に PDM 案の作成、他ドナーとの支援重複の調整（特に COCODE 開発審議会の支援について）を行う予定である。

付 属 資 料

1. ミニッツ
2. ワークショップ別添資料（別添 1～13）
3. フィールド調査参考資料（添付 1～3）
4. グアテマラ立入り禁止区域地図
5. 調査対象市リスト

MINUTA DE DISCUSIONES
ENTRE LA MISIÓN JAPONESA DE ESTUDIO PREPARATORIO
Y EL MINISTERIO DE AGRICULTURA, GANADERÍA Y ALIMENTACIÓN
DE LA REPÚBLICA DE GUATEMALA PARA
EL PROYECTO “MEJORAMIENTO DEL NIVEL DE VIDA DEL PEQUEÑO AGRICULTOR
POBRE DEL ALTIPLANO DE GUATEMALA”

La Misión Japonesa de Estudio Preparatorio (que en adelante se denominará “la Misión”), organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón, (en adelante se denominará “JICA”), la cual es dirigida por la Licda. Kyoka Noguchi, ha visitado la República de Guatemala del 1 al 21 de marzo del año 2005 con el propósito de recabar información necesaria para implementar el proyecto titulado “Mejoramiento del Nivel de Vida del Pequeño Agricultor Pobre del Altiplano de Guatemala” (en adelante se denominará “el Proyecto”).

Durante su estadía en la República de Guatemala, la Misión intercambió puntos de vista y tuvo una serie de discusiones con la parte de Guatemala, relacionadas con la formulación del Proyecto. Como resultado de las discusiones, la Misión y la parte de Guatemala, estuvieron de acuerdo en informar a sus gobiernos respectivos los aspectos referidos en el documento adjunto.

Esta Minuta de Discusiones ha sido preparada en los idiomas inglés y español, siendo los textos igualmente auténticos. En caso de cualquier divergencia en cuanto a la interpretación del mismo, el texto en inglés tendrá prioridad.

Ciudad de Guatemala, Guatemala, 11 de marzo de 2005

Licda. Kyoka Noguchi
 Jefa de la Misión Preparatoria
 Agencia Internacional de Cooperación
 del Japón

Ing. Armando Palomo Sartoris
 Coordinador de la Unidad de Proyectos y
 Cooperación Externa,
 Ministerio de Agricultura, Ganadería y
 Alimentación
 República de Guatemala


Ing. Julio Rufino Salazar
 Gerente General
 Instituto de Ciencia y Tecnología Agrícolas
 República de Guatemala

Testigo de Honor

Lic. Juan Antonio Flores
 Subdirector de Cooperación Internacional Bilateral
 Secretaría de Planificación y Programación de la Presidencia
 República de Guatemala


DOCUMENTO ADJUNTO

1. Trasfondo del Envío de la Misión

Con base en los resultados del Estudio para el Desarrollo y el Estudio de Validación del Plan Maestro sobre el Desarrollo Rural Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Región del Altiplano de la República de Guatemala realizados en el periodo de 1999 a 2003, el Ministerio de Agricultura, Ganadería y Alimentación (en adelante se denominará "MAGA") solicitó al gobierno japonés un proyecto de cooperación técnica. El perfil del proyecto propuesto fue examinado en Japón y se consideró que la idea del Proyecto era mejorar el nivel de vida de los pequeños agricultores pobres. Las oficinas departamentales del MAGA, en colaboración con ONGs iban a ofrecer capacitación sobre tecnología agropecuaria a pequeña escala y técnicas del mejoramiento de vida de los agricultores. Sin embargo, al recibir la solicitud oficial del Proyecto, el contenido fue fortalecer la capacidad del Instituto de Ciencia y Tecnología Agrícolas (ICTA) para difundir la tecnología agropecuaria a los pequeños agricultores de bajos recursos. 

Por otra parte, en octubre de 2003 JICA se convirtió en un organismo descentralizado como resultado de la reforma administrativa del gobierno japonés, dando mayor énfasis en la formación de proyectos que benefician directamente a los habitantes de la comunidad. Considerando en cuenta estos cambios en políticas institucionales, JICA envió la presente Misión para analizar la posibilidad de identificar un marco de proyecto en el cual se llevará no solamente la transferencia de tecnología agropecuaria sino también otras actividades relacionadas con el desarrollo rural para atender las necesidades reales de los habitantes de escasos recursos.

2. Resultados de Talleres de Trabajo

Como parte de su trabajo, la Misión organizó dos (2) talleres con la participación de instituciones de gobierno y sociedad civil con el propósito de identificar diversas necesidades que tienen los pequeños agricultores pobres y confirmar el mecanismo existente de apoyo para atender dichas necesidades. Los resultados de estos talleres se describen en el anexo. 

3. Factores a Tomar en Consideración con Base en los Puntos Identificados en los Talleres

Con base en los resultados de los talleres realizados, la Misión sugiere tomar en cuenta los siguientes factores en las fases siguientes de formulación del Proyecto.



- 3.1 Es necesario fortalecer el sistema existente de los consejos de desarrollo rural, específicamente a los Consejos Comunitarios de Desarrollo (COCODEs) y Consejos Municipales de Desarrollo (COMUDEs).
- 3.2 En el momento de implementar el Proyecto, es indispensable fortalecer la capacidad de la "coordinación interinstitucional" a través de la participación de múltiples instituciones; por lo tanto, este punto deben ser considerado al construir el mecanismo de la implementación del Proyecto.
- 3.3 Para fortalecer las funciones de COCODEs, mini-proyectos serán implementados a nivel comunitario dentro del marco del Proyecto. Un mini-proyecto es aquél que se planea de acuerdo con las necesidades de cada comunidad después de haber seleccionado los municipios objeto.
- 3.4 Al implementar mini-proyectos, el Proyecto no incluye apoyo financiero para la construcción de infraestructuras sociales, excepto que sean construidos con recursos nacionales. Los mini-proyectos deben incluir proyectos que mejoren la productividad agropecuaria.
- 3.5 El apoyo financiero necesario para implementar mini-proyectos debe ser adquirido en lo posible a través de fondos sociales u otros tipos de fondos para el desarrollo rural que existan actualmente en Guatemala.

4. Precondiciones requeridas por la Misión para Diseñar el Proyecto

El segundo estudio preparatorio del Proyecto será realizado una vez se satisfagan todas las siguientes precondiciones.

- 4.1 Es necesario que el MAGA proponga un mecanismo para implementar el Proyecto en conjunto con otros actores del gobierno y la sociedad civil que tienen presencia en el área de cobertura.
- 4.2 El MAGA y otros posibles organismos ejecutores, en colaboración con JICA, deben realizar un estudio para diagnosticar y evaluar la capacidad de las municipalidades para participar en el Proyecto. Una propuesta será elaborada para la selección de los municipios objeto, usando diferentes indicadores incluyendo este estudio.
- 4.3 El MAGA formulará y enviará a JICA un plan concreto que explica en qué forma el MAGA pueda coordinar y promover la asistencia técnica a los agricultores en forma sostenible en proyectos productivos.



5. Descripción General del Posible Proyecto

- 5.1 **Visión que aspira el Proyecto:** Comunidades rurales desarrolladas a través de la coordinación interinstitucional que permita la implementación de los proyectos en forma más eficiente, eficaz y transparente.
- 5.2 **Título del Proyecto:** Se discutirá el título del Proyecto en el segundo estudio preparatorio, después de definir los resultados esperados del mismo.
- 5.3 **Duración del Proyecto:** Analizar la duración entre tres (3) a cinco (5) años.
- 5.4 **Municipios objeto de la Implementación del Proyecto:** Los municipios objeto de la implementación del Proyecto serán determinados en el segundo estudio preparatorio dentro del área de Altiplano del país con base en la propuesta elaborada previamente.



Resumen de Resultados del Taller Preliminar en Quetzaltenango

◆ **Objetivo del taller:**

Conocer la situación actual de los problemas de la comunidad rural y las funciones de los actores involucrados para apoyar a la comunidad rural.

◆ **Fecha:**

3 y 4 de marzo de 2005

◆ **Lugar:**

Ciudad de Quetzaltenango, Quetzaltenango

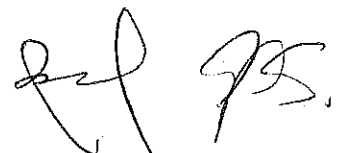
◆ **Participantes:**

50 participantes en el primer día y 40 en el segundo día.

(Profesionales integrantes de instituciones gubernamentales, ONGs, empresas privadas, asociaciones de productores, fondos sociales, etc.)

◆ **Resultados:**

1. Los problemas que enfrentan los productores pequeños de áreas rurales están enfocados principalmente en los temas agrícolas, pero abarcan otros temas más amplios que están relacionados con la educación, salud, medio ambiente, etc.
2. Los perfiles básicos de cada uno de los actores involucrados fueron identificados. Cada actor tiene particularidad en sus actividades, fortalezas y debilidades, y forma de interacción con las comunidades rurales.
3. Para atender las necesidades de los agricultores, un gran número de las entidades gubernamentales y públicas así como las ONGs brindan apoyo.
4. Por otra parte, el presupuesto y el personal con que cuenta cada organización están limitados, por lo tanto es difícil que un organismo solo atienda todas las necesidades de la comunidad.
5. No existe una coordinación interinstitucional, global y funcional, por eso los apoyos se brindan en forma ineficiente.
6. Las leyes establecen que el sistema de los consejos de desarrollo rural tiene un papel principal en el apoyo al desarrollo rural.
7. Hubo opiniones de que es importante tomar el sistema de los consejos de desarrollo rural como el eje para coordinar apoyos al desarrollo rural.
8. Se confirmó la importancia de la sostenibilidad y la mayor participación de los habitantes de la comunidad en el proyecto de desarrollo rural.



14 de marzo, 2005

Ing. Julio Rufino Salazar
Gerente General del Instituto de Ciencia y Tecnología Agrícolas
República de Guatemala

Por medio de la presente le envío un cordial saludo y agradecimiento por habernos atendido amablemente durante nuestra estancia en su país quiero manifestarle que nos sentimos felices de haber podido firmar una minuta de las reuniones que sostuvimos en las últimas dos semanas. Me dirijo a usted por este medio para informarle que descubrimos que se nos escapó una frase importante en la Minuta de Discusiones en ambas versiones inglesa y española.

En el inciso tres (3) de la Minuta de "Factores a Tomar en Consideración con Base en los Puntos Identificados en los Talleres", originalmente estaban unas oraciones de la siguiente forma:

"Con base en los resultados de los talleres realizados, la Misión sugiere tomar en cuenta los siguientes factores en las fases siguientes de formulación del Proyecto.

Considerando las necesidades de la población rural son diversas y multi-sectoriales, la orientación inicial del Proyecto solicitado debe modificarse para atender de una forma integral a la población objetivo acorde a las siguientes sugerencias.

3.1 Es necesario fortalecer el sistema existente de los consejos de desarrollo rural, específicamente a los Consejos Comunitarios de Desarrollo (COCODEs) y Consejos Municipales de Desarrollo (COMUDEs).

3.2

Al modificar la secuencia de sugerencias del inciso 3, desapareció del texto el segundo párrafo que dice "Considerando las necesidades de la población rural son diversas y multi-sectoriales, la orientación inicial del Proyecto solicitado debe modificarse para atender de una forma integral a la población objetivo acorde a las siguientes sugerencias".

Este párrafo fue introducido con el propósito de dejar claro nuestro acuerdo con base en el intercambio de opiniones que tuvimos el día 10 de marzo entre ambas partes de Guatemala y Japón, por lo tanto considero indispensable insertarlo como el texto original arriba mencionado. Por esta razón, quiero solicitarle a usted, si no tenga alguna objeción, que se acepte que este párrafo también esté incluido en la Minuta firmada el viernes pasado.

Agradezco de antemano su comprensión.

Sin otro particular por el momento, quedo de usted.

Atentamente.

Licda. Kyoka Noguchi
Jefa de la Misión de Estudio Preparatorio
Agencia de Cooperación Internacional del Japón

c.c. Ing. Armando Palomo Sartorio, Coordinador de la Unidad de Proyectos y Cooperación Externa,
Ministerio de Agricultura, Ganadería y Alimentación de la República de Guatemala
c.c. Ing. Juan Antonio Flores, Subdirector de Cooperación Internacional Bilateral, Secretaría de
Planificación y Programación de la República de Guatemala
c.c. Lic. Masami Shukunobe, Representante Residente de JICA en Guatemala

14 de marzo, 2005

Ing. Armando Palomo Sartoris
Coordinador de la Unidad de Proyectos y Cooperación Externa,
Ministerio de Agricultura, Ganadería y Alimentación de la República de Guatemala

Por medio de la presente le envío un cordial saludo y agradecimiento por habernos atendido amablemente durante nuestra estancia en su país, y quiero manifestarle que nos sentimos felices de haber podido firmar una minuta de las reuniones que sostuvimos en las últimas dos semanas. Me dirijo a usted por este medio para informarle que descubrimos que se nos escapó una frase importante en la Minuta de Discusiones en ambas versiones inglesa y española.

En el inciso tres (3) de la Minuta de "Factores a Tomar en Consideración con Base en los Puntos Identificados en los Talleres", originalmente estaban unas oraciones de la siguiente forma:

"Con base en los resultados de los talleres realizados, la Misión sugiere tomar en cuenta los siguientes factores en las fases siguientes de formulación del Proyecto.

Considerando las necesidades de la población rural son diversas y multi-sectoriales, la orientación inicial del Proyecto solicitado debe modificarse para atender de una forma integral a la población objetivo acorde a las siguientes sugerencias.

3.1 Es necesario fortalecer el sistema existente de los consejos de desarrollo rural, específicamente a los Consejos Comunitarios de Desarrollo (COCODEs) y Consejos Municipales de Desarrollo (COMUDEs).

3.2

Al modificar la secuencia de sugerencias del inciso 3, desapareció del texto el segundo párrafo que dice "Considerando las necesidades de la población rural son diversas y multi-sectoriales, la orientación inicial del Proyecto solicitado debe modificarse para atender de una forma integral a la población objetivo acorde a las siguientes sugerencias".

Este párrafo fue introducido con el propósito de dejar claro nuestro acuerdo con base en el intercambio de opiniones que tuvimos el día 10 de marzo entre ambas partes de Guatemala y Japón, por lo tanto considero indispensable insertarlo como el texto original arriba mencionado. Por esta razón, quiero solicitarle a usted, si no tenga alguna objeción, que se acepte que este párrafo también esté incluido en la Minuta firmada el viernes pasado.

Agradezco de antemano su comprensión.

Sin otro particular por el momento, quedo de usted.

Atentamente.

Licda. Kyoka Noguchi
Jefa de la Misión de Estudio Preparatorio
Agencia de Cooperación Internacional del Japón

c.c. Ing. Julio Rufino Salazar, Gerente General del Instituto de Ciencia y Tecnología Agrícolas de la República de Guatemala
c.c. Ing. Juan Antonio Flores, Subdirector de Cooperación Internacional Bilateral, Secretaría de Planificación y Programación de la República de Guatemala
c.c. Lic. Masami Shukunobe, Representante Residente de JICA en Guatemala

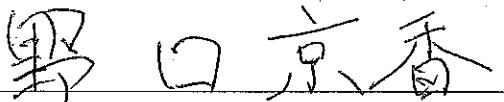
MINUTES OF MEETING
BETWEEN THE JAPANESE PREPARATORY STUDY TEAM
AND THE MINISTRY OF AGRICULTURE, LIVESTOCK AND FOOD
OF THE REPUBLIC OF GUATEMALA
FOR THE PROJECT "IMPROVEMENT ON THE STANDARD OF LIVING
OF SMALL-SCALE FARMERS IN POVERTY IN THE HIGHLAND OF GUATEMALA"

The Japanese Preparatory Study Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") headed by Ms. Kyoka Noguchi has visited the Republic of Guatemala from March 1 to 21, 2005 for the purpose of fact-finding the proposed project entitled "Improvement on the Standard of Living of Small-Scale Farmers in Poverty in the Highland of Guatemala" (hereinafter referred to as "the Project").

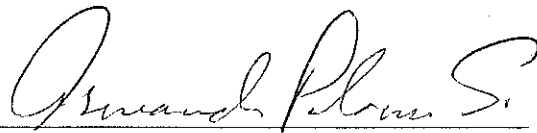
During its stay in the Republic of Guatemala, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Guatemalan side on the Project. As a result of the discussions, the Team and the Guatemalan side agreed to report to their respective Governments the matters referred to in the document as attached hereto.

This Minutes of Meeting has been prepared in English and Spanish languages, each text being equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

Guatemala City, Guatemala, March 11, 2005



Ms. Kyoka Noguchi
Leader
Japanese Preparatory Study Team
Japan International Cooperation Agency
Japan

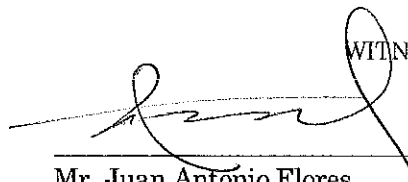


Mr. Armando Palomo Sartoris
Coordinator of International Cooperation
Ministry of Agriculture, Livestock and Food
Republic of Guatemala



Mr. Julio Rufino Salazar
General Manager
Institute of Science and Agricultural Technology
Republic of Guatemala

WITNESS



Mr. Juan Antonio Flores
Sub director of International Cooperation
Presidential Secretariat of Planning and Programming
Republic of Guatemala

ATTACHED DOCUMENT

1. Background of the Dispatch of the Team

Based on the results of the Master Plan Study and the Verification Study of the Master Plan on Sustainable Rural Development for the Reduction of Poverty in the Central Highland Region of the Republic of Guatemala in the period from 1999 to 2003, the Ministry of Agriculture, Livestock and Food (hereinafter referred to as "MAGA") requested technical cooperation project to the government of Japan. The profile of the proposed project was examined in Japan, and it was perceived that the idea of the project was to improve the standard of living of small-scale farmers in poverty. The Department offices of MAGA were to offer training on small-scale farming technologies and rural life improvement techniques, to extend such technologies and techniques in collaboration with NGOs. Nevertheless, the contents of the official request for the Project were to strengthen the capacity of Institute of Science and Agricultural Technology (ICTA) in order to extend the farming technology to the small-scale farmers in poverty.

On the other hand, JICA turned into an independent administrative institution as of October 2003 as a result of Japan's administrative reform plan, giving greater emphasis on the formation of projects which directly benefit the people of the community. Taking into account such a change in institutional policies, JICA headquarters sent this Team to examine a possible framework of the Project as not only technology transfer to governmental institutions but also a rural development project which corresponds to real needs of the people in poverty.

2. Results of the Workshops

With participation of governmental institutions and civil society, the Team organized two (2) workshops in order to identify diverse problems which the small-scale farmers face, and to confirm the existing supporting mechanism to correspond to their needs. The results of these workshops are described in the Annex.

3. Factors to be considered at Project Formulation based on the Points identified at the Workshops

On the basis of results drawn through the workshop, the Team suggests the following

(M)

JB EJ

factors to be taken into account at the project formulation.

- 3.1 It is necessary to strengthen the existing system of rural development council, specifically the Community Development Councils (hereinafter referred to as "COCODEs") and Municipality Development Councils (COMUDEs)
- 3.2 At the moment of implementation of the project, it is indispensable to strengthen the capacity of the "inter-institutional coordination" through the participation of multiple institutions; therefore, this point should be considered on building the mechanism of the implementation of the Project.
- 3.3 To strengthen functions of COCODEs, mini-projects will be implemented at community level within the framework of the Project. A mini-project refers to a project which will be planned according to the needs of each community after having selected the target municipalities.
- 3.4 In implementing mini-projects, the Project does not include financial supports for the construction of social infrastructure, unless they are financed with national resources. The mini-projects must include projects which improve agricultural productivity.
- 3.5 Financial supports necessary to implement mini-projects should be acquired as much as possible through social funds or other types of funding for rural development which exist within Guatemala.

4. Preconditions required by the Team to design the Project

The second preparatory study of the Project will be realized once all the following conditions are satisfied.

- 4.1 It is necessary that MAGA proposes a mechanism to implement the Project altogether with other actors of the government and the civil society which have presence in the target area of the Project.
- 4.2 MAGA and other organizations as possible implementing agencies, in collaboration with JICA, must make a study to examine the capacity of the municipalities to participate in the Project. A proposal will be elaborated for the selection of the target municipalities, using several indicators including this study.
- 4.3 MAGA will prepare and submit to JICA a concrete plan which explains how MAGA will be able to coordinate and promote technical assistance to the farmers in a sustainable way in productive projects.

5 General description of the Possible Project

- 5.1 Vision of the Project: Rural communities developed through inter-institutional coordination which allows project implementation in more efficient, effective and transparent way.
- 5.2 Title of the Project: The title of the project will be discussed during the second preparatory study, after defining of the project's outputs.
- 5.3 Duration of the Project: The duration will be considered within a scope of three (3) to five (5) years.
- 5.4 Target municipalities of the Project: The target municipalities will be determined during the second preparatory study within the Plateau of the country, based on the proposal elaborated in advance.

④

④

95. f

Annex

Summary of the Results of the Preliminary Workshop in Quetzaltenango

◆ **Objective of the Workshop:**

To understand the actual situation on the problems in the rural communities and on the functions of the stakeholders who assist the rural communities.

◆ **Date:**

3 - 4 March 2005

◆ **Place:**

Quetzaltenango City, Department of Quetzaltenango

◆ **Participants:**

50 participants on Day 1 and 40 on Day 2.

(Professional integrants from the governmental institutions, NGOs, private companies, farmers' associations, social funds, etc.)

◆ **Major Findings:**

1. The problems which the small-scale farmers face in the rural area are principally agricultural ones, but they also include wider issues related to the education, health, environment, etc.
2. The basic information of each stakeholder was identified. Each has particular activities, strengths and weaknesses and interacts with the communities in the rural area.
3. In order to correspond to the farmers' needs, supports are provided by a number of governmental and non-governmental organizations such as NGOs.
4. However, each has limited budget and personnel. Therefore just one organization cannot correspond to all the communities' needs.
5. There's no total and functional interinstitucional coordination, so the assistance is given in an inefficient way.
6. According to the laws, the system of rural development councils plays a principal role in assisting the rural development.
7. There were opinions that it is important to have the system of rural development councils as an axis so as to coordinate assistance to rural development.
8. It was discussed that sustainability and equitable participation of the community members are important in rural development projects..

Summary of the Results of the Workshop in Guatemala City

◆ **Objective of the Workshop:**

To exchange opinions on the future project based on the results of the preliminary workshop and the participants' ideas of this workshop.

◆ **Date:**

9 March 2005.

◆ **Place:**

Guatemala City, Department of Guatemala



◆ **Participants:**

19 participants.

(Professional integrants from the governmental institutions, NGOs, private companies, social funds, etc.)

◆ **Major Findings:**

1. The workshop participants got to know the results of the preliminary workshop in Quetzaltenango and shared the viewpoints.
2. Although it is difficult to summarize the definition of a "developed community in the rural area," the participants tried one in agreement.
3. There is much room for improvement of the functions which the development councils should fulfill.
4. Many organizations are giving necessary support so that the development councils function efficiently.
5. The conditions given by JICA to implement the future project were accepted by the Guatemalan participants..
6. The participating institutions showed interest in giving assistance to the future project of rural development.



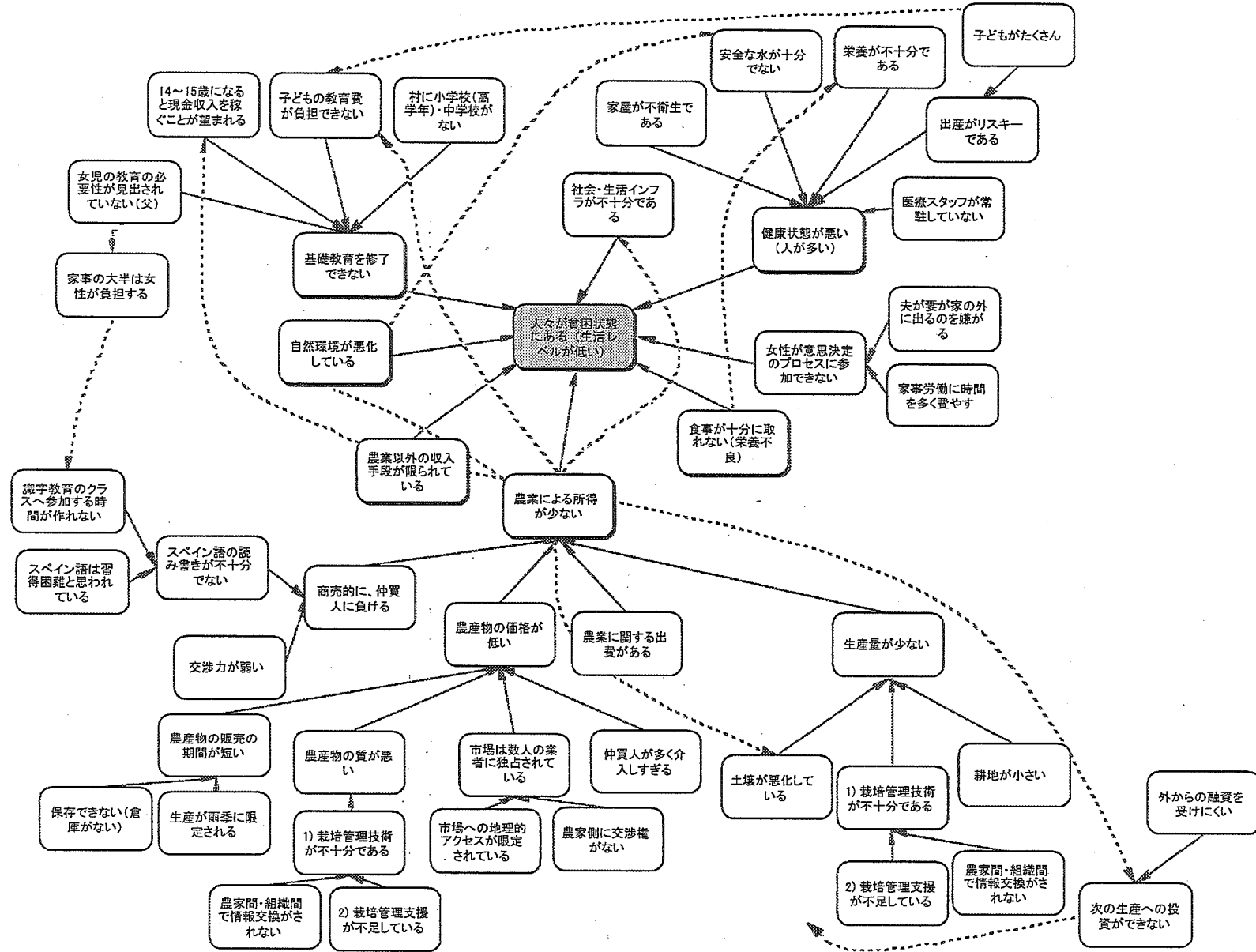
A large, stylized handwritten signature or initials, possibly 'J.S. R.', located in the bottom right corner of the page.

事前ワークショップ参加者リスト
(2005年3月3、4日、ケツアルナンゴ)

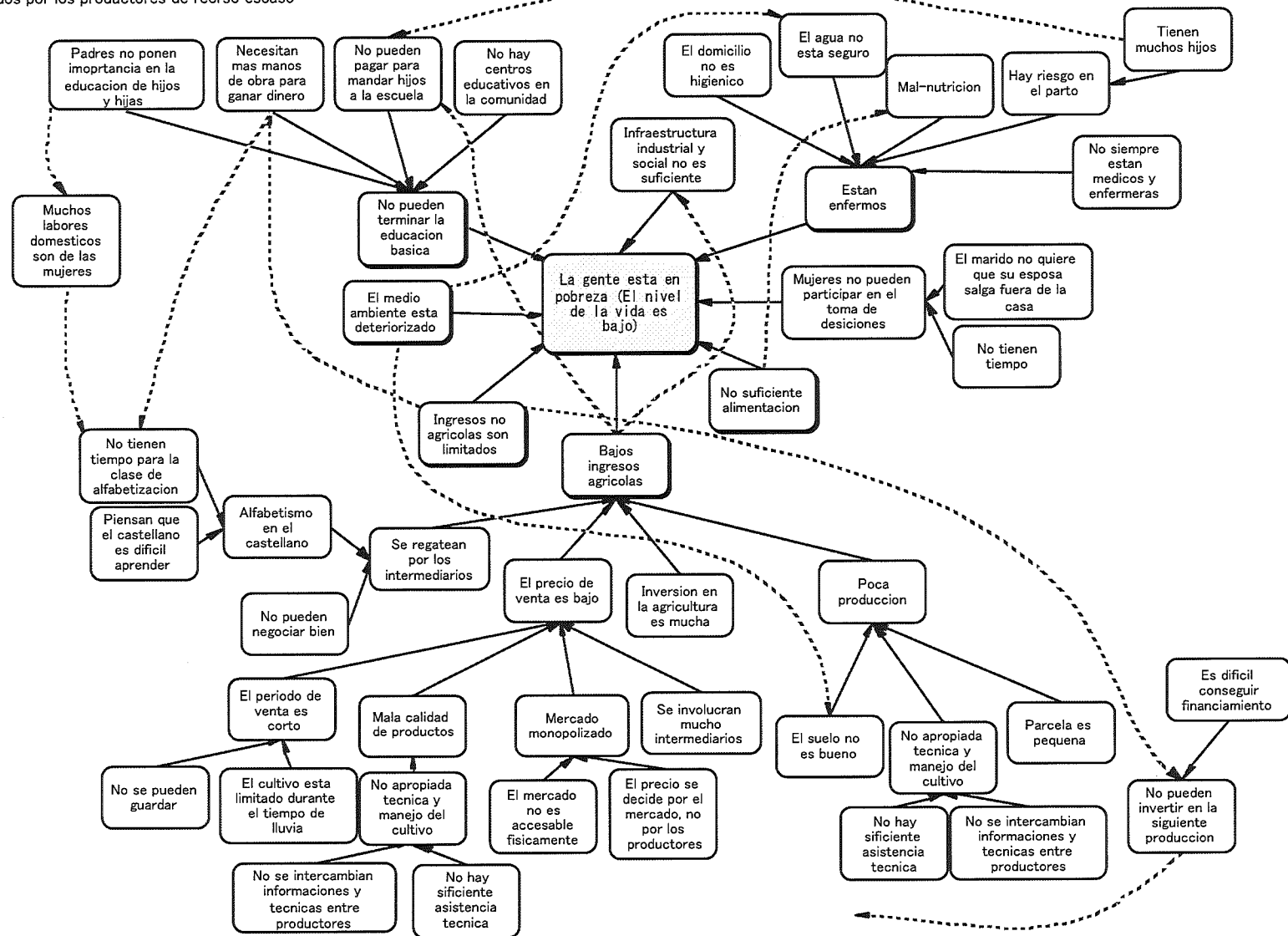
| | 氏名 | 所属 | 役職 | 参加 | |
|----|------------------------------------|--|-----------------------------|----|----|
| | | | | 3日 | 4日 |
| 1 | Julio Rufino Salazar | ICTA | Gerente General | × | |
| 2 | Julio A Franco Rivera | ICTA | Director | × | × |
| 3 | Tomás Silvestre | ICTA-CIAL | Director de CIAL | × | × |
| 4 | William de León Cifuentes | ICTA-CIAL | Investigador | × | × |
| 5 | Gustavo Tovar | ICTA-CIAL | Sub-director | × | × |
| 6 | Eduardo Cifuentes | MAGA Quetzaltenango | Coordinador | × | × |
| 7 | Victor M. | MAGA Quetzaltenango | Planificacion y Seguimiento | | × |
| 8 | Jonatan T.Velasquez | MAGA Totonicapán | Proyectos | × | × |
| 9 | Ramon Walter Pérez | MAGA Totonicapán | Coordinador | × | × |
| 10 | Wuenseslao Roblero | MAGA San Marcos | Planificacion | × | × |
| 11 | Rafael Villatoro García | MAGA Sololá | Planificacion | × | |
| 12 | Jorge A. Granados | MAGA Huehuetenango | Coordinador | × | × |
| 13 | Obovilo Rolando Ruiz | MINEDUC Quetzaltenango | Asistente UDE | × | × |
| 14 | Mario Rene Perez | MINEDUC Quetzaltenango | CTA | × | × |
| 15 | Lisandro Cifuentes | Area de Salud, MINSALUD Quetzaltenango | Coordinador Extencion | × | |
| 16 | Juan Chojoj | Area de Salud, MINSALUD Quetzaltenango | Coordinador | × | |
| 17 | Carlos Barrios | SEGEPLAN Quetzaltenango | Jefe Departamental | × | |
| 18 | Geradin Díaz | FIS | Delegado Departamental | × | × |
| 19 | Mario de León | FUNDAP | Coordinador | × | |
| 20 | Jaime Sacor | Municipalidad Quetzaltenango | Asesor Municipal | × | |
| 21 | Julio A. Escobar | COMUDE Quetzaltenango | Coordinador | × | × |
| 22 | María | COCODE Quetzaltenango | Finanzas | × | |
| 23 | Nohemi E. De León | COCODE Quetzaltenango | Sector Mujer | × | × |
| 24 | Arturo Rodriguez | COMUDE Quetzaltenango | Coordinador | × | × |
| 25 | Oliverio de Leon | COMUDE Quetzaltenango | Coordinador | × | × |
| 26 | Mario Roberto López | COMUDE San Marcos | Secretario COCODE | × | × |
| 27 | Mireily Rosario de León | COMUDE San Marcos | Integrante | × | × |
| 28 | Shirley Muñoz | COMUDE San Marcos | Integrante | × | × |
| 29 | Bilma Arely Rodriguez | COCODE San Marcos | Presidenta | × | × |
| 30 | Simeón Wenceslao Romero Roblero | Asociación de Papicultores de San Juan Ostuncalco, Quetzaltenango | Presidente | × | |
| 31 | Patrosini | Asociación de Papicultores | N.A. | | × |
| 32 | Celso Rmirez | Asociación de Mujeres de Desarrollo Integral Ixchiguan, San Marcos | Coordinador | × | × |
| 33 | Antonio M. Coronado Ramirez | Asociación de Fruticultores Comitancillo, San Marcos | Coordinador | × | × |
| 34 | Felipe Losenzosales | Asociación de ASOMAM, San Sebastián, Huehuetenango | Presidente | × | × |
| 35 | Leonardo Gomez | Asociación ASOMAM | Secretario | × | × |
| 36 | Leopoldo Tello | Asociación ADAT, Todos Santos Cuchumatan, | Tecnico Local | × | × |
| 37 | Oscar Gómez | Asociación ADAT | Gerente | | × |
| 38 | Augusto Dionicio | Asociación AJTIKONEL, Santa María Chiquimula | Promotor | × | × |
| 39 | Rigoberto García | CPD | Coordinador de Programs | × | |
| 40 | Erwin Chavarria | FAFIDESS | Director Operativo | × | × |

| | 氏名 | 所属 | 役職 | 参加 | |
|----|----------------------|---|------------------------|----|----|
| | | | | 3日 | 4日 |
| 41 | Nery Zerrada | FAFIDESS | Director Microfinanzas | × | × |
| 42 | Aura Pisquiy | PIES de Occidente | Directora | × | |
| 43 | José Alfonso Ixcot | Movimiento Tzuk Kim Pop CEDEPEM | Coordinador | × | |
| 44 | Adolfo López Sok | Movimiento Tzuk Kim Pop | Coordinador | × | |
| 45 | Manuela Xum | Comité Mujeres de Panyebar, San Juan, Sololá | N.A. | × | × |
| 46 | Juana Garxia | Comité Mujeres de Panyebar | Presidenta | × | × |
| 47 | Margalito | Comité de Riego, Xeatzán Bajo, Chimaltenango | Presidente | × | × |
| 48 | Lorezo Bajan | Comité de Riego, Xeatzán | Tesorero | × | × |
| 49 | Brigido Cuy C. | Comité de Riego, Xeatzán | Vocal | × | × |
| 50 | Arnoldo Marroquin M. | REINSA | Gerente General | × | × |
| 51 | Oscar Figueroa | REINSA | Gerente de Proyectos | × | × |
| 52 | José Angel Marroquin | REINSA | Consultor Proyectos | × | × |
| 53 | Sebastiana Pol Suy | (Traductora Español-Quiche) | N.A. | × | × |
| 54 | Cleotilde Vasquez | (Traductora Español-Keqchi) | N.A. | × | × |
| 55 | 大久保 泰江 | JICA調査団 | | × | × |
| 56 | 柚木 快夫 | JICA調査団 | | × | × |
| 57 | 八木 優子 | JICA調査団 | | × | × |
| 58 | 宮川 弘 | JICA専門家(MAGA所属) | | × | × |
| 59 | 藤野 晴美 | JICAグアテマラ事務所 | | × | × |
| 60 | 横島 賢太郎 | JICAグアテマラ事務所 | | × | × |

セッション1: 貧困農家が直面する問題



Sesion 1:
Problemas enfrentados por los productores de recerso escaso



Sesión 2: Perfil General de los Actores Involucrados en el Desarrollo Rural

<Ministerios, Secretarías e Institutos>

MAGA oficina departamental

| | |
|----------------------------------|--|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 1 Coordinador departamental • 1 Profesional en planificación y seguimiento • 1 Profesional en organización empresarial • 1 Técnico en información estratégica • 1 Profesional en servicios técnicos • 10 Técnicos de campo • 1 Secretaria, 1 Conserje, 1 Administrador financiero, • 2 Epidemiólogos |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Operativizar las políticas agropecuarias • Identificación de demandas • Sistema de información • Fortalecimiento de organizaciones • Sistemas de riego • Créditos • PINFOR, PINFRUTA, Proyectos de seguridad alimentaria, • Acceso y regularización de tierras, Programa de arrendamiento, • Vigilancia epidemiológica, Transferencia de tecnología, Inocuidad de alimento, • Sanidad avícola, Parcelas demostrativas, Distribución de fertilizantes, Desarrollo turístico, Resolución de conflictos, Proyectos productivos |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Presupuesto nacional • FIDEICOMI |

ICTA Guatemala

| | |
|----------------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 1 Gerente general, 4 Gerentes regionales, 3 Directores de programas • 70 Técnicos de generación y transferencia tecnológica • 65 Administradores, 55 Operadores |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Generación y promoción de tecnología agropecuaria • Programa: Mejoramiento de plantas y animales • Subprograma: Maíz, Frijol, Trigo, Hortalizas (Papa, Ajo Cebolla, Arveja china, minivegetales, Espárrago) • Producción de semillas: Maíz, Frijol, Papa, Trigo y Avena • Programa: Recursos naturales • Subprogramas: Agroforestal, Forestal, Biodiversidad • Programa de Agro-industria • Dar a valor agregado, Procesamiento de alimentos, Manejo post-cosecha • Unidad de promoción y apoyo tecnológico • Subunidad: Validación y transferencia de tecnología, Subunidad de capacitación, Subunidad de vinculación, Subunidad de promoción y mercado, Subunidad de producción de semillas • Unidad de apoyo: • Laboratorio de biotecnología, Banco de germoplasma, Laboratorio de suelo y agua |

| | |
|----------------------------------|---|
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Gobierno de Guatemala • Fondos competitivos • Proyectos colaborativos • Centros de investigaciones internacionales |
|----------------------------------|---|

SEGEPLAN Quetzaltenango

| | |
|----------------------------------|--|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 1Jefe de oficina • 1Consultor de proyecto • 1Técnico de informática |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Planificar inversión del Consejo de Desarrollo • Ingresar y evaluar proyectos para el SNIP • Secretaria Técnica del Consejo departamental • Coordinar Unidad Técnica Departamental del COCODE • Asesorar a oficinas municipales de planificación • Apoyar Comisión Departamental de Coordinación de Fondos Sociales |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Presupuesto de gobierno |

Dirección departamental de educación MINEDUC

| | |
|----------------------------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 1 Director • 6 Coordinadores • 6 Secretarías • 35 Supervisores • 720 Directores • 6,500 docentes |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Prestar servicios educativos formales y no formales en los niveles pre primario – primario y medio |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Estatal – privado mixto e internacional |

Dirección Área de Salud, Quetzaltenango

| | |
|---------------|--|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • Directora de Área • Coordinador de la Unidad de Desarrollo de los Servicios • Coordinador departamental de epidemiología • Coordinador departamental de enfermería • Coordinador de saneamiento • Coordinador programa extensión cobertura • Coordinador técnicas en salud rural • Coordinador de promoción TS • 19 médicos jefes de distritos municipales • 22 técnicas en salud rural • 18 enfermeras profesionales • 40 auxiliares de enfermedad en puestos de salud • 17 médicos ambulatorios • 17 facilitadores institucionales • 1,190 vigilantes de salud • 380 comadronas |
|---------------|--|

| | |
|----------------------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> • Gerente financiero • 1 Coordinador / contable administrativo • Jefe de suministros • 1 encargado de intendencia • 1 encargado pilotos • 1 encargado inventarios |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • 8 políticas • 17 prioridades |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Fondos del estado |

<Fondos Sociales>

FIS

| | |
|----------------------------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • Delegado departamental • 1 asistente administrativa • 1 monitor social • 1 monitor de infraestructura • 1 facilitador POCC (Programa de organización y coordinación comunitaria) • 2 promotores rurales • 1 asistente de limpieza |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Abastecimiento del agua • Construcción y equipamiento de escuelas • Const. Y Equip. C. Conucrgencia • Alcantarillado • Caminos de acceso • Letrinas • Centros de acopio • Proyectos Productivos • Org. y Cap (acitacion) comunitaria • Alimentos por trabajo PMA • Capacitación proyectos productivos |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Gobierno de Guatemala • BID • BCIE, <i>OPEP</i> |

FUNDAP

| | |
|----------------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 1 Director general, 1 Director ejecutivo, 5 Gerentes de programa • 15 Jefes administrativos, 75 Asesores de credito, 8 Técnicos forestales, 3 Técnicos agrícolas • 4 Promotores agrícolas y forestales, 25 Tecnicos de educación • 3 Medicos, 10 Enfermeras, 5 Extensionistas artesanales, etc. • 250 Colaboradores |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Programa de crédito a micro y pequeña empresa • Programa de fomento y desarrollo artesanal • Programa de educación básica para la vida • Programa fomento y desarrollo agropecuario |

| | |
|----------------------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> • Programa de salud preventiva y curativa • Programa desarrollo ambiental |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Fondos propios • Crédito con BCIE • Fundación Codespa de España • DISOP de Bélgica |

<ONGs>

FAFIDESS

| | |
|----------------------------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 69 Colaboradores (60% de hombre, 40% de mujer) • Junta directiva • 1 Director ejecutivo • 1 Director operativo • 1 Director Micro-Finaciamento, 1 Director administrativo • 1 Coodonadore de sistemas, 1 Coodinador de capacitación, 1 Coordinador de comercialización • 4 Coordinadores regionales, 9 Supervisores, 34 Técnicos de crédito • 7 Asistentes administrativos, 5 Auxiliares contabilidad, 2 Secretarias, 6 Mantenimientos y servicios |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Financiamiento a proyectos productivos y proyectos de mujeres. • Capacitación y comercialización. |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Fondos propios • Cooperación internacional y nacional: AID, Banco privados, BID, ASDI-FDLG, CODESPA • Fondos nacionales |

<Empresas Privadas>

REINSA

| | |
|----------------------------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 1 Gerente general • 1 Gerente de proyecto • 10 Consultores • 1 Supervisor • 10 Ejecutores de proyectos • 6 Administradores y logística |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Programa de salud y animal comunitaria • Consultorias, estudios, ejecución de proyectos productivos • Programas de apoyo y fortalecimiento de organizaciones. • Alianza estratégicas para la ejecución de recursos financieros y para la ejecución de proyectos. |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Recursos propios • Congestión con gobierno • Congestión con coop. Internacional |

<Asociaciones de Productores>

AMDIS San Antonio IX

| | |
|----------------------------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none">• 1Coordinador, 1Presidente, 1Tesorero, 1Secretario vocal• 22 Miembros hombres y mujeres |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none">• Trabajos agrícolas y agropecuarios• Papa, Maíz, Aves, Trigo• Ovejas, Aves |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none">• Prestamos• Instituciones |

AJTIKONEL (El Sembrador)

| | |
|----------------------------------|--|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none">• 1Director• 1Coodinador de programa• 2Promotores• 5Junta directivas |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none">• Dirige la organización, solicita proyecto• Formula proyecto, realiza visitas de area, realiza capacitaciones y talleres, realiza diagnóstico• Realizan visitas de campo, promueven trabajos con grupos, elaboran abono organico, hacen filtración de agua servida, Construcción de invernadero, demostración de huertos familiares y a través de organoponico, visitan a grupos de artesanía de mujeres• La Junta directiva prueban los créditos y proyectos pequeños a los grupos de las 14 comunidades y son proyectos de productividad |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none">• CIEDEC |

ASOMAN

| | |
|----------------------------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none">• 1Director, 1Coodinador, 1Facilitadora, 1Promotor agrícola, 1Contador,• 478Socios activos |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none">• Tomar decisiones para los trabajos• Coordinar el equipo técnico• Capacita los beneficiaria grupos de la asociación• Dar capacitación agrícola grupos asociados• Llevar la contabilidad de la asociación |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none">• Recurso propio |

Asociación de papicultores

| | |
|----------------------|--|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none">• 1Presidente, 1Vice presidente, 1Secretario, 1Pro secretario, 1Tesorero, 1Pro tesorero, Vocales,• 2000Socios |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none">• Mejorar la producción y comercializar la papa• Mejorar la vida a los asociados y población en comunidad• Centro de acopio• Representante legal, Coordina reunión o sección• Ayuda presidente |

| | |
|----------------------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> • Valmar actas en la sección, hace notas para otras organizaciones • Cuando no está el secretario, levanta actas • Recaudar fondos, Controlar los recursos, de la asociación • Ayuda al tesorero • Ser comisiones |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Recursos de los socios |

Movimiento TZUK Kim POP

| | |
|----------------------------------|--|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 1Coodonador ejecutivo • 4Directores de las organizaciones miembros • 14Coodinadores de programas • 55Tecnicos de campo • 5Administradores • 5Contadores • 8Voluntarios |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Formación y capacitación • Promoción de de la org. y participación social • Acceso a créditos, Asistencia técnica • Atención medica, Investigación, Sistematización • Incidencia mediante propuestas en todos los niveles • Asesoría y acompañamiento |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Cooperación externa • ONG's internacionales, Fondos de gobierno, Ingresos propios • Prestamos con entidades financieros |

Asociación de Agricultores de Tinacos

| | |
|----------------------------------|--|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 1Presidente, 1Gerente, 1Contador • 1Tecnico agrícola, 1Tecnico forestal, 2Extensionistas agrícolas locales, 2Extensionistas forestales • 1Tecnico social |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Representa asociación en sus actos legales • Busca los apoyos a proyectos a beneficio de la asociación • Encargado de administración financiera • Brinda asistencia agrícola de café y hortaliza • Brinda asistencia técnica de reforestación y mantenimiento de áreas protegidas • Acompañamiento a los agricultores para continuar con asistencia agrícola • Atienden personas interesados en reforestar parcelas y conservación de medio ambiente • Encargado de planificar y coordinar actividades sociales |
| Fuentes de financiamiento | |

Asociación de Fruticultores, Municipio de Comitancillo, San Marcos

| | |
|---------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • Junta Directiva • Presidente, Vice-presidente, Secretario, Tesorero, 2 vocales • Coordinador y Promotor quien se encarga en coordinar actividades de campo y administrativo |
|---------------|---|

| | |
|----------------------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> • Promotor de campo quien se encarga en capacitar a socios • Contador que se encarga com el financiamiento • Socios de AFC trabajando con viveros forestales y frutales • Viverista quien se encarga en cuidar plantas en vivero |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Vivero experimental • Otras actividades de desarrollo |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Apoyo de socios (Sin apoyo financiera) • Apoyo de MAGA en personal de campo 50% |

Grupo de mujeres para el desarrollo de panyebar

| | |
|----------------------------------|--|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 5 directiva • 1 vigilante de salud • 1 atendiendo a hogar comunitario • 1 atendiendo en CONALFA • 5 comité de educación • 9 comité de COCODES • 7 comité de agua potable • 8 comité de energía electrónica • 7 comité de carretera |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • coordinar todos los comités • solicitar proyectos • convocar a madres para control de peso, vacunacion, ver si necesitan vitaminas, higiene • atención a 10 ninos: desayuno, refaccion, almuerzo, limpieza • atención en estimulación temprana • alfabetizar a madres, padres, jóvenes y señores • velar por una Buena educación de los niños que el fondo financiamiento se invierta bien • Recibe e informa los procesos en las proyectos en los proyectos solicitados • si funciona bien el agua, si esta limpio el tanque, si se rimpen tuberias, la mantenimiento. • mantenimiento del servicio • mantenimiento de las carreteras |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • contribución comunitaria • 2. fis, sosep |

< Municipalidades y Consejos de Desarrollo >

COMUDUR San Marcos

| | |
|----------------------|--|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 1 Coordinador • 8 Comisiones (Infra, Educación, Salud, Mujer, Juventud, Capacitación, Comida en escuela, Becas para niños) • Representantes de COCODE • Representantes de instituciones • Oficina de planificación |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Desarrollo integral de municipio |

| | |
|----------------------------------|---|
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Gestión a organizaciones • Nacionales y internacionales • Fundabiem (Fundación para el bienestar del minusválido) |
|----------------------------------|---|

Municipalidad Quetzaltenango

| | |
|----------------------------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • Alcalde municipal • Consejo municipal • 3 Síndicos • Empleados municipales • Asesores • Cargos U.B.S.S. • Coordinador • 3 Técnicos asesores • 1 Secretaria |
| ¿Que hacemos? | <p>(Organizaciones)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oficinas administrativas • Medio ambiente (Limpieza y parque) • Registro civil • Tesorería • Catastro • Servicios públicos (Infraestructura) • Juzgados asuntos municipalidades • PMT • PM • EEM • Emax. • Unidad básica de Servicios Sociales UBSS <p>(Funciones municipalidades)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Administración territorial municipio • Promover el desarrollo de municipio <p>(Funciones de UBSS)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Fortalecimiento organizacional • COCODES, COMUDES, Alcaldes comunitarios • Priorización de proyectos a nivel comunal • Apoyo a la gestión y seguimiento de proyectos • Coordinación institucional • Apoyo a comisiones municipales |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Aporte gobierno constitucional • Aporte Municipal, institucional y vecinos |

Consejo Comunitario de Desarrollo “Las Tapias”

| | |
|---------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 1 Coordinador general • 1 Sub coordinador • 2 Coordinadores de la salud • 2 Coordinadores de ambiente • 2 Coordinadores de educación • 3 Coordinadores de finanzas |
|---------------|---|

| | |
|----------------------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> • 2 Coordinadores de infraestructura • Comité de agua • Comité pro desarrollo • Comité pro drenaje • Organizaciones religiosos • Comité de energía eléctrica |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Solicitar proyectos • Coordinar a todos en el cumplimiento de las funciones • Velar por la salud de los niños y ancianos • Vela para que no esté sucia las calles y tanque de agua • Vela por la educación de los niños para ver que los maestros trabajen bien y no den muchos feriados • Velar por el buen manejo de los ingresos y que los proyectos se realicen • Mantenimiento de las calles de la comunidad y toda la ciudad |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • CARE • Municipalidad • Consejo Desarrollo Regional |

Consejo Comunitario de Desarrollo “Solidalidad” 14c. 14av. Z3 Xela

| | |
|----------------------------------|--|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 16 Cargos incluyen 2 damas • coordinador general • coordinador de actas • coordinador de finanzas • coordinador de medio ambiente • coordinador de salud • coordinador de educación • coordinador de alumbrado electrónico • con sub coordinadores |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • proponer proyectos de mejoramiento de la comunidad • tenemos varios proyectos • entubado rió seco • adoquín 10c z3 • adoquín 1c z7 • medio ambiente • área verde parque deportivo |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • no tenemos fuente financiera • hemos buscado apoyo financiero en el exterior --- sin resultado |

Consejo comunitario de desarrollo “codeque” zona 5

| | |
|----------------------------------|---|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none"> • 12 integrantes |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none"> • Mejorar su calidad de vida |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Instituciones públicos y privadas, nacionales y extranjeras |

<Cooperantes>

JICA en Guatemala

| | |
|----------------------------------|--|
| Cargos | <ul style="list-style-type: none">• Director• 3 coordinadores de voluntarios• 2 investigadores de planificación• 2 asesores de la seguridad• 7 staff local |
| ¿Que hacemos? | <ul style="list-style-type: none">• Tramite para enviar los voluntarios y los expertos• Planificación de los proyectos• Investigación de las organizaciones que requiere a los voluntarios• Propaganda de las actividades de JICA |
| Fuentes de financiamiento | <ul style="list-style-type: none">• Gobierno del Japón |

Sesión 3: Fortalezas y Debilidades de la Organización

<Ministerios e Institutos>

MAGA

| Fortalezas | Debilidades |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Recursos humano calificado • Conocimiento del área • Sistemas de información • Coordinación interinstitucional • Capacidad de gestión | <ul style="list-style-type: none"> • Recursos escasos • Centralización de los servicios • Poca asistencia técnica • Burocracia administrativa • Escaso acceso a financiamiento • Escasos programas de desarrollo rural • Inestabilidad laboral • Acreditación profesional • Falta de certeza jurídica en los procesos |

ICTA

| Fortalezas | Debilidades |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Infraestructura (edificios, centros de investigación) • Recurso humano calificado • Laboratorios: <ul style="list-style-type: none"> ➤ Biotecnología ➤ Bco. Germoplasma • Planta procesadora de semillas • Invernaderos (Vartos fríos) • Tecnología agrícola (granos basicos, hortalizas, frutales, etc.) • Sistema tecnológico • Alianza con grupos organizados | <ul style="list-style-type: none"> • Presupuesto limitado • Reducción del área de cobertura • Falta de continuidad en el proceso de capacitación del personal técnico |

MINEDUC, Quetzaltenango

| Fortalezas | Debilidades |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • 90% de cobertura en el nivel primaria • demanda del servicio • Coordinación interinstitucional • Apoyo técnico y financiero internacional • Organización comunitaria (Juntas Escolares y COEDUCAS) | <ul style="list-style-type: none"> • Escasa cobertura en los niveles pre primario y medio • Presupuesto insuficiente • Falta de seguimiento a programas y proyectos • Currículo desactualizado y descontextualizado • Falta de actualización y especialización del personal administrativo y técnico • Legislación desactualizada |

Dirección Area de Salud, Quetzaltenango

| Fortalezas | Debilidades |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Red de servicios en todo el departamento • Mística de trabajo en el personal • Contar con el apoyo de casi 1,500 voluntarios comunitarios • Trabajo coordinado con ONGs, ASS, PSS • Contar con un conejo DH de salud • Recurso humano | <ul style="list-style-type: none"> • Disminución de presupuesto • Falta mejorar sistema de supervisión de programas • No coordinar, con otras entidades afine, educación, Intervida, IGSS. • Falta mejorar la recto ria en salud • Contar con pocos programas horizontales de prevenci ´pn y promoción • Altas tasas de mortalidad materna e infantil |

<Fondos Sociales>**FIS**

| Fortalezas | Debilidades |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Amplia cobertura • Aceptación y credibilidad por la comunidades • Relación directa con los beneficiarios • Fuerte demanda de proyectos • Personal eficiente • Cero tolerancia a la corrupción | <ul style="list-style-type: none"> • Corta vida de la institución • Pocos recursos financieros asignados • Falta de personal |

<ONG>**ONGs/Financieras**

| Fortalezas | Debilidades |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Estructura organizacional definida • Objetivos específicos definitivos • Misión y visión clara • Conocimiento del área y sectores de acción • Capacidad de gestión • Trabajo en función de resultados | <ul style="list-style-type: none"> • Falta de recursos • Marco regulatorio legal no definitivo • Falta coordinación interinstitucional • Falta de incidencia en pol+iticas públicos de desarrollo |

<Asociaciones de Productores>

| Fortalezas | Debilidades |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Centro de acopio • Experiencia en plantación y cuidado de árboles frutales • Uso adecuado de los insecticida y fumigación • Organización • Presencia e miniriego • Producción de papa • Tierras disponibles para cultivo de papas • No mucha contaminación del medio ambiente • Grupo reconocido por la municipalidad • Apoyo de las autoridades municipales a los procesos de organización • Recurso humano propio de las comunidades • Recursos naturales a nuestro alcance • Vías de acceso en algunas comunidades | <ul style="list-style-type: none"> • Acceso al mercado • Falta de financiamiento • Bajo precio de los productos, artesanías • No hay políticas para comercialización de los productos (monopolio) T.L.C. • Poco acceso a la tecnología credits, alto interes en prestamos • Intervención de los intermediarios • Impuestos elevados • Precios de los insumos elevados • Herramientas elevadas y de mala calidad • Contaminación por falta de educación técnica en el reciclaje de los recursos • Analfabetismo • Manipulación de organizaciones y estructuras del gobierno • Marginación al desarrollo |

<COMUDUE y COCODEs>

| Fortalezas | Debilidades |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Apoyo de las leyes • Apoyo institucional • Participación de COCODE • Apoyo sociedad civil | <ul style="list-style-type: none"> • Falta de tiempo de representantes (COCODE y COMUDE) • Falta de sedes y equipo • Impuntualidad • Falta de concientización • Desconocimiento de las leyes • Falta de recursos económicos |

Sesión 4: Interacción de los Actores Involucrados en el Desarrollo Rural con las Comunidades

<Ministerios , Secretarias e Institutos>

MAGA

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|--|--|--|---|
| • Organización (fortalecimiento) | • Profesional de organización y Técnicos | • Agricultores | • Semanal |
| • Diagnóstico rural | • Profesional de planificación y Técnicos | • Comités | • Quincenal |
| • Formulación proyectos | • Profesional de planificación y Técnicos | • Asociaciones | • Mensual |
| • Seguimiento y Evaluación | • Profesional de planificación y Técnicos | • Cooperativas | |
| • Transferencia tecnología | • Equipo profesionales y Técnicos | • Grupos de interés | |
| • Infraestructura productiva | • PLAMAR- FONAGRO- PROFRUTA- PARPA- FIDA | | |
| • Planificación | • Equipo profesionales y Técnicos | | |
| • Comercialización | • Cuencas altas- UPJE | | |
| • Créditos | • PROFRUTA- PLAMAR- FONAGRO- FONTLERRA- GRANO BASICOS- POBLACIONES DESARRAJGDDAS | | |
| • Capacitación | • Equipo profesionales y Técnicos | | |
| • Para saber las necesidades de las comunidad: - Diagnósticos - Visitas domicilias - Demandas - Reuniones COMUDEs- COCODEs - Informes de desarrollo - Coordinación inter-institucional | • Equipo profesionales y Técnicos de proyectos | • Agricultores • Lideres comunitarios • Asociaciones • Cooperativas • Promotores • Extensionistas | • Semanal • Quincenal • Mensual |
| • Seguimiento | | | • Semanal • Quincenal • Mensual |

ICTA

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Prueba de tecnología • Validación de tecnología • Promoción de tecnología • Capacitación • Asistencia técnica | <ul style="list-style-type: none"> • Técnicos especializados en semillas, granos básicos, control integrado de plagas, hortalizas, recursos naturales, producción animales (caprinos, avinos, etc.) | <ul style="list-style-type: none"> • Grupos formados (asociaciones) • Agricultores colaborados • Agricultores líderes, promotores agrícolas, técnicos locales, autoridades de la asociaciones | <ul style="list-style-type: none"> • Semanal |
| <ul style="list-style-type: none"> • Demanda y diagnósticos (MAGA, empresa privada, asociaciones, ONGs) | <ul style="list-style-type: none"> • Equipo multi-disciplinario | <ul style="list-style-type: none"> • Agricultores líderes, promotores, autoridades de asociaciones. | <ul style="list-style-type: none"> • Anual o dependiendo de la demanda. |

MINISTERIO DE EDUCACION, Quetzaltenango

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Educación formal: ➤ Atención a educandos en el sistema escolarizado | <ul style="list-style-type: none"> • Docentes | <ul style="list-style-type: none"> • Niños y niñas • Padres y madres de familia | <ul style="list-style-type: none"> • Siempre |
| <ul style="list-style-type: none"> • Educación no formal ➤ Atención a menores y mayores de edad en el sistema no escolarizado (alfabetización, educación primaria, capacitación de repostería cocina, etc.) | <ul style="list-style-type: none"> • Técnicos en Educación no formal | <ul style="list-style-type: none"> • Niños y niñas, jóvenes y señoritas • Madres de familia | <ul style="list-style-type: none"> • Siempre |
| <ul style="list-style-type: none"> • Ejecución de programas y proyectos con Juntas Escolares y COEDUCAs (Bolsas y becas de estudio, alimentación escolar útiles escolares, mejoramiento de infraestructura) | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador de la Oficina de Servicios a la Comunidad (OSC) • Supervisores Educativos • Directores y docentes | <ul style="list-style-type: none"> • Padres y madres de familia | <ul style="list-style-type: none"> • Siempre |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para saber las necesidades de las comunidad | <ul style="list-style-type: none"> • Directores de centros educativos • Supervisores educativos • Coordinadores de unidades de las direcciones departamentales | <ul style="list-style-type: none"> • Estudiantes • Padres y madres de familia • Líderes comunitarios • Autoridades locales | <ul style="list-style-type: none"> • Siempre |

| | | | |
|---|---|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> • Director Departamental | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Seguimiento | <ul style="list-style-type: none"> • Directores de centros educativos • Supervisores educativos | <ul style="list-style-type: none"> • Juntas Escolares | <ul style="list-style-type: none"> • Algunas veces |

Dirección Área de Salud, Quetzaltenango

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Organización capacitación de COCODEs y COMUDEs | <ul style="list-style-type: none"> • Inspectores • Técnicos y trabajadores sociales de salud | <ul style="list-style-type: none"> • Comités • Lideres Alcaldes A | <ul style="list-style-type: none"> • Mensualmente |
| <ul style="list-style-type: none"> • Educación en salud | <ul style="list-style-type: none"> • Auxiliares de enfermera • TSR (Técnico de Salud Regional) • Médico • Promotores CAY | <ul style="list-style-type: none"> • Vigilantes de salud COCODEs • Comadronas | <ul style="list-style-type: none"> • Diario |
| <ul style="list-style-type: none"> • Atención de morbilidad institucional | <ul style="list-style-type: none"> • Personal médico y para-médico de 59 servicios de salud | <ul style="list-style-type: none"> • Comités de salud • Vigilantes • Comadronas • Autoridades local | <ul style="list-style-type: none"> • De lunes a viernes |
| <ul style="list-style-type: none"> • Atención de morbilidad comunitaria | <ul style="list-style-type: none"> • Facilitador institucional • Médico A | <ul style="list-style-type: none"> • Facilitadores comunitarios | <ul style="list-style-type: none"> • Todos los días |
| <ul style="list-style-type: none"> • Alimentación complementaria | <ul style="list-style-type: none"> • A/S de San Juan Consepción, Olintepeque, El Palmar • Director CS | <ul style="list-style-type: none"> • Comités • Comadronas | <ul style="list-style-type: none"> • Mensualmente |
| <ul style="list-style-type: none"> • Monitoreo de calidad de agua | <ul style="list-style-type: none"> • 19 distritos de salud • Inspector | <ul style="list-style-type: none"> • Comité de agua • Municipalidades | <ul style="list-style-type: none"> • Mensualmente |
| <ul style="list-style-type: none"> • Promoción de crecimiento y desarrollo | <ul style="list-style-type: none"> • San Juan, Coatepeque, El Palmar, Sija, Santeo El Alto, Quetzaltenango, xxx, San Martín, xxx, Olintepeque • Vigilantes de salud | <ul style="list-style-type: none"> • Vigilantes de salud | <ul style="list-style-type: none"> • Mensualmente |
| <ul style="list-style-type: none"> • Diagnosticar de salud causas para saber necesidades | <ul style="list-style-type: none"> • Técnicos en salud • Trabajadores sociales PSS/ASS | <ul style="list-style-type: none"> • Comité voluntario | <ul style="list-style-type: none"> • Anualmente |

| | | | |
|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Supervisión a los servicios | <ul style="list-style-type: none"> • Equipos técnicos | <ul style="list-style-type: none"> • Presentación xxx comunitaria a líderes comunitarios • Comités, etc. | <ul style="list-style-type: none"> • Bimensualmente |
|---|--|--|--|

<Fondos Sociales>

FIS

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Visitas de campo • Diagnósticos • Formulación de proyectos • Conformación de EFIS • Recepción de proyectos • Inauguración • <i>Capacitación y fortalecimiento</i> | <ul style="list-style-type: none"> • Promotores rurales • Delegado • Coordinador regional | <ul style="list-style-type: none"> • Presidente de los COCODEs • Comunidad en general | <ul style="list-style-type: none"> • Depende de la etapa del proyecto |

FUNDAP

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|--|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Asistencia técnica agrícolas y pecuarios | <ul style="list-style-type: none"> • Técnico y promotores agropecuarios | <ul style="list-style-type: none"> • Personas individuales • Grupos organizados | <ul style="list-style-type: none"> • Todo el año |
| <ul style="list-style-type: none"> • Comercialización (apoyo) | <ul style="list-style-type: none"> • Asiste de comercialización | <ul style="list-style-type: none"> • Productores organizados | <ul style="list-style-type: none"> • En época de cosecha y post-cosecha |
| <ul style="list-style-type: none"> • Asistencia crediticio | <ul style="list-style-type: none"> • Departamento de créditos (Ases de crédito agrícola y pecuario) | <ul style="list-style-type: none"> • Todos los usuarios de asistencia técnica | <ul style="list-style-type: none"> • En épocas de potencial producción de los cultivos (si producen con riego es todo el año.) |
| <ul style="list-style-type: none"> • Facilitación de insumos agrícolas | <ul style="list-style-type: none"> • Técnico agropecuario | <ul style="list-style-type: none"> • Beneficiarios de los programas agropecuarios inscritos (individuales y grupos) | <ul style="list-style-type: none"> • En época de siembra y periodo del cultivo. |
| <ul style="list-style-type: none"> • Proyectos de reforestación | <ul style="list-style-type: none"> • Técnico forestal • Promotor forestal | <ul style="list-style-type: none"> • Propietarios privados • Propietarios comunales • Propietarios municipales | <ul style="list-style-type: none"> • En época de verano (6 meses) • Mantenimiento todo el año |

| | | | |
|--|---|---|--|
| • Organización social | • Técnico especializado en organización social | • Todos los miembros de la comunidad que quieren participar | • Cuando urge la necesidad en la comunidad (Disponible todo el tiempo) |
| • Proyectos eco-turisticos | • Técnico en proyectos ambientales y coordinador de proyectos | • Grupos organizados legalmente | • Cuando urge la necesidad en la Comunidad (Disponible todo el Tiempo) |
| • Capacitación en temas ambientales | • Todos los técnicos agropecuarios y forestales (Gerente y coordinador de proyectos) • Promotores forestales y agropecuarios | • Todos los comunitarios interesados | • Todo el tiempo (cuando hay necesidades y solicitudes) |
| • Estructuras para crianza de animales (establos y gallineros) | • Técnicos • Promotores agropecuarios | • Beneficiarios individuales y grupales | • En época de verano principalmente |

<ONGs>

FAFIDESS

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|---|--|--|
| • Proporcionamos crédito a grupos de mujeres que realizan actividades micro empresarial | • Técnicos especializados en crédito | • Micro-empresarios • Micro-productoras | • Permanentemente |
| • Capacitamos en temas administrativos y técnicos para la microempresa. • Fortalecemos la organización comunitaria | • Capacitadores con especialidad en metodologías anpragógicas • Facilitadores contratados por especialidad | • Grupos organizados de mujeres | • Permanentemente |
| • Comercialización de productos artesanales | • Encargados de producción con especialización (calidad, medio ambiente) | | |
| • Para saber las necesidades de las comunidad: - Contacto liceres comunitarios, lideres religiosos, municipalidad | • Técnicos de capo local • Personal administrativo y ejecutivo • Personal de campo local | • Grupo objetivo con estudios de pre-factibilidad económica y social | • Permanentemente |

| | | | |
|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> - Plan piloto regional - Mapa de la pobreza - Estudio de la comunidad (diagnóstico) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Seguimiento: <ul style="list-style-type: none"> - Visitas comunitarios - Visita a oficina de las entidades - Formularios de impacto - Evaluación e informes | <ul style="list-style-type: none"> • Personal administrativo | <ul style="list-style-type: none"> • Visitas y evaluación de impacto | <ul style="list-style-type: none"> • Frecuentement |

<Empresas Privadas>

REINSA

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|--|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Seguridad alimentaria | <ul style="list-style-type: none"> • Ejecutores • Encargo del proyecto | <ul style="list-style-type: none"> • Juntas directivas de organizaciones comunitarios | <ul style="list-style-type: none"> • Mensual |
| <ul style="list-style-type: none"> • Consultorías estudios y ejecución de proyectos | <ul style="list-style-type: none"> • Gerente del proyecto • Consultores y ejecutores | <ul style="list-style-type: none"> • Juntas directivas • Lideres comunitarios | <ul style="list-style-type: none"> • Semanal |
| <ul style="list-style-type: none"> • Apoyo y fortalecimiento a las organizaciones | <ul style="list-style-type: none"> • Ejecutores • Trabajadores sociales | <ul style="list-style-type: none"> • Lideres y comunitarios • Pobladores o grupos sociales | <ul style="list-style-type: none"> • Depende de tipo del proyecto |
| <ul style="list-style-type: none"> • Alianzas estrategias | <ul style="list-style-type: none"> • Gerente General • Junta directiva | <ul style="list-style-type: none"> • Empresas con fines complementarios • ONGs con fines complementarios • Jefe de programas del gobierno • Jefe de programa cooperación internacional | <ul style="list-style-type: none"> • Depende de los convenios o contratos firmados |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para saber las necesidades de las comunidad: - Diagnósticos rural participativo | <ul style="list-style-type: none"> • Equipo | <ul style="list-style-type: none"> • Lideres • Grupos de interés | <ul style="list-style-type: none"> • Una vez evaluación ex-ante |
| <ul style="list-style-type: none"> • Seguimiento | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador de monitores, Evaluación y seguimiento | <ul style="list-style-type: none"> • Beneficiarios de los proyectos | <ul style="list-style-type: none"> • De acuerdo de la planificación el proyecto |

<Asociaciones de Productores>

AMDIS, San Antonio Ixchigual

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Asistencia técnica en agricultura y pecuaria • Capacitaciones | <ul style="list-style-type: none"> • Socios • Promotores | <ul style="list-style-type: none"> • Socios | <ul style="list-style-type: none"> • Mensual |
| <ul style="list-style-type: none"> • Reuniones | <ul style="list-style-type: none"> • Todos los miembros de la comunidad | <ul style="list-style-type: none"> • Los miembros del grupo | <ul style="list-style-type: none"> • Anual • Depende de la demanda |

Organización “Ajtikonel”

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|--|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Elaboración de abono orgánico • Capacitaciones, talleres • Filtración de agua servida • Huertos familiares en organopónico • Aljibes • Conservación del suelo • Reforestación • Artesanía • Elaboración de concentrados con la bicimaquina • Crianza de pollos de engorde de tipo micro empresa | <ul style="list-style-type: none"> • Promotores de campo • Coordinador de programas de proyectos | <ul style="list-style-type: none"> • Comités • Autoridades locales • Líderes de las comunidades • Comunidad en general | <ul style="list-style-type: none"> • Depende de la etapa del trabajo o proyecto • Normalmente cada quincenal se hacen visita con diferentes grupos. |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para saber las necesidades de las comunidad: <ul style="list-style-type: none"> - Diagnóstico - Visita previa - A través de solicitudes de las comunidades hacia la organización | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Para el seguimiento: <p>La experiencia de la comunidad</p> <ul style="list-style-type: none"> - Evaluación - Monitoreo - Comunidades - A través de POA | | | |
|--|--|--|--|

ASOMAM (Asociación Mam de agricultores para el desarrollo integral), San Sebastián

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Siembra y cosecha y comercialización de arveja china | <ul style="list-style-type: none"> • Socios • Junta directivo • Coordinador | <ul style="list-style-type: none"> • 100 agricultores | <ul style="list-style-type: none"> • 3 cosechas al año |
| <ul style="list-style-type: none"> • Capacitación sobre manejo de los insumos | <ul style="list-style-type: none"> • Técnico | <ul style="list-style-type: none"> • Por grupos organizado de agricultores | <ul style="list-style-type: none"> • Cada 15 días |
| <ul style="list-style-type: none"> • Capacitación sobre el aprovechamiento de los alimentos | <ul style="list-style-type: none"> • Facilitadora | <ul style="list-style-type: none"> • Mujeres socias de la ASOMAM (150 mujeres divididos en 10 grupos) | <ul style="list-style-type: none"> • Cada 15 días cada grupo |
| <ul style="list-style-type: none"> • Capacitación sobre créditos | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinadora de créditos | <ul style="list-style-type: none"> • Hombres agricultores de la arveja china | <ul style="list-style-type: none"> • Cada mes |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para saber las necesidades de las comunidad: - Diagnóstico de la comunidad | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para el seguimiento: - Monitores | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador de ASOMAM | | |

Asociación de Papicultores de San Juan Ostuncalco

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Siembra y cosecha de papa y hortaliza orgánica • Búsqueda de mercado nacional y introducción del producto • Comercialización del producto | <ul style="list-style-type: none"> • Socios | <ul style="list-style-type: none"> • 2,000 papicultores organizados | <ul style="list-style-type: none"> • Reunión cada 15 días • Permanentemente |

| | | | |
|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Centro de acopio para comercialización | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para saber las necesidades de las comunidad: - Reunión para conocer los problemas - Analizamos - Provisores | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para el seguimiento: La experiencia de la comunidad | <ul style="list-style-type: none"> • Junta Directiva • Apoyo del alcalde municipal | | |

Movimiento “Tsuk Kim Pop”

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|--|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Información, capacitación • Asistencia técnica y crediticia • Investigación –sistematización • Promoción de organización • Incidencia • Asesoría y acompañamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinadores de programas • Técnicos • Promotores | <ul style="list-style-type: none"> • Grupos socios rurales: a) Asociación b) Cooperativas c) Comadronas d) Aldeas comunales e) Alcalde municipales-gobierno f) Maestros g) Estudiantes h) Junta de padres de familia i) COCODEs, COMUDEs, CODEDE j) Lideres comunales | <ul style="list-style-type: none"> • Con grupos socios rurales: -Reunions conjuntos directivos-quincenal • Talleres: bimensualmente • Monitore. Cuatro veces al mes • Asesoría y acompañamiento a requerimiento: |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para saber las necesidades de las comunidad: - Diagnósticos comunitarios y municipales - A través de solicitudes de las comunidades hacia la organización | <ul style="list-style-type: none"> • Personal técnico • Promotor | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para el seguimiento: La experiencia de la comunidad - Visión de proceso. | | | |

Asociación de Fruticultores, Comitancillo, San Marcos

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Organización de grupos • Recolección de semillas de durazno • Recolección de semillas forestales • Hecha de semilleros frutales y forestales • Trasplante de arbolitos frutales y forestales • Siembra a campo definitivos forestales y frutales • Inyecciones • Podas • Mantenimiento de plantaciones y saneamiento de plantas en viveros • Conservaciones de suelos | <ul style="list-style-type: none"> • Grupos comunitarios <ul style="list-style-type: none"> ✧ 85% mujeres ✧ 15% hombres | <ul style="list-style-type: none"> • Aldea Tuidxxx • Aldea Taltimiche • Caserio Togcheche • Caserio Ixmoco • Caserio San Pable • Caserio Piña Flor • Aldea Tuxoquel • Total 16 grupos, 412 socios activos | <ul style="list-style-type: none"> • Capacitaciones y demostraciones a socios organizados a cada 15 días, Supervisiones de campo |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para saber las necesidades de las comunidad: - Diagnóstico a socios en las comunidad en sesiones o visitas | <ul style="list-style-type: none"> • Promotores de campo • Lideres de grupo comunitarios | <ul style="list-style-type: none"> • Comunidades de donde están los socios | <ul style="list-style-type: none"> • Antes de planificar proyectos y terminar proyectos |
| <ul style="list-style-type: none"> • Seguimiento: promotores de la institución | <ul style="list-style-type: none"> • Promotores en la institución • Lideres comunitarios | | |

I-98

“Mujeres para el Desarrollo” Aldea Panyebar, San Juan La Laguna, Sololá

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Convocar a la comunidad para diagnosticar, analizar los problemas existentes y elaborar proyectos. | <ul style="list-style-type: none"> • 5 miembros de la directiva • Participación de todas las socias | <ul style="list-style-type: none"> • La promotora de alfabetización y de hogares comunitarios. | <ul style="list-style-type: none"> • Los miembros de la directiva en forma rotativa. |
| <ul style="list-style-type: none"> • Informar a la comunidad de los procesos en las solicitudes de los proyectos o dificultades que se presentan. | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinadores o delegados de instituciones. | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Apoyar más a las mujeres de bajos recursos. | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Limpieza del ambiente. | <ul style="list-style-type: none"> • Comité de Medio Ambiente. | | |

| | | | |
|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Buscar ayudas para hacer hortalizas, crianza de pollos, estufas mejoradas, introducción de agua potable suficiente. | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Visita al docente e informes a padres de familia sobre el rendimiento académico | <ul style="list-style-type: none"> • Comité de educación. | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para saber las necesidades de las comunidad: <ul style="list-style-type: none"> - La experiencia de la comunidad - Dialogo y puesta en común de los problemas - Análisis y comparación con otras comunidades y ciudad | <ul style="list-style-type: none"> • Toda la comunidad: <ul style="list-style-type: none"> ➤ Directiva. ➤ Socias. | <ul style="list-style-type: none"> • Directiva • Socios • Personal médico a cada mes | <ul style="list-style-type: none"> • A cada mes se hacen visitar de casa en casa para informar al personal médico los resultados. |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para el seguimiento: La experiencia de la comunidad - Comité de vigilancia y la responsable de la junta directiva de la comunidad - Visita mensual a la comunidad con el apoyo del comité de vigilancia - Pesar a los niños. - Receta médica o vitaminas | <ul style="list-style-type: none"> • Toda la comunidad: <ul style="list-style-type: none"> ➤ Directiva. ➤ Socias. • Madres de familia • Personal médico | | <ul style="list-style-type: none"> • Cada mes se presenta el informe al personal médico. • La junta directiva convoca a los socios cada semana. |

Asociación de agricultores ADAT

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|--|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Siembra y cultivos de hortalizas: haba, zanahoria, para, tomate chile pimiento | <ul style="list-style-type: none"> • Técnicos profesionales y locales | <ul style="list-style-type: none"> • Agricultores con parcelas con mini-riego | <ul style="list-style-type: none"> • Semanal |
| <ul style="list-style-type: none"> • Construcción de invernaderos | | <ul style="list-style-type: none"> • Agricultores con parcelas con mini-riego | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Cultivo de café y aguacate inyectado variedad "JASS" | | <ul style="list-style-type: none"> • Agricultores con parcelas sin riego | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Asistencia técnica: vivero forestal | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Reforestación de parcelas • Mantenimiento de áreas protegidas | | <ul style="list-style-type: none"> • Agricultores con parcelas sin riego | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Mercado del producto | <ul style="list-style-type: none"> • Junta directiva y gerencia | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Implementación de nuevos cultivos específicamente en hortaliza | | | |
|--|--|--|--|

Comunidad de Xeatzan Bajo Patzun

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Movimiento del proyecto de riego • Siembra agrícola con sus agricultores | <ul style="list-style-type: none"> • Directivos • Coordinar necesidades • Las horas de riego de cada parcela o sector | <ul style="list-style-type: none"> • La comunidad recibe apoyo de JICA y MAGA | <ul style="list-style-type: none"> • Dependiendo de la necesidad nos visitan una vez al mes y reuniones |

??

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|--|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Solicitar ampliación de un depósito de agua para ampliación del vital líquido • Solicitar ayuda en beneficio de las mujeres y niños • Solicitar de ampliación de una escuela • Solicitar pavimentación de nuestras calles • Acreditar a nuestras mujeres en la documentación de cédula y empadronamiento | <ul style="list-style-type: none"> • Consejo Comunitario de Desarrollo con los miembros de nuestra comunidad • Miembros del COCODE hace los trámites para solicitar los fondos para llevar nuestros proyectos que necesitamos | <ul style="list-style-type: none"> • Comunidad conjuntamente con el COCODE | <ul style="list-style-type: none"> • Sí para tener los proyectos necesarios |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para saber las necesidades de la comunidad: <ul style="list-style-type: none"> - Haciendo una llamada a la comunidad a una asamblea general - Escuchando a cada miembro la necesidad que él manifiesta | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Seguimiento: <ul style="list-style-type: none"> - Ante nuestras autoridades como la municipalidad y presentándolos a los consejos regionales | | | |

<Municipalidades y Consejos de Desarrollo>

COMUDUR, San Marcos

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Diagnosticar en las comunidades • Estudios de factibilidad de los proyectos • Capacitaciones • Gestión de recursos • Fortalecimiento a la participación ciudadana • Exanimaciones de trabajo | <ul style="list-style-type: none"> • Comisiones • Técnicas de la oficina municipal de Planificación • Coordinador (Alcalde municipal) | <ul style="list-style-type: none"> • COCODEs • Alcaldes auxiliares • Alcalde cantonales | <ul style="list-style-type: none"> • Permanentes. Conforme las necesidades de la comunidad |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para saber las necesidades de las comunidad: - Por medio de la reunión de las COCODEs en el COMUDUR (mensuales) - Investigaciones de campo | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para el seguimiento: - Por medio de las comisiones - Por medio de las COCODEs - Por medio de las autoridades de la comunidad | | | |

Municipalidad, Quetzaltenango

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Conformación de COCODEs | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador • Técnicos asesores | <ul style="list-style-type: none"> • Líderes comunitarios | <ul style="list-style-type: none"> • Eventual |
| <ul style="list-style-type: none"> • Capacitación de COCODEs en temáticas organizacionales, educativas, salud, seguridad, etc. | <ul style="list-style-type: none"> • Apoyo institucional, OGs • ONGs, organizaciones civiles | <ul style="list-style-type: none"> • Representantes de COCODEs | <ul style="list-style-type: none"> • Una vez por mes |
| <ul style="list-style-type: none"> • Priorización de proyectos | <ul style="list-style-type: none"> • Técnico asesor rural | <ul style="list-style-type: none"> • Asamblea comunitaria | <ul style="list-style-type: none"> • Bianaual |
| <ul style="list-style-type: none"> • Gestión y seguimiento de proyectos de infraestructura y productivos | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador y técnicos asesores | <ul style="list-style-type: none"> • Representantes comunitarias | <ul style="list-style-type: none"> • Eventual |
| <ul style="list-style-type: none"> • Organización, capacitación y asesoramiento de COMUDE | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador y técnicos asesores • Alcalde municipal | <ul style="list-style-type: none"> • Representantes de COCODE | <ul style="list-style-type: none"> • Una vez por mes |

| | | | |
|---|---|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> • Miembros del consejo municipal | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • Apoyo, asesoramiento y coordinación a alcaldes comunitarios | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador y técnicos asesores | <ul style="list-style-type: none"> • Alcaldes comunitarios | <ul style="list-style-type: none"> • Una vez por mes |
| <ul style="list-style-type: none"> • Coordinación institucional | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador | <ul style="list-style-type: none"> • Representantes de COCODEs • Alcaldes comunitarios • Representantes de comités | <ul style="list-style-type: none"> • Eventual |
| <ul style="list-style-type: none"> • Jornadas de apoyo, educación, salud | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador y técnicos asesores | <ul style="list-style-type: none"> • Población escolar, grupos de vecinos y vecinas | <ul style="list-style-type: none"> • Eventual |
| <ul style="list-style-type: none"> • Diagnóstico comunitario y solicitudes | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador y técnicos asesores | <ul style="list-style-type: none"> • Asamblea comunitaria | <ul style="list-style-type: none"> • Bianual y permanente |
| <ul style="list-style-type: none"> • Seguimiento | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador y técnicos asesores | <ul style="list-style-type: none"> • Representantes comunitarias | <ul style="list-style-type: none"> • Sin cronograma |

Comité Pro-desarrollo Local

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Adquiramiento | <ul style="list-style-type: none"> • Municipalidad • Foquavi • Empresa xxx municipal • MAGA | <ul style="list-style-type: none"> • Miembros del comité • Miembros del comité xxx | <ul style="list-style-type: none"> • |
| <ul style="list-style-type: none"> • Adquiramiento de agua potable y Drenaje | <ul style="list-style-type: none"> • Comunidad • Municipaidad • XXX | <ul style="list-style-type: none"> • Comité y vecinos | <ul style="list-style-type: none"> • Una vez por semana |

COCODE, San Marcos

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|--|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Priorizar los proyectos conforme las necesidades • XX los perfiles de los proyectos • Participan en las reuniones mensuales de COMUDEs • Realizar asamblea en la comunidad para informar y tomar decisiones | <ul style="list-style-type: none"> • COCODE • Auxiliatura • Comisiones de los diferentes sectores | <ul style="list-style-type: none"> • Alcalde auxiliar • Lideres de la comunidad • Asambleas de vecinos | <ul style="list-style-type: none"> • Conforme la necesidad de la comunidad • Reuniones semanales o quincenales |

COCODEs, Quetzaltenango

| ¿Qué actividades hace a nivel comunitario? | ¿Quién de su organización llega la comunidad para trabajar? | ¿Quién de la comunidad participa? | Frecuencia de visitas a las comunidades |
|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • Elaborar y presentar proyecto | <ul style="list-style-type: none"> • Co-ayuntamiento con los coordinadores | <ul style="list-style-type: none"> • Vecinos interesados | <ul style="list-style-type: none"> • De acuerdo a la prioridad de la necesidades |
| <ul style="list-style-type: none"> • Sesiones ordinarias | <ul style="list-style-type: none"> • Junta directiva | <ul style="list-style-type: none"> • Vecinos en sesiones extra-ordinarioas | <ul style="list-style-type: none"> • Semanalmente |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para saber las necesidades de las comunidad: - Charlas con vecinos - Visitas a la comunidad | | <ul style="list-style-type: none"> • Vecinos e integrantes de COCODEs | <ul style="list-style-type: none"> • De acuerdo a las necesidades |
| <ul style="list-style-type: none"> • Para el seguimiento: | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinador General | | |

Sesión 5: Colaboración entre los Actores Involucrados en el Desarrollo Rural

<Ministerios e Institutos>

MAGA

| ¿Con quién colabora? | ¿En qué forma colabora?--¿Qué? y ¿Cómo? |
|--|--|
| Ministerio de Salud Pública | • Vigilancia epidemiológica, de respuestas, o rastros |
| ICTA | • Coordinación—investigación, exención agrícola |
| INAB | • Coordinación—manejo de conservación de RR. NN. |
| MARN | • Coordinación—impacto ambiental |
| ONG (CEDEPEM, CADISOGUA, CODINO, etc.) | • Ejecución de proyectos de desarrollo rural |
| Asociaciones y cooperativas | • Ejecución de proyectos de desarrollo rural |
| MINEDUC | • Ejecución de proyectos de sanitaria |
| CODEDE | • Análisis de presupuesto de asignados proyectos • Estrategia de reducción a la pobreza |
| FIS | • Proyectos de infraestructura y productivos y alimentos por trabajo |
| FONAPAZ | • Proyectos productivos |
| CONRED | • Ejecución de plan de contingencia • Prevención y mitigación de desastres naturales |
| Gobernación | • Cordinación de comisión fondos sociales • ERP |
| Municipalidades | • Coordinación programa fertilizante |

ICTA

| ¿Con quién colabora? | ¿En qué forma colabora?--¿Qué? y ¿Cómo? |
|--|---|
| MAGA | • Planificación y coordinación a nivel departamental en CODEP. • Atendemos demanda: semillas, capacitación, etc. |
| Asociaciones, Cooperativas agropecuarias | • Planificación, elaboración y ejecución de proyectos - Proyectos productivos - Generación y validación de tecnología - Promoción de tecnología - Capacitación - Asistencia técnica - Asesoría técnica • Co-ejecución de proyectos |
| ONGs | • Planificación y co-ejecución de proyectos |
| Empresa privada | • Demanda específica de proyectos • Demanda de productos y tecnología |
| OGs (INTECAP, Municipalidades) | • Capacitación y promoción de tecnología |
| Cooperación internacional: FAO, AID, BM, BID | • Gestión de financiamiento para ejecución de proyectos e investigación |

MINEDUC

| ¿Con quién colabora? | ¿En qué forma colabora?--¿Qué? y ¿Cómo? |
|----------------------------------|---|
| Ministerio de Salud | <ul style="list-style-type: none"> • Campañas de vacunación y desparasitación, estableciendo calendarios de vacunación y desparasitación. • Desarrollo de hábitos de higiene, desarrollando jornadas de sensibilización con estudiantes y padres. |
| Ministerio de Agricultura e INAB | <ul style="list-style-type: none"> • Programa de alimentos y campañas de capacitación y reforestación, a través de la selección de centros edativos, y de calendarios y áreas de reforestación. |
| FUNDAP | <ul style="list-style-type: none"> • Establecer convenios, autorización de nuevos centros y capacitación, especificando compromisos, realizándolo estudios de pre-factibilidad y ejecutando capacitaciones. |

<Fondos Sociales>

FIS

| ¿Con quién colabora? | ¿En qué forma colabora?--¿Qué? y ¿Cómo? |
|-----------------------------|--|
| FONAPAZ | <ul style="list-style-type: none"> • Se coordina el trabajo y la inversión para que no exista duplicidad de esfuerzos. |
| CODEDE | <ul style="list-style-type: none"> • Idem. |
| INFOM | <ul style="list-style-type: none"> • Idem. |
| MICIV | <ul style="list-style-type: none"> • Idem. |
| MINEDUC | <ul style="list-style-type: none"> • Requerimos de ellos un compromiso de cubrir con maestros en el caso de construcción de escuelas. |
| Ministerio de Salud | <ul style="list-style-type: none"> • Requerimos de ellos un compromiso de que cubran con enfermeras o enfermeros en el caso de salud. |

<ONG>

OPD (Organizaciones para el Desarrollo)

| ¿Con quién colabora? | ¿En qué forma colabora?--¿Qué? y ¿Cómo? |
|-----------------------------|--|
| MAGA | <ul style="list-style-type: none"> • Gestión, preinversión, inversión, ejecución • Capacitación, supervisión, seguimiento y evaluación |
| FIS | <ul style="list-style-type: none"> • Ejecución proyectos productivos • Capacitación |
| COCODEs, COMUDEs y CODEDEs | <ul style="list-style-type: none"> • Gestiónm, preinversión, ejecución y capacitación, DRP (Diagnóstico Rural Participativo) |
| Asociaciones de productores | <ul style="list-style-type: none"> • Idem. |
| MINEDUC | <ul style="list-style-type: none"> • Capacitación y asesoría de los COEDUCAS |

<Asociaciones de Productores>

| ¿Con quién colabora? | ¿En qué forma colabora?--¿Qué? y ¿Cómo? |
|-----------------------------|--|
| FIS | <ul style="list-style-type: none"> • Equipamiento de centro de salud |
| SOSEP | <ul style="list-style-type: none"> • Atención a estimulación temprana de 0 a 5 años |
| Fundación Azúcar (ONG) | <ul style="list-style-type: none"> • Talleres y pláticas sobre solicitud de proyectos |
| FODESAR (ONG) | <ul style="list-style-type: none"> • Proyecto de ovejas y préstamo |
| MAGA | <ul style="list-style-type: none"> • Charlas educativas |

| | |
|-------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> • Coordinación y asesoría técnica, capacitaciones (Planteado pero aún no – Donación de plantas frutales – Con PROFRUTA). • Coordinación con JICA en el mismo proceso (que mencione abajo) • Estudios-Análisis de suelo |
| ICTA | <ul style="list-style-type: none"> • Charlas educativas • Asesoría y mejoramiento de semillas de maíz |
| JICA | <ul style="list-style-type: none"> • Cursos de proyectos de riego • Asistencia técnica en el parcela |
| ASOCUCH y PROCUCH | <ul style="list-style-type: none"> • Financiamiento para sostener al personal técnico y asesoría técnica forestal, social, auxiliar al personal administrativo • Proyectos: Agrícola, reforestación |
| SIESA | <ul style="list-style-type: none"> • Conseguir mercado internacional |
| INAB | <ul style="list-style-type: none"> • Asesoría y financiamiento de reforestación y áreas protegidas |

<Consejos de Desarrollo>

COMUDUR

| ¿Con quién colabora? | ¿En qué forma colabora?--¿Qué? y ¿Cómo? |
|----------------------|---|
| COCODEs | <ul style="list-style-type: none"> • Priorizando proyectos • Buscando instituciones ejecutoras • Recibir capacitaciones de varias instituciones: JICA, FIS, DD. HH., MAGA, etc. • Colaborar con el gobierno local |

COCODE

| ¿Con quién colabora? | ¿En qué forma colabora?--¿Qué? y ¿Cómo? |
|----------------------|---|
| Las comunidades | <ul style="list-style-type: none"> • Levantar censos • Diagnósticos • Elaboración de perfiles • Solicitar proyectos: salud, educación, saneamiento, ambiental, cultura, etc. • Colaborar con COMUDE • Apoya el gobierno local |